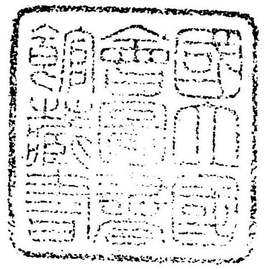
東方策結論艸案 上

319.2
I374t2



東方策結論草案上

目次

第一章
緒言
第二章
列國の間に獨立する邦家必ず對外の策なかる可らず——現今英魯佛の對外策
第三章
對外策の意義——三大對外策相互の關係を論ず——例を十九世紀の大勢及ひ四
德那破翁歷山王の大策に證し又之を近世史に徹して我國對外策は商工業對外策
を第一着に確立し而る後政治對外策上に及ふべきを論ず
第四章
世界商業の大勢及ひ我國の之に對する位地——東洋商業の大勢及ひ我國の之に
對する位地——第廿世紀に於ける我國の位地形勢希望運命——我國商業對外策

国立国会
25.12.4
図書館

218994

の大本――商業對外策と工業對外策とは二名一躰

第五章

我國工業對外策の大本――歐米各國に於ける我工業對外策――東南洋諸國に於ける我工業對外策

第六章

商工業對外策上の國策

第一航路

國有航路――占取の緩急――海陸兩路連絡の必要――船舶噸數を制限すること――新航路發見者に年數を限り其新航路を特有せしむること

第二　港灣――國港州港縣港を區別すべき事――資格調査委員組織案――國港撰定私見――特別輸出港改正意見

第三　運河――太平洋と日本海との間に於ける運河――當今の運河問題

第四　鐵道電信――東洋郵便路に於ける鐵道は廣軌ならさるべからず――亞米利加西比利亞に架設する東西二大電線

第五　商業中心點――問屋の位置――支店の配置――日本商人の販路に對する思想

第六　市場開拓策――非放任論――全世界をして我國は全世界無比の美術國たるを確認せしむる事――商品陳列所と工業參考館設立――商業交際官を置くこと及ひ領事館の配置――禮服改良論

第七　工業中心點――工業區及ひ工業主府規畫の必要――工業中心點――對歐米工業中心點は九州に在る理由――農業策――對東南洋工業中心點は我國にあらずして單に製造國たること並に我國紡績所沿革史――電氣使用製造――對東洋工業の種類並に著手順序――石炭將來の景況

第八　國民教育――商業學校――工業學校――航海學校

第七章

政治對外策――覇權の勢を制せされは其實擧らず――歐洲の大勢を論して東洋の大勢に及ふ――政治對外策の大本

第八章

政治對外策上に於ける國策
第一　海軍――海軍大礎確立策――海軍々制論――海軍上に於ける地勢――
　　海軍養實策
第二　陸軍――國策的軍略――東洋將來の戰場――陸軍大礎確立策
第三　萬國公法――萬國公法上の日本――東洋の歐米に對する萬國公法上に
　　於ける日本の責務――條約改正策
第九章
結論
附錄
第一　柯太千島の東洋の大勢に於ける位置
第二　巨文島の占領に對する日本の政策
第三　台灣大島の東洋の大勢に於ける位置

東方策結論艸案上

稻垣滿次著

田中藏書

第一章　緒言

眼を東西の歷史に晒らし熱々古今の遷移を詮考するに大塊球上に於ける形勢の轉運は寃是れ簷端の走馬燈の如し見よ十五世紀季代に於て彼の米國發見及び喜望峰航路の發見と共に地中海の大勢は雲移水逝し去り遂に大西洋時代となりしを今や西比利亞及び加那陀の鐵路全く成就し尼加剌瓦の運河事業も亦開けなば大西洋の大勢は猶ほ地中海の如く風雲遷し去り將さに大平洋時代の來らんとするは瞭々として千炬を燒きて照らすが如し是れ余既刊東方策に於て詳らかに之を論述せり。（東方策第一編第二編參照）然りと雖も這は單的に世界の大勢漸く我東洋に切迫し來るの現狀及我國の東洋に對する位地形勢希望運命を論せるのみ即ち古今の歷史を酌して現在將來を考定したるのみにて未だ之に對する所謂東洋策及ひ我國の對外策に於ける大礎石を据へ其大本に達すべき國策の如何に至りては毫も

論及する所なかりき是れ其初め余が第一編第二編を刊して江湖に公にせる盖し殆つ四千有餘萬の我同胞兄弟をして必至の勢を覺破し中夜衾を蹴て直ちに東洋策及び我對外策の大本を立て次て之が國策を經營し以て東洋及び世界に對する大日本帝國を堅造する國民的大精神を喚起するに在り然れども勢を述べ虚を誤ずるは易く策を立て實を占むるは難中の難事にして一朝の漫考以て説き得べき所にあらず若し夫れ不幸にも首途に於て一歩を誤らんが終に千里の大差を招くに至るや嫌容れず豈深重精究せさるべけん耶是を以て東方策結論即ち東洋及び日本に對する立策編論動にあらしとき其稿夙に脱せりと雖も上梓を躊躇せしなり盖し歐米人の日本及び東洋に關する記述は誤謬十中の七八を占む斯の如き歯牙の記述を基礎として我國策を立つるは決して安然なる事業にあらざるを知ればなり歸國以來新に材料を聚め調査を遂くるを得て以て此稿を訂正せんとを企圖したりしと雖も未た此等精確なる材料を得る能はさるのみならず其統計の類に至りては寧ろ過視を助くるに過きざるもの多し故に更に方法を變じ英國と其利害正反對にある各國政治家の東洋に關する意見其他の詳を撿したりしか多少新説を見さるにあらざりしも

亦悉く信ずるを能はず固て以爲く苟かも漫遊し之を實際に徴し而して余の意見の果して之と背反するあるを見ずんば即ち余が立策稍悉く之を世に公にするを得んと然るに此志今年一時に乗ずる能はず涼秋を期して南洋に航行し明年支那、朝鮮、西比利亞を漫遊するを決せしのみ故に今春四ヶ月間内國各地を遨遊して實見精査したる部分即ち日本策をのみ把て之を世に公にするとなれり然れども日本策と雖も單に存立するもののみならず東洋策と相互に關係關係連鎖して離るべからさるものなりとす故に漫遊の企圖悉く果せる後にあらされば之をも確定する能はず乃ち暫く未定稿として江湖に質し亞細亞大陸及び南洋諸島の漫遊を果せる後に於て校正増補するあるべし特に軍事編殖民編及び商工業上の市場開拓策の如きに至りては經其地を跋渉探究せさる以上は未た精算過たさるを期すべからさるを以て先ず大躰を述べ而して他日更らに之を完成するの期あるべし然らば何故に未完成のものを以て急に世に公にせるや盖し今日立策の事たる一日を遅るれば一日を空ふするのものにして一日を空ふするは他日千年三十年の長日月を空にするに同じ斯く夫れ立策の要求頗る急なるが故に僅かに先ず内

國のみに對する立策篇を上梓せるなり。此篇論述する所往々鎖細の末事に及ぶ。世人之を以て遽かに東方策の全部を批判せず。他日實檢踏査の後に於て、東洋及び日本かに據て以て卓立すべき正鵠の經綸を吐露するを待て月旦するあらば著者の幸而已

第二章　列國の間に獨立する邦家必ず對外の策をかるべからず——現今英魯佛の對外策

十九世紀の現代に於ける我日本帝國は、最早太平洋の東端に孤鎖獨對の日本帝國にあらず。正に是れ星羅碁布せる五大洲中に比隣介立する世界的日本帝國たる以上は、其世界に星羅碁布せる南北東西の諸外國に對して對外策を確立せんと欲せば、先ず之が不抜の大方針を決定確立せざるべからず。此等不抜の對外策は百年若くば二百年と雖も同一の方針を以て進むべきものにして朝變暮易の略にあらず。而して之か方針に隨從して進行する方法手段の如きは、皆一時の外交策にして尋常政治家の任すべき所なり。唯其對外策の大方針なるものの未た立たずんば、一時の外交策恐らくは行ふに由なかるべし。然らば我國の對外策は如何に確立せられたるか。竊くも世界の雄邦と稱するもの何れか此永久不動の立策な

かるべき。而して我國獨り未た之れあらさるなり。余輩歐洲各國の形勢を察するに、英國は英國の對外政策あり、佛國は佛國の對外政策あり、皆此永世對外策を立てゝ以て一國の國勢國權を維持するあり。見よ彼の英國東方政策の如き、既に百年前に於てウヰリアム、ピットピット出てゝ之が緒を發し、其方針今日に至りて尚ほ一變不變なるにあらすや。即ち英は土耳古を助けて之を藩屏となし、以て魯國の南下せんとするを防遏するの策是なり。一千七百九十年、ピットの之を行はんとするに當りては、人心皆之に反對して爲めに其破る所となりしを雖も、後英の此策に從ふや必ず勝ち然らずんば常に敗を取るを實驗し、カンニングも出でゝピットの立策を守り、更に歐洲各國連合して露國南下を防かざるべからすとの考を以て、歐洲協同政策（コンセルトヨーロッピアン）なるものを作れり。次に英國の外交官として出でたる彼のパーマスストンのバルカン半島に於ける外交政策も全くウヰリアム、ピットの政策に依り、露西亞をしてダニューブ河畔より一歩も出さしめさらんが爲に、ダニューブの河畔より退ぞけたり、後一千八百七十八年魯土難を携へ、土國の亡滅旦夕に迫りけるとき、サンステファノの條約によりて將さにイヲアン海邊にまで出で來らんとせし魯國を

抑〻外交問題に其名を轟したるものはビーコンスフィールド侯なりとす。是伯林會議によりて魯國を排し土耳古を助けて魯の南下を防かんとしたるものなり。又當時の宰相サー！ヲスバルト侯昨年七月東方問題を論して曰く

今東方問題を見れは。東歐羅巴に於てバルガリヤ及び埃及の非常の進歩に因りて。此難問題の漸く解けんとする者の如し。今埃及には賢王上にあり。其内政財政漸く整理し。バルガリヤの人民の進歩は著しく勇氣に富み義務を盡すの念强く。政治家又た其ステーツマン氏のあるあり。彼の小兒國は今や一飛非常の高度に達し。智識經驗共に至れるか故に。今は魯國の南下を防き東方問題も漸く此に解るべし。

而して英國は以爲らく土國は已に亡國なり。已國は魯國に對する藩屏となすに足らず。幸に勃のあるあり。是か國力を增し國勢を增し以て露西亞に當らしめんと。而して其魯國の南下を防くの永世對外策に至ては一なり。（東方策第一編附錄東歐之形勢）

百四十六頁より百四十九頁迄參照且つ近來英國女王の皇孫女を以てルーマニヤ皇太子妃配する約をなし若しくは英國皇太子の愛女を以てバルガリヤのスタデナンと王に嫁せしめんとするの風說の如きは。皆其藩屏を造らんとに外ならず。其他英

の印度に對し（東方策第二編九章參照）又は東洋に對して（東方策第一編第三十二頁より四十二頁及び六十五六頁參照）特に支那と連結せるの類は（東方策第一編四十八頁より五十一頁及び六十三四頁參看）魯の南下防遏の一策たるに過ぎざるなり。

佛國統る所の東洋政策の歷史を見るに。遂く英國が東洋に有する所の權力を殺かんとするに在らざるはなし。見よ彼のモーリシヤス占領は固より佛蘭西巡洋艦をして東印度を掠劫せしむるの意に出る者にして。路易十四世が援兵を安南に遣すや。廣東灣カヌカオ間の通路を截斷せんか爲めなりし。佛國東京の占領は英國に關係を及ぼすこと甚た重大の事件なり佛國の巡洋艦にして。東京の礦山より石炭の供給を受けて以て英國支那貿易の通路に橫ばり來らば。緬甸及びカルカッタの二地は固く封鎖せられ。英國の東洋に於ける屬地は。其れ必ず岌々乎として危地に就かん。而して此ヲルヘルの東方策たる。路易十四世の遺策に則りしものなり。吾師シャレ翁曰く。

是維那破籌が埃及政策以後未曾有の策なりと。

魯國の如きはペトル大帝の時。既に魯國を盛ならしむるの策唯海軍國たらしむるにあるのみとなし。其國位に即くや。今日全世界七分の一を占め一億万以上の人民を

有する魯國も、其時は僅かに二十六方五千英方里の疆土に過きずして、ポルチック海及び黒海の濱に於て一の港灣をも有せさりしが、歐洲他の諸國と盛んに交通對峙して國權を維持せんと欲せば、必ず海によらざるべからすとなし、北ポルチック海に出て終に今日のセントピータースボルグを建て、歐洲諸國を覗くべき窓を作りたり。故に今日にありても魯國に於て海軍省の如く壯大なるものあらざるなり。其後彼の英名あるカサリン二世も亦同一の政策により、更らに方向を轉じて北氷洋ルサック海に出づるを以て不得策となし、飜て黒海に出でんとセバストポリ、オラウヤを掠略し、進んで土のコンスタンチノープルを取らんとしたり。東方策第二編第二章參照)又魯が太平洋岸に西比利亞の地を擴め鐵道を布き烏剌潮斯德を拓き、敎を營をなして席暖かなるなきも實に東方策第一編三十八九頁參照)全くペートル大帝が對外策の遺志を繼たるものに外ならず。嗚呼魯國對外の政策百年殆んど一日の如し。豈雄大ならすや。

第三章　對外策の意義——三大對外策相互の關係を論ず——例を十九世紀の大勢及び匹德那破翁歷山王の大策に證し又之を近世史に徵して我國對外策は商工業對外策を第一着に確立し而る後政治對外策に及ふべきを論す

今や宇內に於て少しく雄邦視せらるゝ諸國は、皆各其對外策ありて着々歩を進め、互に勢を張らんとするの今日に方りて、唯我國のみ其大本未た定らざるを以て、現今外交政客の如きも今日行ふ所明日忽ち變じ、遂に歸着する所なく、恰も十字街頭の迷兒の如し。豈雄大ならすや。近來對外策なる思想漸く國民腦裏に浸潤之を口にせざるものなきに至れり。然りと雖も之を實にせざるものなきに至れり。然りと雖も國人の多數は唯對外策の名によりて政治上一時の外交策を以て此に盡くるとなし、甚たしきは條約改正を以て我かいはゆる對外策は之に關する問題に過きずと誤解するものあるに至れり。然れとも余が所謂對外策なるものは、決して斯る一時の小政策小手段を意味せるにあらず。則ち英の如く魯の如く佛の如く、我國が諸外邦に對し、百年二百年卓立經營すべき大本を畫するの謂にして、其範圍唯政治のみならずして商業對外策工業對外策の二を包含するものなり。此二を欠かず三全を得て始て我國の對外策此に確立せりといふとを得

べし。即ち此三個の點に於ける國利的大計を指して對外策とはいふなり。

此三種の對外策相互關係如何を仔細に研究し去る時は何れか其主にして何れか其客たるや。而して我國の最も急要なる立策は何れなるや明かならん。夫れ政治對外策なるものは外國に對して自國の國利を保護し損害を除去し競爭上更に之を擴張增進するにあり。然らば其主眼とする所謂國利なるものは何れより來るか。其本源は勿論商業工業の上になかるべからず。故に我國利の在る處は商業工業にして。政治對外策時外國に對して之を保護し。之を擴張するのみ。故に商工業は目的にして政治對外策は其方法手段なり。果して然らば我國の對外策を立てんと要せば先つ其根本目的即ち商工業上の對外策を確定して。然る後政治對外策に及ぶべきは固より至當の順序なりとす。何をなれば未た目的なくして方法手段の獨り確定すべき理由あらざればなり。語を換へて言へば商工業の對外策は對外策の勢なりといふを可なるを覺ふ。更に之をいへば商工業の全權を握るものは覇權の實を握り。政治の全權を握るものは覇業の形を握るに過ぎず。故に曰く對外策の實先つ立たずんば。對外策は立つべからずと。故に商工業の對外策はなほ彼の對外策

（プラットホーム）の如きものにして。十九世紀の大勢上に照し。且つ大凡百年の對外策を立てんが爲め焦心苦慮したる古來幾多政治家の着眼する所を見るも亦明かに證するに足る。

何をや十九世紀の大勢とはいふ。歐洲の中央に於ける獨伊澳三國の同盟は一千八百七十年佛蘭西ナポレオン三世盟主となりて形造せる對魯佛國政治的同盟。即ち政治上の對外策より立つる所の同盟なり。而して此同盟は昨年に至り更に六年間繼續の契約をあせしも。而も此政治上の同盟に比してなほ一層力ある同盟なかるべからざるに至れり。即ち各國其稅權を以て他國より輸入し來る貨物に重稅を加へ。商工業に於ける國利上の戰爭は日に益劇甚して。國利的戰爭と政治的戰爭との力の强弱を論ずべき時代となり來れり。且つ伊太利の如きに於ては政治同盟のために國費を要し。之に加ふるに國利的戰爭亦勝を制する能はざるより。今日其財政の困難實に言外にあるは人の知る所なり。而も其結果は終に三國同盟の破壞となり。三國同盟にして一朝破壞すれば全歐洲の平和は次て破裂せざるべからず。於是獨逸の宰相カプリヴィ伯は政治的戰爭は到底國利上の戰爭に勝を制すること能はずとて。墺、澳伊の三國其主

となり。ベルギー。スヰツルランド其他ベルカン半島の諸州を合して商業上の同盟を造ちんとしたり。是れ蓋し其目的とする所。政治上の三國同盟を國利的同盟に變するにあらずんば。三國同盟は長久持續すると能はずして。歐洲の平和は終に破裂に至るとを免れざればなり。昨年十二月獨乙宰相カプリヴィーは海關同盟案を議會に提出して曰く

此條約は政治上の點より見れば白耳義と瑞西とは。友國隣國たるの好みを以て一節に調和の希望に出でしに外ならず。然れども三國同盟に對しては稍異るあり。此條約は單に平和を維持せん爲めに結訂して他を蠶食せんとする意志毫頭あるなきも。我々が此の如き平和の同盟を結訂せる以上は。自國の同盟國と商戰をなすを得ず。故に我々の同盟國を強むるは。卽ち我國の國利を强むるなり。我々が如何に盡力するも。及我々の同盟國が如何に兵備を整理するも。若し斯る不幸の位地に立たば復た拯ふ可らずとの深慮より。三國同盟諸國が產物を交易する方策を發見して。歐洲平和の維持に就き刻苦して勉めたり云々と。其他十

是れ獨り歐洲中央の形勢のみ然るにあらず。十九世紀に於ける世界の大勢已に然るなり。昨年五月英國宰相ソールスベリー侯十九世紀の大勢を論じて曰く。

十六七世紀の時代にありては。國權毀傷王位繼續の問題のみにて國際交涉を起せしが。十九世紀の今日は。實際の利害得失にて。交涉を惹起すとをなれりと。

今日英米兩國間の如何を察するに。米は英の有せる全世界商工業の中心點を自國に取らんとし。英は之を米に讓らざらんとし。互に相角して。一は二十世紀に全世界覇權の實を奪はんとし。他は今日の狀態を長く自國に留集せんとし。東方策第一編附錄英米二國之商戰參照。世界の大勢既に斯の如く。我國對外の家策を立つ宜く國利的眼光を注きて。一時若しくば永久の對外策を案出すべき也。豈空聲虛威に迷顚すべけんや。漫りに空理に走せ。虛談に流れ。政治對外策立てざるべからずと狂呼する輩の如きは。十九世紀大勢の何たるを知らず。又覇權の實は何れに在るやをも解せざる。妄想漢に過ぎざる也。而して余輩の憂ふる所實に此に在り。

對外策を立るに當り古來政治家が着眼せる所を熟察するに。亦徒らに其心思を政治

的空名に費やしたるにあらずして商工業の國利的の實權にありしや明なり例へば英國の今日遂に世界の覇權を掌握するに至りし所以の政略を案するに百年以前既にピットの畫する所にして其佛蘭西に對し西班牙に對してなせる政策の如き或は財をクレアリッヂ大王に贈りて以て佛國に抗せしめ又千七百五十六年より七年間(セブンイヤールスチーア)佛國に對する戰爭に於ては米地より印度より佛人を放逐したる如き皆全世界商工業の中心を英國に聚めて宇内覇權の實を掌握する基礎を立てしものにあり龍動府廳内にピットの紀念碑あり文中記して曰く。

"Under his administration commerce had been united with and made to flourish by war."

實に此の如しピット以前に於ける戰爭は多くは是れ宗教の戰爭或權の戰爭のみなりしもピット出でゝ始めて商工的の利害と戰爭とを連着せしめ國利を以て目的となし戰爭せしかは遂に全世界商工業の中心を自國に吸收し今日の如く隆昌を極むるに至れり余嘗て教を受けし碩儒ロッシャース氏七年間の戰爭を論じて曰く。此め七年間の戰爭に於て英佛の兩國は互に全力を擧て相爭鬪し佛蘭西の如きは此の際に於けるか如く一國の興廢に關する大戰を爲したるとあらさるなり蓋ふ

たるピットの平和條約締結より其の後拿破翁が碧落縱橫大陸を侵掠したるまで。單竟歐羅巴の覇なる者は商權奪取の爭にして之を詳言すれば即ち今の大洋の全權を握らんと相競ひし者にして之か爭鬪に失敗したる者は其商業上の區域を縮めらるゝを以て例となせり七年戰の結局に於て佛蘭西は悉く其殖民地を失ひ其始めに當りて有せる北亞米利加及び印度の領地は以て英國を放國の廣狹を爭ふに足りしも其未造に於て亞米利加及び印度に於ての領地を悉く失ひたるの悲慘なる光景は當時を憑吊する者をして凄然たらしむるものあり。

佛國一世ナポレオンは世界の覇王たる政策も商工業の實權を手にするの外なきを知れり然れ共當時此實權は既に英國の手中に在りしを以て。ナポレオン單生の目的は唯英國を破るにあり蓋し英を破らずんば到底世界の全權を左右する能はさるを知れはなり彼の百万の大兵を驅驟して吶喊莫斯科に入りし當時ナポレオンの目的は北方各國にあらずして却て佛國と一海峽を隔てたる英國其物にありしなり何となれはナポレオンにして纔令歐洲大陸の全土を蹂躙し得るも若し英國を斃すこと能は

ずんば覇權を其手に握取すること能はさるを以て。先つ第一に歐洲各國をして英國と
の交通を絶たしめ。以て直接間接に歐洲大陸の貿易を遮斷せんとし。千八百六年遂に
其謀を伯林の宣言に發し。翌年美蘭の宣言に之れか實行を爲し。以て英國を枯魚の肆
上に曝らさんともくろみしが。魯國の之れが盟約に背てヘリゴラント灣を通して英國と
密貿易をなし。以てナポレオンの胸算を阻礙せもめしかば。ナポレオンは大に怒り。魯
國先づ屈さずんば英國を奈何ともするなしと思ひ。乃ち百万の軍兵を叱咤して東北
モスコーに向て討ち入りたるなり。東方策第二編第四十二頁又び第五十九頁參照千
七百九十八年ナポレオンは伊太利より進んで地中海のマルタを略し。轉じて埃及を
占領し。遂にシリヤを遠征し。猶一歩を進めて印度を襲撃せんとせしが。其主的は埃及
にあらずして。實に一海峽を隔てたる英國に在り。而
してマルタより埃及に出て。埃及より印度に入り。直ちに英國の富源を剿して。以て英
本國を衰弱せしむるを策もて。且つ佛國か印度に有せし所の土地を回復せんとした
るによる。蓋しナポレオンが一生の志業は全歐を席巻するにあり。而して英國を以て
之が中心點と視做し。四援の諸邦を指揮して以て根本なる英國を芟除せんとし。先つ

擾魯の二邦を討ち。二邦の財力を英國に藉りて。以て記れに敵するを讓め。普魯西を擊
ちて以て大陸と英國間の貿易を絶つの策を定め。英國に向て一の軍機を與へんと欲
し。西班牙葡萄牙を畧取して以て二邦が海上の形勢を利用し。其艦隊及び殖民地を將
て。以て妨害を英國に與へんとしたり。唯ナポレオンの立策に遺算とすべき事こそあ
れ。則ちナポレオン何故に全力を擧げて米國若しくは爰蘭土を擾かさりしか是なり。
這は兎る角るナポレオンか畢生の目的は。歐洲覇權の實たる。商工業の中心點を英國
より奪却せんとするにありしは。確として疑なきか如し。故にナポレオンは遂に嘆じ
て曰く。我をして英國海峽の主人公たるに等しと。其意蓋し六時間にして自由に海峽を渡るとを得。英國を破りて全世界
商工業の中心點を佛國に取るとを得ば。佛は世界の覇國なるとを得べしとなり。古代
アレキサンドル大王の地中海邊に於て當時商業の中心點を占有し隆盛其極に抵り
たるフェニシヤ人を破りたるは實にバザンチン帝國建立の大本なりとす。
以上敘し來り敘し去り。而して十九世紀の大勢上並びに古來政治家の着眼點より觀
察するに。何れも其力を覇權の實たる商工業上に致したるの跡は歷々爭ふべからさ

るなのあり。なほ之を近世史上に照すに、獨逸の建國以來國民をして常に其心思を商工業の上に注がしめ、伊太利は之に反して政治上に國力を費やせる。其結果は勿論國土の大小によりて一概に論ずべからずといへども、亦歐洲に於ける兩國勢力の大差を致せる原因の一ならずんばあらず。

されば我國の對外策を確立せんとするに於て東洋の覇權を握り世界の大勢を掴まんとするには、必ず先つ其の實たる商業對外策工業對外策等の大本を確立し、而る後此目的に達せんがために其方法手段として政治對外策に及ばざるべからず。故に余は第一に我國の商業對外策は如何に規畫すべきかを說き、第二に工業對外策を論じ、第三に政治對外策の如何を論ぜんとす。

第四章　世界商業の大勢及び我國の之に對する位地

東洋商業の大勢及び我國の之に對する位地形勢

世紀に於ける我國の位地形勢——我國商業對外策の大本——商業對外策とは一名一躰

現今我國商業上に於ける對外策を規畫定立せんと欲せば、先つ第一に世界商業の大勢を察し、第二に東洋商業の大勢を察し、第三に我國は第二十世紀に於て世界に對し東洋に對し如何なる位地形勢の中に坐居するかを明らめざるべからず。

夫れ世界商業の大勢とは如何なるものぞ。世界商業の大勢の如く、其上古にありては埃及バビロンニアシッヤ南亞剌比亞等に於て見るも同しく、貨物を人肩に荷ひ若しくは牛馬駱駝の背上に積み、相交換したりしは則ち一國と他國との間に行はれし商業にして是れ陸路利用の時代なり。然るに其貨物を運送して彼此相往來するの際、必ず其間に河流の橫はるに會すべし。而して當時の人は皆思へり、僅かに人肩を勞し牛馬を驅りて貨物を運搬せんよりは、河流を利用して舟を用ゐれば勞少なくして多量の貨物を送るの便あるべしと。此に於て人智一步進て河流利用の時代となり、ナイル、ユーフレッド、ゲンヂス等の河畔に貿易の盛なりしは耶を此時にして、我國に於ても東京を初めとし、大坂、廣島等皆河邊に建てられたり。已に人肩馬背若しくは駱駝の背に代ふるに便利迅速なる船舶の力を以てするが故に、一層商機の源をなして活動し來れり。然るに河流は其末必ず流れて內海又は潮水に注ぐを常とす。故に流を下りて河口を出づるに及びては更に其區域を廣めて海水を利用し

貨物の運搬の如きも專ら船舶によるとなり。我國中國內海の近傍の早く開けたる如きは則ち好適例にして世界中フヰニシヤ人カーセーヂ人の如き曾此類なり。下りてペザンチン帝國の當時コンスタンチノープルの盛大となり。黑海地中海商業の中心點となり。希臘時代にはアゼンス、コリンスの黑海地中海を利用して商工業の中心點を取り。更に下りて羅馬時代となり。ヴエニス、ローマ、ゼノア等交も起り。世界の商業工業の中心點を握りたりしか。(東方策第一編第百十八頁參照)其區域漸々西に向て擴張し。終に大西洋岸に達し。商工業の範圍は地中海濱の此方より太西洋の彼方に及ぶに至れり。然るに當時は社會規律の整頓せさるが爲め、海賊匪徒の橫行せるありて商賈往來の安然を害したりしかば。ゼルマン商人はハンス同盟會あるものを結びて其運動を全ふせんとを計り。ハーベックは其中心點となりブレメン、ハンバーグの如き盛榮また之に次き。なほ倫敦及びネーザーランドのブルージ等に及び內海利用の時期に於ける商業は此に其終りを告けぬ。

然るに是よりさき十五世紀の末に當りて。コロンブスは米地を發見しポルトガル人は喜望峰を過きて東洋に航路を發見せしより。(東方策第一編第百十九頁參照世界商

工業の區域は益張大し。大洋利用の時期となり一方は米の東岸を併せ。一方は亞細亞にまで其の手を伸ばせり。此に於て當時商工業の中心點なりしヴエニスは忽ち墮落して。大洋航海に長せる葡萄牙人和蘭人等漸く其勢を得。印度より航路の衝地に當れる。リスボンは其中心點を占むるに至り。又一方にては歐洲大陸の西海岸なる和蘭のアムステルダム、アントウオルプ等其頭角を露はし來り。終に歐米兩大陸の間に介する英國は此商工業の中心點を吸收せんとし。其政策は世界を一貫して海上の主權及商工業上の全利を壟斷すべしとなし。或は航海條例を發して和蘭を有したる運送的商業を蹂躙し。遂に其海軍を撲滅して全世界に於ける航海の主權を奪ひ。海上王たるの基を成し。(東方策第二編廿七頁參照)或はウヰリアム、ピットの世界の大勢に乘じて全世界の商工業中心點を我に致さんとするの策を施したるの類。實に英國が今日世界に覇を稱する所以の本源ならさるはなし。ナポレオンの歐洲席卷の餘勢を以てして之を如何ともする能はざりしを見れば。英國國力の如何を察するに餘師あるべし。

之を要するに世界商業的中心點は漸く東より西に移せる者なり。即ちペピロニアに

起りて希臘羅馬に轉し。伊太利の海岸に起き。西班牙葡萄牙を經て。北方アントワルプ或はゲントに歸し。終に英國に移れる者なり。蓋し英國が商業的中心點を取る所以は。其歐米兩大陸の間に介在して。地理上の形勝便宜を有するに因る乎。抑亦東西に推移して已まざる者は天の數なるに因る乎。

英國が世界商賣の中心を占めたるの次第は概略上に陳述するが如し。而もて近時四五十年間全く世界の商權を掌握せる者は英國なり。古來商賣中心の變遷せし所を調査するに。或は羅馬に或は希臘に。或は以太利に或は西班牙に。或は葡萄牙に或は和蘭に。常に變遷して止まざるは其の常情なれば。英國の掌握する所の商權も。他日他方に向つて變遷するや疑ふべからず。而して此中心點は何れに向つて變遷すべき乎。將た現時の政治家なるものは。如何なる手段を以て之れを自國に掌握せんと欲する乎。而して日本は如何なる準備を以て之れに應せんとする乎は。目下緊褒の問題なり。夫れ英國は歐羅巴大陸と亞米利加との中間に立つて。此兩大陸間の商權を制せり。然れども其地固より大西洋を隔てゝ廣大無邊の亞米利加に相對す。而して米國は入口の多き六千五百万の土地の廣き歐羅巴全洲の面積よりも大にして。就中合衆國加奈

太の如きは人文漸く開け。工業商賣共に隆盛に赴くを以て。商工業上に勝を持する決して困難の業に非されば。則ち將來或は紐育のリバプールを壓倒するを見るも亦測る可からざる也。特に合衆國裡の商工業益々西方に向つて擴張し。チカゴ府の如きは實に米洲に於て第二流に落ちざる所の大都府となれり。是れ實に明年萬國博覽會を開らく所とす。如此亞米利加が駸々として其歩を進め。遂に英國が有する商工業の全權を奪ふの雄圖を畫するや必せり。而して是よりして恐くは英國と亞米利加との間に商賣上競爭の端を開くべし。亞米利加は元來海陸軍備に注意せずと雖とも。英國は巨多の艦隊を備へ。又た航海の權を太西洋中に占む。以之亞米利加は政略上商權の競爭に勝を制せんと欲せば。專ら保護貿易の法を用ゐて。以て英國より輸入する所の製造品を減殺せしめ。從て內國の工業を奬勵して。遂に英國の輸入を防遏せば。其工業を興隆せしめて。以て英國を挫き。遂には英國の商業及び工業上の主權を亞米利加に奪ふを得べし。此事たる數年前より米國政治家の計畫する所にして。一昨年九月此政策を實行するに着手し。マッタン氏は海關稅議案を提出も。輸入品に一割二割三割の重稅を賦課する海關稅則を立て。以て當る

へかちさる英國の勢力に對して、一抵抗を試みたり。蓋し合衆國が之れが實行を策する前に當て、豫め自ら戒むる處あり。合衆國は歐洲に對し、商賣上殆んど關係を絶たんとするの形を示し、一方に於ては南亞米利加諸州と盛に商賣上の氣脈を通じ、高額の海關稅を賦課せすして互に相助け、而して、歐洲諸國の反對を受けて爲めに貿易を彼と營む能はさるに至れば、合衆國は決然として孤立し、敢て關係を歐羅巴諸邦に絶ち、南亞米利加と連合して、單に亞米利加のみを以て、商賣國を建つるの策を立たり。乃ち其聯合の諸州は南亞米利加巴西(ブラジル)智利の諸國にして前の國務大臣ブレーン氏の如きは南北二州を一貫すへき、大鐵路を布設せんとの壯計大畫をなせり。加之百尺竿頭更に一歩を進めて、英吉利の航海權を殺き了するの方策を運らせり。方策の主なる者は米國民を奬勵して太平洋及ひ太西洋の航路を開かしめ、政府より其船の噸數及ひ速力に應して保護金を與ふると是なり。而して之より發生する所の損害を蒙る者は英國最も甚しく、獨逸佛蘭西等凡て歐羅巴の諸國の亞米利加と通商するものは、皆其害を蒙らさる莫し。特に西班牙の如きは、彼のキューバ島を所領とするが故に、烟草輸入の杜に就て其害を受くること甚しく、キューバ島を以て亞米利加商業止の聯合内に編入せんことを商議するに至れり。此時に當りて前にも陳る如く、英吉利最も其害を蒙り、殆んと亞米利加の此政策に抵抗す可からさるに至りしかば、英國も此に至りて其有する所の工業及ひ商業の全權を亞米利加に奪れんとを恐れ、即ち之に對する方策を講せり。今其講する所を見るに、英國は北亞米利加に加奈陀と云ふ屬地を所有するを以て、先つ之を利用し、遂に加拿陀(カナダ)より濠洲を聯絡し、以て亞米利加の商業に對するの策を立てたり。加拿陀は十年前まて荒漠たる荒野なりしが、數年前太平洋鐵道の布設ありしより以來、茲に一國を形成せり。英國は、先本國より加拿陀迄航運を盛にし、加奈陀のハリハックスより鐵路、直に英領コロンビヤのヴァンコーバに達し、ヴァンコーバより更に二航路に分れ、一は日本支那及ひ香港朝鮮に至り、一はニューゼーランドより濠洲に航路を開くの目的を立てたり。而してマッケンナの稅關規則の出でしより以來、一層其の歩を進めて、日本支那加拿陀との間の航路の爲めに、年々六万磅の保護金を加拿陀及ひ英國政府より支出し、又太西洋と太平洋を通して濠洲に達する航路を保護する爲めに、加奈陀政府は十五万磅の保護金を會社に與ふることとせり。顧ふにマッケンナの海關稅則は英國に如何なる損を加へたる乎と云ふに、實は却

て利益を與へたるの傾無きに非す。第一に加奈陀は元來或は英國より離れて合衆國に附屬せんとするの恐ありしが。是に至て一致協合の念を强ふし。終始英國と事を共にするに至りしを是れなり。第二にニューゼーランド及ひ濠洲が英國の一部分と爲つて。運動を共にするに至りしと是なり。第三其聯合を衛ほ一層擴張して亞米利加に對せんとす。即西印度及びサヤマイカ等の諸島を加奈陀の商業的聯合中に編入せんとするに至りしと是なり。加奈陀の商務卿は之に就て既に諸島を巡視し。部署を畫する處ありき。更に進んで太平洋中のサンドウヰッチ即ち日本の所謂布哇をも聯合中に入るゝの策を設けんとす。利害上の大競爭たる三國は此に至て其商業的戰爭の準備整ひたりと云ふへし。合衆國人は此準備の成りたる當時。亞米利加にして之を實行するときは能く先ず英吉利の工業商業上に於ける生權を蹂躙するに足るを信せり。依て之を實行するの曉には其最も損害を蒙るものは加奈陀諸州にあるを以て。加奈陀は英國より分離して合衆國に隷屬すへきは方に其數なるへきを信せり。然れとも此二者共に齟齬して。全く叡慮の外に出てたり。而して又亞米利加は頻りに其聯合の中にサンドウヰッチ島を入れんとを計りたれとも。今日に於ては英國も亦之れを得んと欲し此の如く兩國間平和的戰爭の準備既に成り。機會又熟して智を盡し力を極めて。競爭をなし。明年五月を以てチカゴ府に方國博覽會を開き。世界人心を此處に惹き更に進んで英國を商業上の戰端を開かんとせり。又ニカラガ運河工事を補助して方國商工業上の中心點を米一國に吸收せんとせり。本年三月紐育府商法會議所は該運河に對する米國の國是を議し其決議書に曰く。

將來全世界の貿易中心をして移りて我米洲大陸の適當なる都府に歸着せしめん爲め。其緊要なる幹旋者は誰なりやと問はゝ。實にニカラグア運河ならさるを得さるなりと。（東邦協會報告書）

米國は夫れ斯の如く萬國の商工業に於ける中心點覇權の實を自國に吸着せんとせるをもし。全國民の目的皆一途なりと雖も。其方法手段に至りては共和（レパブリカン）民主（デモクラット）の兩黨互に之を異にせり。民主黨は自由貿易を以てせんとし。共和黨は保護貿易を以てせんとす。其和黨本年の黨議に曰く。

我黨は一千八百九十年の關稅法は。終に我國をして世界の商權を掌握するに至

然らば米の大統領にしてレバプリカン黨の人たる以上は、此保護政策は變することなかるべく、而して此商戰の最後は終に米の勝利に歸すべからずとは決して斷言も得ざるなり。

若しまた此中心點にして米國に歸し得る者と見做さば、米國の何の地に於て之を占むるに至るべきか。ニューヨークにあらずんばフィラデルフィア、ボルチモー必ず其一に在るべし、然れどもワットの蒸汽々鑵の發明せられ、スチヴェンソンの蒸汽車を發明あり、し十九世紀の今日にありては、實に大洋の時期に加ふるに大陸の時期を以てしたるものにして、既に大洋沿岸の地にあらざるも大都を設くるに不都合を感せざるを以て彼のチカゴ府の如きは現に米國に於て人文の盛なる、決して第二流以下に落ちざるの都城にして已に万國大博覽會をも此地に開くに至り。ニューヨーク府民は其開會を碍はずして種々と試みたるものありしかば、蓋し米國に於ける商業中心點のニューヨークを去りてチカゴに推移せんとを恐れたるに因せずんばあらざるなり。又歐洲にありても大陸の中央なる伯林の勢力日に加はるは、各國各洲の鐵道路の相會合すべき衝に當れるによる。其他伊太利のゼノア、伯耳義のアントウェル

ズの如き一たび衰頽に傾きしに係はらず近來更に其活氣回復の兆あるは一にして鐵道の効力に歸せざるはなきなり。此の如く大洋を利用せずして大陸を利用し得るの今日なれば、世界万國商工業の中心點米國に歸するの時、先づチカゴに來るべしとの推考は決して空想にあらざるに似たり。

世界商工業上の大勢は既に斯の如し。然らば彼の商工業の中心點は一たび米國に入りてチカゴに歸し、更に進で太平洋岸に轉移し來るべきとも亦決して空想といふ可らず。特にニヤアグラ運河成就の後は大勢一變して、太平洋の時期となり、北米太平洋岸の沃土廣野は日々に繁盛し、民口は五年に二倍し十年に四倍し、製造工業相續て興り、歐洲亞細亞濠洲の中間に介立し桑港は太平洋岸の一層重きを加へ、或はいふ世界商工業の中心點はチカゴ府を經過せずして一躍北米太平洋岸に飛び來らんと。而して是れ有識者の確信する所なり。

世界商工業中心點の移動は夫れ斯の如く、最初小亞細亞地方より地中海沿岸を過ぎ英國に轉じ更に將來米に入り太平洋岸に達すべしとすれば、終には此中心點の一層歩を轉じて太平洋を渡り亞細亞に來るべしとは推理上有り得べきことなりとの說

は第三問題に入るに及んで更に明瞭たるへし。而して我日本帝國は其衝路に當るものなるか故に商業的對外立策上の如何によりては全世界の中心點を我に領し覇を天下に稱する能はざるにあらざるなり。世界商業の大勢上より我國の有望の地たる亦斯くの如し。

更に第二問に入り東洋に於ける商業の大勢如何を考ふるに。第十五世紀の頃に至るまでは歐羅巴人と亞細亞人との貿易は單に陸上の運送にありしか。一千四百八十四年葡萄牙人の喜望峯を回航して亞細亞に達するとを得たるに及び。漸く此水路によるとゝなりしか。此世紀に於て亦スウエス海峽を通するに至り終に二條の航路を得たりしかば。英は千八百十九年航路の衝路たるシンガポールを占領し之を中心となして東洋と歐洲との商業上の足繼所とし。以て東洋商業の全權を掌握せんと企圖したり。然るにシンガポールはなほ未だ少しく南部に僻するの憾みなきにあらざりしかば。一千八百四十二年北京條約によりて香港を得るに至り。其中心點北轉し。一千八百四十六年にはボルネオのラブアンを取り新加坡より北上し。南亞細亞の商權は之を握るとを得べきも東洋商業の中心として南方に失するを以て。終に更に北に移りて

上海を以て大市場とするに至りたり。此時英は密かに楊子江の河口チユーザン島を取るに策を運らしたるは。當時の外交書類を見て明かに之を知るとを得べし。然れども到底其目的を達するとを能はずして唯戰時にのみ之を借るべきの條約を結びたるに止まれり。然るに東洋商業上の中心點は斯く上海に上りたるも或はなほ更に北方に轉ずべきや否は是れ一の問題なり。一千八百八十五年英の朝鮮の南端巨文島を占領したるは。其目的とする所戰時は之を本營としてウラヂオストックニコライスクを撞き魯國の南下を抑留し。平時は東カナダ鐵道、南香港と連結して之を東洋商業の中心として以て商權を掌握せんとしたるものなりしといふ歐洲政治家の上海を以てなほ南部に過ぐるとなすの意あるは明なるものゝ如し。況んや其地勢より考察するも上海は單に支那內地に對する一局部の商業地に過ぎざるに於てをや。果して然らば東洋に於ける商工業の中心點は倘ほ北上して好位置に遷轉し行くべきは必然の狀勢なり。而して其位置を何處となす。我國即ち是れなり。我國は西に亞細亞の大陸を控へ東に米の大陸を望み。南に濠洲南洋の諸島を擁し。而して其中央に位地を占む。此天賦の好地位にありて此世界大勢の衝を受け若し此大勢を利用し能く將來を達觀して

確然たる商工業對外策を建立せは全世界及東洋商業工業上の主權を我掌に一握すると敢て難きにあらざるなり。

余は更に歩を進め第二十世紀に於て我國の東洋及ひ世界に對する位地形勢を索捜尋究せんとす。前に述べたりし如くワット、ステヴェンソンの發明以來世界は鐵道大洋(レールウエイスチーマー)の時期となり。汽船と汽車とを利用するに最も巧みなる國は商工業の最も盛なるを得るものにして其中心點を掌握するものは固より之に依らざるべからず。而して我國は第一東にカナダの鉄道ありて。一千八百八十七年既に其功を竣へぬ。其東岸ハリファックスより西岸バンコーバに至るまでは急行三日十九時間にして達するを得べく。通常四五日を費せは到着するに差支なかるべし。談鉄道は我國の東洋に對し世界に對して最も之を利用するの便あるものなり。又バンコーバより東洋に對する航路は西比利亞鐵道功を告くるの日に至らは益其業の進むに至るべく(東方策第一編六十五頁より六十八頁まて參照)而して西比利亞とバンコーバとの間を相通せんかためには必す我北海道の宗谷海峽若しくは津輕海峽を過きさるべからず。又バンコーバより巨文島の近傍北支那朝鮮に到らんか必す馬關の海峽を過き及南支那香港に至らんとするには我大島と鹿兒島の間を過きさるべからず。されば我國にして國港を定め之れを改築し。商工業上の對外策を確立して待つのあらは。東洋に對し世界に對して此等の諸航路を利用するは難しとなさず。第三北米合衆國に於てニューヨークよりサンフランシスコに至るの鉄道は。一は米土の中央を貫通するもの。二は北部に三は南部に通するもの。三條あり。而して此太平洋岸のサンフランシスコより東洋に來るの航路は亦我津輕馬關の海峽若しくは鹿兒島大瞬間を通過せずんは亞細亞大陸に達すること能はず。これまた我商工業對外策の如何によりて此鉄道と航路を東洋に對し世界に對して利用するを得へし。第三なは少しく南に下りてニカラグア運河竣成の後は太西太平二洋間の航路は。南米ホルン岬を迂廻せずしてニオルレアン運河を過き。之か爲めに紐育桑港間に一万八千里。西歐桑港間に七千三四百里の里程を減するを以て米國東南部の貨物即ちニューヨーク、フヰラデルフヰア、ミシシッピー近傍の貨物其外西歐即ち英國、佛蘭逸、獨逸、西班牙、葡萄牙等の貨物の東洋に出でんとするには必す此運河によらざるべからざるに至るべく。此天運の好機に際し我國は東洋に對し世界に對して之を利用せざるべからず。蓋し此運河よりして航路は必ず一たび布哇

に着し。而して亞細亞大陸に到らんとするには。亦必す大島鹿兒島間若しくは馬關或は津輕海峽に出さる可からず。故に我商工業對外立策の如何によりて世界に對し東洋に對し之を利用するを得べきは一なり。第四。顧みて更に西比利亞鐵道の如何を察するに該鐵道は今後七年にして全く成功し。(西比利亞鐵道論參照)東歐羅巴及び西比利亞內地の貨物一たびウラヂオストックに出でんか。此處より北米洲に至らんとするには宗谷海峽若くは津輕海峽を經るの必要あり。現に今日西比利亞鐵道に從事するの人其意に曰く西比利亞の鐵道を開かんか爲めには。先つ第一にカナダの鐵道を査稽して之と連結するを得べき方策を講じ。然る後着手せるなりと。又た朝鮮、支那、香港、濠州に航路を開かんか亦必ず我主權の在る海上を通過せざるべからず。故に西比利亞鐵道とこれによりて起る新航路を東洋に對し世界に對して利用するとを得べし。第五。又更に南下するときは英國が緬甸のラングーンより北マンデレー迄の鐵道ありて。其の目的とする所は支那の西部に延長せしめ重慶府に達するにあり。而して平時は之を物貨運送の用に供し。軍時には印度の土兵を此路に由りて送らんとするは英國政治家實業家の立策したる所にして。始め最長慶府を開く時英は支那と條約を結て曰

く。支那の揚子江を蒸溯によりて上下せしむるの後にあらすんは英船は先づ之を上下するとなさざるへしと。然れども支那は何時果して之を上下せしむべきか。未た明ならずされども。これなほ芝罘の條約に一步を進めたるなり。若し今後英國か支那と條約を結ぶの時あらば必す該鐵道に關する問題ならざるべからず。現に先條約の際に於ても支那に要せし所のものは該鐵道か若くば揚子江河岸重慶府を開くかの何れかを求めたるなり。(東方策第一編六十三四頁參照)而して昨年十一月マンチエスターの商法會議所は其布設を急速にすべきを建白して曰く。此鐵道にして成功し居らは。縱令魯國北西比利亞より迫り佛國南東京より壓すと雖も。英國は決して西支那に於ける商權を失ふとなかるべしと。此鐵道によりて揚子江に出て流れに順て上海に至り。更にウラヂオストック、北部亞細亞及び加奈陀合衆國に達せんとせば。我國主權のある海上を過ぎざる可からず。ビルマ鐵道、揚子江の河流及び之れより起る航路は亦我國の東洋幷びに世界に對して利用し得るの一たらざるへからず。第六。今日迄既に航行する所のシンガポール、香港を經る所の航路はこれ亦上海以北幷びにハンコーバ、サンフランシスコに達せんとするには。我國主權の在る海上を航せさる可からさる

が故、亦我國か東洋に對し世界に對し利用せさるへからす。第七には南洋即濠州諸嶋より東洋に至るへき將來の航路も亦我利用すへき一たらさるへからず。蓋し南洋諸島の進歩は實に僅に五十年間の短日月にあらせる所にして。將來最も有望の國たるは疑を容れず。而して今此地より北支那、朝鮮に至らんとするに九州の海峽を經るの必要あり。又西比利亞に達せんとするには馬關を經過せさるへからす。以て我國の東洋及ひ世界に對して之を利用することを得る所以を見るへし。之を要するに我國の位置は恰かも六大航路の括り目に居るものにして七個の貿易大道の衝地に在るものなりといふへし。(六大航路の止まるところの國々に於ける富源及ひ物貨の集散は附錄の東洋大勢上に於ける台灣及ひ大島の位置參照)

既に叙べし如く我國は以上七箇の貿易大路の一處に湊合する其中央に座を占むるの國たる以上は。如何にして之れか好位地を利用すべきか。再言すれは則ち如何なる方針を以て我國對外策の大本となすへきか。余は即ち之れに答て曰はん。亞細亞大陸を後ろにし米國を前にし濠州を右に控え而して前に述べし將來の六大航路及ひ其航路の各端に附隨せる運河又鐵道等を縱橫に利用し以て東洋に對し世界に對し亞細亞に於ける一大問屋(The Centre of distribution of the world)たるへきこと是れ我國商業對外策の大本なりとす。夫れ荷も斯の如くならは其國に物産を有することなきも一方の貨物を取りて之を他方に送致するを以て足れりとす茲に一例を示さは中世ベニス、ゼノア等の國は別に國中に産する貨物とてなかりしも歐の南北及亞細亞の間に生絲毛織物等を彼此交互運送して專ら商業上の權勢を制したりき。況んや我か工業對外策を確立して工業國たることをも得は此問屋の店頭は益繁盛することを得へし。例へは西比利亞より其貨物を支那若しくは米國に輸出し濠洲より亞細亞大陸或は東歐洲に輸送し又は支那よりニカラグア運河を過きて西歐洲に。或は東米國に達する等のことあらんに。皆共に我國たる問屋に依頼せさる可らさるなり。一條の糸ずら其括り目は他より太きものなるに。我日本は恰かも七大貿易要道の括り目となる。其他より太ならさるへからさるは亦甚た明ならずや。我國將來の雄大なる推して知るへきのみ。且つ夫れ古來世界商業工業上の中心點を占得したりし國を見るに其對外策は皆此問屋の方法によらさるものなきか如し。ベザンチン帝國の盛時コンスタンチノープルの其中心點を得たりし頃は。此都市は亞細亞、亞非利加、歐羅巴三洲貿易の

衝に當りて其問屋たるの地に居り。其後希臘のアゼンス、羅馬のベニス皆此三洲衝路の位置にありて當時の世界商業の問屋たりしなり。今日の倫敦に於けるか如きも。歐米兩大洲の間に介立して問屋の大商賣をなすに外ならず。然れども是等はもと單に三四貿易の衝路にありといふに過きずして。我國が將來七箇の貿易大道の衝に當れるが如きは古來未た嘗て有らざる所。況んや之を世界商業の大勢上より觀るも東洋商業の大勢上より察するも或は單に二十世紀に於て我國が東洋及び全世界に對する位置形勢より考ふるも。我商業對外策の大本を確立するに於ては啻に東洋のみにあらず。全世界商業の中心點をも握り得べきは甚だ明瞭なる所なりとす。此大本にして既に確立せんか。之か目的を達するの方法手段の如何にすべきか等。所謂今日實際の問題なる國策編に及ばざるべからず。例へば此大本よりして九州、中國、四國、北陸其他各地の狀勢に從て各別に畫策する所なかるべからざる也。

商業對外策と工業對外策とは固より相俟て離るべからざるものにして。二名一躰。其に我國の國利をなす大礎なれば。商業對外策より抽出し來るべき國策と工業對外策より抽出すべき國策とは殆んと分つへからさるの關係あるを見るなり。

是を以て論を進め工業對外策を述べ。而して商業對外策及ひ工業對外策上に於ける我國の國策篇に論を進めんと欲する也。

第五章　我國工業對外策の大本——歐米各國に於ける我工業對外策——東南洋諸國に於ける我工業對外策

或る觀察上よりすれば工業と商業とは異名同躰にして。共に國利を增益し覇權の實を組成する一要素たるなり。故に余は前に商業對外策大本を確立すへきを論述したりと雖も。更に歩を進めて工業的對外策は如何に經營立案せさるへからさるやを說かん。

凡そ我國の工業對外策を確立せんには先つ之を二大分して一は歐米に對する工業對外策とせさるへからず。而して其歐米に對する工業對外策は。十九世紀の器械的製造品即ち紡績、綿糸、金巾、毛織及び製鐵等其他の物品を製造して。市場を西比利亞、支那、朝鮮、南洋其他何れの國と雖も。凡そ器械的製造貨物を以て競爭する國を以て我好敵手となし。以て勝敗を決せさるへ

からず。

之を稱して大本とすへしと謂ふ是れ決して一夕の茶話定談にあらず。若し夫れ歐米に對する此大本の當否を知らんと要せば。先つ十九世紀歐洲文明の大勢如何を觀破し去らざる可らず。然らば大勢とは何の謂ぞや。十八世紀の下半期に當りては。歐洲諸國其國王貴族僧侶の類。下人民を虐待して塗炭の苦を嘗めしむるに至りしかば。該世紀の終りには之れか反動として民權自由の說漸く起り。民權のためには身を犧牲とし。自由のためには生命を粉碎せんとするもの滔々皆然るに至る。終には彼の佛國革命となり英國革命を現するに及びたり。斯く人民は自由を得權利を得るあらば。以て文明開化の民たるを得べしと信じ。而して血を流して取り得たるも。其自由權利もやかて之を得し曉に及びては。其生活を保持すべき資料なくんば唯自由權利のみにては未だ以て文明開化の全實を得たりといふべからず。財產ありて然る後其空腹を癒し其生命を繼き而して自由民權を其手中に握るにあらされば。奈何ともすへからざるを覺悟し。彼の英のユニヨンパークの如きは實に自由民權の極端に達せし頃既に佛國革命の理にあらざるとを唱ひ。革命は社會に大害を與ふるに過ぎざる所以を

辨じ。以て歐洲大勢の風潮を抑留し自由民權の外なほ財產金員の必要なる所以を知るの時代に達せしむるに至りたり。是に於て大勢全く一變して。冒險的事業の盛なるを致し。特に英國の如きはピットの政策として印度及び米國より佛人を追逐し。其結果殖民事業となり。且つ本國にありては一攫千金の事業を見出すと能はざるが故。少しく其志を伸ばさんと試むるものは。カリフォルニヤ銀山若しくは壞太剌利亞金山或は印度等に至りて金錢を利するもの多く。十九世紀の上半期末代に當りては世間全く拜金宗の樣に陷れり。已に金錢を右にし民權を左にし。斯くて愈文明開化の民たるに欠くる所なきを得たりしや。若し人互に權謀術數を逞ふし詐欺百出。金銀是れ爭ふか如くんば。是れ決して目するに文明開化を以てすべからず。朋友親戚も恃むに足らず。自由權利も寧ろ心を煩はすのみに過ぎず。則ち文明開化の民といひ。文明開化の國といふは。其自由權利と金銀と而已にあるを知る。換言すれは道德は實に國の文野を判斷すべき尺度なる也。余常に疑らく我國の歐洲と相交通してより以來我國は果して文明開化の域に達するとを得たりしやと。而して余は却て想ふ我國の文明は退歩し

たり唯開化するとを得たるのみと。何となれは縱令鐵道あり電信あり洋服を着け煉瓦家屋に棲み兵士軍艦皆彼に倣ふさるれど道德は廢れ風俗は亂れ社會の制裁は全く枯死せると一般なり。此の如きは假然開化せりといふことを得へきも文明開化の度は寧ろ却歩したりといふの適當なるを覺ふ。

道德は文明の唯一要素なり。此に於てか金銀而已と自由權利而已との時代は漸く去りて第三の道德美術文明の民に欠く可からさるを知るの時代來り。歐洲の大勢亦此に一轉變して自由と財產と道德と三備せされば眞の文明開化の民と稱する能はすとの思念起るに至れり。此大勢を始めて看破したるものは實にナポレオン第三世にして而して之を實際の事業に現はしたる者は英國女王の夫プリンス、アルバート公なりとす。即ち一千八百五十一年公自ら會長となり各政黨美術家及び實業家より委員を選出し（是れ政黨問題にあらず又英國の問題にあらされは也）世界に對する事業として英の龍敦の中央公園即ちハイドパークに世界大博覽會を開設したり。惟ふに此博覽會は政治上、社會上其他商工業に改良の効ありしもの殆んと前世にあらさるへし。又千八百六十七年巴黎の博覽會となり、ビヱナの博覽會となり、遂に歐洲の文明大勢上に大變化を與へ

美術の思想をして勃然興起せしめ。苟も上流社會に位地を占むるものは皆美術の思想なかるへからざるに至りしは實に此博覽會開設の年より始まる。斯くて上の好む所下社會一般に及ぼし延て歐洲全土に布き全然人民の思想を變化したり。

歐で我國固有の美術品は如何にして今日歐米諸洲の人々に好賞愛賛せらるゝに至りしかを推察するに決して偶然の事にあらず我國の歐洲と相開交して通商條約を定め相貿易するに至りしは實に一千八百五十四年にありき。即ち歐洲の大勢將さに駸々美術の潮流に驅らるゝの機に投じて。我國の數百年間切磋琢磨の功を遂けたる美術品をば其市場に出したりしを以て。牡丹餅を投したるなり。我美術品の大に歐洲人の口を開くに乘じて我美術の全く之を以てなり。之を以て見るも彼の歐洲諸國の文明はなほ頗る不完不備にして進歩未た甚た淺きを徹するに足るへし。英國の歷史を按するに英の文明はエリザベス女王の時始めて其大基礎を立てたるものにして。當時社會の狀態を察するときは食を割るに小刀なく叉肉叉なく。手指を以て食物を口に運び魚獸の骨は直ちに之を卓下に捨て僅かに毎週一度水曜日に之を掃除したるに過きず。今日の肉叉は即ち其肉を攫み

し手に型どりしものありといふ。然るにエリザベス女王の即位は一千五百五十八年にして其崩御は一千六百三年なるか故に。恰かも我足利氏亡滅の時より德川氏幕府を江戸に創開せし間にありとす。されど一千五百五十八年以前に於ても我國は藝術已に開け三代義滿將軍の時に當り美術の摸範と稱せらるゝ金閣寺は建立せられ。茶の湯の類其他万般の美術は殆んど頂上に達したるの狀あり。後德川氏に入り將軍家光の頃に至りては其進歩愈著しく美術の標本たるべき建築其他美術品の類世に出づるもの頗ぶる多く。斯くも磨き上げたる美術品の一たび歐洲に流入して其賞賛を博するを得しは固より理の當然なりとす。然るに歐洲に於ては一千八百五十一年の大博覽會開設以來世界の先覺者たり。若しくは上等社會の人々が先つ第一に美術の思想を興してより以來はひいて中等社會に及び。今や將さに擴張して下等社會に及ばんとするの勢あり。現に我國輸出品の廉價なるもの漸く多きを致すに至りしは。其傾向を證するものといふべし。凡そ何れの國を問はず上等社會は其數最も少く中等社會は之に次き下等社會は大半以上の數を占むるは人の知る所なり。我國美術品の上等社會にのみ用ゐらるゝの間は其販路の極めて狹隘なるを示すものなると亦

知るべし。其中等に下り更に下等に下るに及びて益其擴大するを得るなり。これ形において縱に其市場の廣まるものといふべし。

且つ夫れ歐洲大陸に於ては常に英佛の三國其中心となり。英は英語を用ゐる所の米國及び諸殖民地に其思想を及ぼし。佛は西班牙、葡萄牙、伊太利等に廣め。なほ露の佛國に其學校制度を取れる以來は佛の思想亦露西亞に入るに至り。獨は獨逸語を用ゐる所の北部歐羅巴に其思想を流布す。故に美術上の思想に於けるも亦此三國を以て中心として之を四圍に弘通するなり。これ形を以て例せは美術的思想の此等の諸國に盛なるは我國固有美術品の市場の橫に廣まるものと稱すべし。

斯の如く我美術品の市場の今や縱橫に廣張せんとするの現狀を呈はし。大に將來に企望あるとは歐洲實業家の能く知得する所となり。既にペンミンハム其の他獨逸の諸地方に於ては日本美術的製造物の摸造所を建てゝ。我市場を奪はんとしたるも其目的を達すると能はざりき。これ蓋し我國の美術的製造物は指端の使用により之を製せしものなるに彼等は器械によりて之を製出せんとしたるによる。此に於て歐洲實業家は皆な曰く日本美術的製造物の市場は今後益縱橫に其區域を擴大すべし。

其區域の愈擴大するに及ばゝ日本人は決して指端製造によりて其需用を滿足するよ能はざるに至り終に器械を使用するに至るや必然なり若し果して時此に達せんか十全なる器械と熟練なる職工とは日本に無くして我に在り以て日本の市場を察するを待つなり日本人たるもの、深く察せざるべけんや又佛國美術家は日本美術の將來益勢を得んとするの傾向あるを察し我美術を摸範として物品を製造し之を市場に出さんとせり此に於て乎佛國が果して之を佛國の美術として世に廣むべきか若しくは日本の美術として世に廣むべきかは歐洲實業家の一問題にして未だ決せざる所なり日本實業家大に顧慮せざるべけんや

以上論ずる所によりて之を見るに我固有の美術品か如何に將來歐米の市場に對するの大勢は決して判じ難からざるに似たり余の歐米に對する工業對外策の大本として我美術的製造物を以て其市場に擡出すべしとなすもの幾くは誤らざらんか然れども我國工業對外策は單に美術品の一を以て此に盡くるとなすか如きは余輩の眞意にあらず美術品は人の虛飾に使用せらるゝものにして其市場に制限あり

れは日常必須の需用品を以て其基礎となすにあらずんば未だ工業の盛大を期すべからず故に歐米に對する工業對外策を確立し他の一方に於ては十九世紀の器械的製造國として東南洋即ち支那朝鮮西比利亞及南洋の市場に於て何れの競爭者を論せず決戰力闘して遂に彼れを仆すの覺悟なかるべからず東方策第一編に之を論して曰く我國は將に宇內製造國の魁首となるの機會の如きに至つては殆と完備せざるはなし故に此點に於ては我日本は將來の製造國として指名せらるゝ所のパンコパー島、ニユーサウスウエールス其他の太平洋中に競爭者として顯出するものを後駕するに足るべし試に見よ我邦は九州及ひ北海道に廣大なる石炭坑を有し且つ其他の貴重なる鑛物に富むは世の普く知る所に非ずや又我邦の氣候は各地方少差なきに非ずと雖とも要するに溫帶の下に在るを以て大に健康に適するに非ずや又我邦は無數の島嶼より成るを以て良港灣の繫泊に便利なるに非ずや賃金は勞役需要の多寡によりて高低するを免れずと雖とも概して低廉なりと云ふを得べく取引上の信用制度も日々に發達して完全に赴き日本銀行合せて殆んと四百の銀行あり而して通貨は正規の本位を有せり然れとも我邦輸出物の主要なる者は生糸絹茶石炭及

米穀にして。加ふるに日本國の面積は。將來日本が爲さんとする商業の隆盛に應ずへきの製造物の原質を生ずるに足らず。故に製造原質物の産出者として任す可らざるを以て。應に製造國を以て任すへきの國たり。現時英國は惡く其原質を他方に仰きて其製造を盛大ならしむ。我國も亦宜しく亞米利加濠洲諸國及ひ亞細亞諸國より原質物を輸入して。專ら之れが製造を盛大ならしめざる可らず。即ち濠州及ひカナダ(カナル)より綿毛(コットン)を輸入し。支那滿州印度及ひクイインスランドより綿布を取り。以て千品萬貨を出して。曩に陳述したる所の各市場に輸出し。以て國利國益を增進するとを得へし。若し東洋に於て。製造品を以て英國と競爭するに於ては。我國の彼れを後殿する誠に易々たるのみ。抑も製造品の價額高低の如何を左右するに大勢力を有する者は。運搬費を其最も爲す。然るに我日本は英國と共に同一の地方に向て。製造品元質を取用すると雖とも彼は遠く我は近し。故に之を製造して。後ち其の市場に輸出し賣買するに及んで。總て支那に。米國に。濠洲に。魯國に。曾て密接の接近の地に於てするを得ると雖も。英國は之れに反して。製造の元質を遠く取りて。製造し。而して又之れを遠く來りたる他の半球に向て運搬せさる可からず。之を以て運搬上多費を要し。又資本活動の度を減

す。其損益の關する所決して少小ならさるなり。宜なる哉近ごろ英國に於て其製造所を亞弗利加の東岸に遷すの利を說くもの實業家中に在りと云ふ。亦以て今日の製造競爭界に勝を制するものは其製造の元質を自國に有するか若くは其の近接の地に得るもあらされば能はさるを知るに足るなり。宜なる哉近ごろ英國に於て其製造所は商工業上に充分の餘地を有して他日大商國たるに恰當すへきの位置にあるもなるを。而して今や西面製造品の原質を產出して日本と和親通商を結ぶの國あり。想ふに他日東洋の大製造國たるや指を屈して待つへき也。東洋市場に於ける工業對外策の誤らさるは器械的製造品の販路市場に就きて觀察を下すときは容易に之を認むるとを得へし。而して我市場の第一は對岸支那の大陸是なり。當世紀唯一の器械的製造國なる英吉利か其本國マンチエスター及び印度に設けたる製造所の製造品販路は實に其目的とする所此支那大陸にあり。現に英國及ひ諸殖民地と支那とに於ける一年間(千八百九十年)の貿易高を見るに二億五千四百万ポンド(一ポンド一圓四十錢)なり。支那の工業上商業上我國に及ぼすへき關係の詳細は他日支那漫遊を終ふるの後更に之を述ふる所あるへしと雖も。此には單に其一般の大勢を述ふへし。

余東方策第一編中に日本の大市場を論して曰く「嗚呼世界將來の一大市場は實に此に支那に在り我邦人は宜く鑑みる所あるべきなり」と歐洲の實業家は曰く「支那は人類及び財產の倉庫なり然れども未だ其外扉さへ開かれたるとなしと」然り而して此世界の一大倉庫は實に我と僅かに一葦帶水を隔てゝ地方にあり。而して此富の倉庫の扉を開くの時は何れの處をいふに。支那政府の計畫せる漢口を中心點として北は支那の中央を貫きて天津より北京に達し。延て滿洲吉林府に及ぼし。南は廣東に至れるの鐵道を成就し。(東方策第一編第六十三四頁參照)上海と漢口間の通運を盛にせるとき。即支那內國通運の便の開けたるときは世界富源の扉の開かれたる時ならざるべからず。此扉にして一旦開かれんか。全國十三省。四億万の人口を含める大國の物產を出すと莫大なるべく之と同時に大に其輸入品を增加すべし。現に年々輸出するもの。高は綿絲及其織物五千三百二十九万テール毛織物四百六十九万テールなるを以て我國東洋にヤンチョスタイ府を建つるも市場の狹隘に窮するの如きは決して之れあるべからず。今此一葦帶水を隔てたる此大市場に

於て我國か彼の地球の半ばを運回する英國と。競爭するとせんか蓋し勝算歷然たるものあり。英國との競爭方法併に製造種類の如きは漫遊の後に於て詳論すべしと雖も大躰の管見は國策篇にて論述せん。

第一の市場は朝鮮なるか。是れ亦金巾其他製糸等輸入の見込十分にて現に昨年輸出品中綿布三百八十一万弗毛布五万三千弗雜布三万弗の價格ありしも其他南洋諸島の如きも我器械製造品の好市場なり。然れどもこゝには漫遊後仔細に論ずる所あるべし。

第二の市場は我國工業上に影響を及ぼすべきものは西比利亞なり。而して此國か我商業上注意上に將來如何なる關係を及ぼすべきかは我國人の頗る研究すべき價値ある問題なり。我は今之を述ふるに於て分て三期とすべし。(西比利亞鐵道論參照)第一期はウラヂヴォストックより架設せる鐵道か。ニコラスク及ヒクラスカヤを經て黑龍江船岸ペトロフカに出でしとき。第二期は西比利亞鐵道の全通せる時。第三期は一海峽を隔てゝ我對岸西比利亞に新亞米利加、新濠洲の出でたる時となす。

第一期中ウラヂヴォストックより鐵道の黑龍江沿岸に出でしときは。先つ黑龍江川岸の貨物は之より遡りてウラヂヴォストックに出づべく。斯くてウラヂヴォストックは。まだ今日のウラヂ

ストックにはあらざるに至らん。既に此に至りては我國商業上に影響を與ふると極めて大なるべく。特に工業品輸入の上に及ぼす關係尠なからざるべし。抑も今日、我國とウラヂオストック間の貿易の十分成立すると能はざる所以のものは。我より貨物を運輸するも彼れより我に致すべき貨物なきにより、僅かに更紗、魚類、獸皮の多少に過ぎざるに因す。若し一朝黑龍江川岸の貨物のウラヂオストックに聚まるに至るとせんか。我より輸出する物品は大に西比利亞の內地に廣まるべく且つ亦彼より我に輸入すべき物品も十分なるに至り。確かに今後二三年を經過したらんには此時期の到來するを俟つべきなり。[illegible]

第三期の西比利亞鐵道全通の曉は今より幾年の後にあるべきや。我國人の須らく考へざるべからざる問題なるべし。今年春以來歐米世界新聞に露國大飢饉のために西比利亞鐵道の工事を中止せりとの電報を掲げたり。當時我國の人士は皆思考すらく露國の西比利亞鐵道を架設せしは固より彼虛喝政略なり。果せる哉彼は今ぞ其尾端を現はしたりと。然れども外交上に關する新聞は皆に其文言を直接に信ずべからず。宜しく其國の外交上の政策と事情とを洞見して之を照合判斷せざるべからず。

故に余は彼の電文を解して言へりき是れ露國外交上の一策たるに過ぎざるのみと。何となれば昨年露國大藏卿か鐵道發企者のコルフを難じて。露國は大なる外交上の失策をなせり。我の西比利亞鐵道を布かんとするの計畫を廣く世界に披露したるの結果は却て我評議最中英はカナダ鐵道を四年の歲月間に造り。支那は其鐵道を滿州吉林に延ばさんとするの用意をなし。敵國に警戒を加へて其備をなさしめたるに過ぎずして露國の東洋に於ける勢力は寧ろ減却したりといふべしと(西比利亞鐵道論第三十四五頁參照)[illegible]

コルフ男は之に答へて實に大藏卿の言の如く余人の言によりて支那人の警戒を促したるときは事實なり。然れども今日は最早警戒を促したるの誰人なるやを責むるの時にあらず。現今既に支那人は滿州地方に迄鐵道を敷設し兵を國境に遣るなど怠る可にあらずと。兩議相論じて決せず露帝陛下も頗る其裁定する所に困しみ遂に其中を取りて歲入の餘金によりて漸々此工事に着手することに決したり。次で第一にモスコーよりウラヂオストック迄全通鐵道を敷設することに定め猶ほ七年にして之を成就するの計畫をな

し豫算すゝ年金三千万ルーブルを出すことゝなれり而して該鐵道は其工事を兩端より起し西端は本年度ミヤスタよりゾロトウスチまでにして東端ウラヂヲストツクよりグラフスカヤまでとし露帝陛下は其漫遊中なる皇太子に向て昨年三月十七日付を以て左の如く敕諭し賜へり。[illegible]

[illegible]殿下よ朕は已に西比利亞全土を貫通するの鐵道を布設することを命せり而して此の鐵道は天産豊饒なる西比利亞を露國内地の諸航道に連結するためなり汝の東方諸國を巡覧し再び露國に歸りて來れ朕が意を宣揚せよ是れ朕が親しく汝に委任する所にして是れと同時に汝に負擔せしむる事あり乃ち政府直接の措置と官庫の準備とに依て決定せる烏蘇利南部に於ける西比利亞鐵道の開基を浦潮斯德に於て決行する事是なり要するに汝今回の責務は朕が計畫せし此の愛民事業の關始に於て朕が此の遼陬を親近するの熱心と此の事業の進捗を切望するの精神とを該地方に表示するに在り朕は天帝の幸福を獨り愛すべき汝が長途の安全を望む[illegible]

於是昨年五月を以て皇太子はウラヂヲストツクに臨み鐵道起工の式を擧行せり[illegible]

昨年三月國議院に於ける露國大藏大臣の言を以て察するに西比利亞鐵道布設の事を世界に披露せしは外交政略上大なるの失策なりしとは露國政治家の共に認知する所然れ共故さらに之を中止と公告して敵に油斷せしめんとの好機會を得る能はざる迄に不幸中の幸にして昨年の大飢饉大に國中を惱ましたるにぞ露國政治家は以爲らく此際之を口實として以て西比利亞鐵道の工事を中止すと公告したれば何れの國か疑を其間に容れんやと終に中止の電文を發したるなり然れ共是唯外交上の一策たるに過ぎず果して今年一月に於ては凍氷のはりつめたるにも係はらずウラヂヲストツクより三里の沖に船をつなぎて貨物を上陸したる其貨物は鐵道布設用のレールなりしとぞ又特に中央オムスクチエリヤビンスク間の如きに至りては最も工事を取り急ぎ今年中に布設竣成の計畫あり豈タイムス紙上に於ける工事中止の一電文を見て之を輕信すべけんや兎に角露國か其工事を速かに終へんとするは決して疑ふ可からず加ふるに露國は專制國なるを以て國會等によりて其方針を妨げらるゝか如きことなく皇帝一たび詔勅を下せは如何なる難事業にても成るへきなり故に我國人は七年十年の後其全通を見るに至るものとして之に對する國策を講せざべ

るかごとし。

若し果もて此工事成功の後に至らば西比利亞の内地には鑛山開け農業興り人口必ず繁殖して我邦器械的製造物貨の一大市場を開くに至るや目前に視るが如し。

次に生じ來るべきは西比利亞鐵道の結果として我國と歐洲との商業上の關係は如何に至るべきやの問題是なり。恩ふに東歐羅巴の貨物は必す此鐵道に依るべきなり。何となれば露國か此鐵道を架し三億六千二百万ルーブル(一ルーブルは我七十五錢)を費さんとするに於ては。啻に之を軍事上に應用するのみならずして。商業上に為利用也面して該鐵道の維持法を講せさるを得ず。況や年々の總支出三千二百万ルーブルの巨額を要するに於てをや。然るに現今露國か東洋に於ける需用品の最も巨額なるものは何ぞ。支那茶是れなり。茶は露國に在りては日常の最必要品にして恰も穀物に同じ。故に其輸入額最も高位を占む今稅關の調査を見るに實に左の如し。

年	歐羅巴境界を過くるもの		義爾克德斯科の稅關を過くるもの		後高加索を過くるもの		土兒格斯坦地方を過くるもの	
	武尋	茶	磚茶					
一八八四年	九九、〇七		三五、六一九		七四一、三六四		八〇五	一〇、三六六
一八八五年	六九、八三		三七一、六九三		五八〇、三七		六九四	一二、五三
一八八六年	九四、〇七		三七五、三九三		七八四、〇八		四九七	七一八
三年間平均	八〇、九二		三七七、六五八		六九六、七〇三		六五五	九七〇三

又義爾克德斯科稅關の調査に依る歐羅巴境界を過ぐるものは左の如し

年	武尋	茶	磚茶	茶	數
一八八四年	一三六、六〇二		二〇四、一二六	二四二、五〇八	七六五、五一〇
一八八五年	一八四年		一五五、三三七	三八四、九三〇	五八二、一四
一八八六年	一八八年		二五三、九三	四〇七、五四〇	七九六、三二四
三年間平均	一八八七年		二五四、四〇二	四七九、七三五	九五四、〇〇七
西年間平均合計	一八八七年		二五四、四〇二	四〇三、四二八	七七七、五八九

以上の表に依れば現に毎年義爾克德斯科武尋茶磚茶を合せて百十八万ポンドを以て鐵道全通の後は必す漢口より舟路ウラヂオストックに出て該鐵道に依るものな

り。其茶荷運搬費よりの收入は百二十万ルーブルスあるべしとは該鐵道委員の豫算なり。茶荷運搬費に重きを置く斯の如し。況んや該鐵道全通の後は漢口より船に依りオブスカを經て露國に入るもの亦路線を鐵道に取るべし。既に上海在留の露國商人中此事をなさんと計畫するものあり。且つ露國は巨大なる國艘の義勇艦を增加せり。而して其增置の理由を彼の國の外交官に問へば。彼れ答て曰く西比利亞鐵道全通の後支那茶を滿潮斯德に回漕する爲めなりと。此言眞なりや否は之を外交家の言としてとするもの此路に依るべく。且つ高價にして量の少なきもの及ひ時日の急速を要す其口を此に假る胸中の希望を知るへきなり。斯く支那茶を該鐵道に依りて歐洲に回送するとするときは東洋より歐洲までの貨物は充分なるべし。

然れども今日其歸路は歐洲よりウラヲオストックに運戰すべき貨物なく空車にして歸るか如き有樣にては經濟上此鐵道の維持せらるべき理由なし。然らば賃銀は如何に低廉なるとも之を載せ來らざるべからず。然るに鐵道は其空車にして奔らんよりは寧ろ空車にして運賃の廉直なるもなほ無きに勝るか故に。東歐羅巴の貨物にして東洋に出んには印度洋の船賃と競爭せざるべからず。然るに鐵道は其空車にして奔らんよりは極めて運賃の廉直なるもなほ無きに勝るか故に。東歐羅巴の貨物にして東洋に出んとするもの此路に依るべく。且つ高價にして量の少なきもの及ひ時日の急速を要す

るもの即ち郵便物の如きは必す此路に依るなり。既に東歐羅巴の貨物にして東洋に出せるときれば必ず該鐵道を利用すべく。終には進で西歐羅巴にまで其關係を及ぼすと必然なるべし。

第三期に至りて西比利亞國内に第二の新米國若しくは新濠州の開くるに至るまで何ほ年を要すべきか亦是れ一の問題なり。今之を姑く實測により定るまで論ずるを要せず。濠太剌利亞は半世紀五十年間にして彼の如き進歩をなしたるものにして僅かに此五十年以前にありては野蠻人の住家たるに過ぎさりしなり。況んや今日に至るまでの五十年とは第一の差異なるべき鐵道、電信其他農業上一般の器械的進歩第三資本の增加等の諸點より推究するときは。彼の濠州五十年間の進歩は今後其半歲月二十五年内外の進歩に等しからざるべからず。然れどもこは種々國勢上の如何により此等器械的進歩、資本、人口の增加を平分に使用するとを許すと否とその相違ありて一概に之を論ずるを能はずといへども。なほ三四十年若しくは同年數を費さば恐くは濠州同然の進歩を西比利亞再地に見るを疑きにあらざるべし。特にヨビー河南の地方の如きは世界無比

豐饒なるごとは人の知る所にして モーズ氏は曰く（"No country in the world is richer than the vast Asiatic region—the southern division of the Obi territory—which is generally associated in the outer world with eternal snow and frost." 千八百八十九年七月には英國海軍大佐ウォ
ルフ氏英國より北氷洋を經て二十日を費してエニセイ河口に達せり。茲に於て舶
載の貨物を川運船に移し二千餘里を溯れば。西比利亞中央の大都會なるエニセイス
ク府に達しこゝで後歸帆せり。貿易貨物は往復共に充分なりしと云ふ。若し未だ此航路開
けて一朝開通せば。オビー地方より南北千二百六十哩東西千五百三十哩の大市場を開く
に至るべし。從て西比利亞に一大革新を生ずべしとは。歐人の慧眼なる已に看破する
所なり。況んや西比利亞の大鐵道にして北氷洋の航路と連結せしめ。而して夏時は船
により貿易を開き。計畫の如く中央亞細亞の既成鐵道と連絡せば。西比利亞內地は
將來一大市場たる知るべきなり。
第二の濠州にして既に西比利亞內地に現はれんか。此新開國に對して我國か十九世
紀の製造品を以てせば。毫も出すは將來極めて望を屬すべき事たるや疑なし。米國には
米國の西岸及び南洋諸島を亦器械的製造品に於ける將來の市場なるべき望みを有

するなり。而して我國は製造の原品を近く取ることを得石炭を有すること十分に氣候順
適にして港灣は良好なり。市場は一海峽を隔てゝ西比利亞支那朝鮮あり。第十九世紀の
製造貨物を以て此諸大市場に出すときは東洋に對する工業對外策の大本は恐らく

第六章　商工業對外策土の國策

我國は商業的對外策としては東洋及び世界に對して一大問屋たるを以て其大本と
し工業對外策としては我國固有の美術品を以て彼の市
場に其獨歩の勢を擅にし東洋に對しては十九世紀の器械的製造を以て東南洋の大
市場を網羅するにありさなし而して此大本を立つるの域に達せんと欲せは如何し
てか可なるや余は之か方法手段として國策論に述べん。
第一航路
國有航路——占取の緩急——海陸兩路連絡の必要——船舶噸數を制限
すること——新航路發見者に年數を限り其新航路を特有せしむると
會て東方策第一編に日本の將來を論じて曰く。南北亞米利加亞細亞本土及濠洲終至

るの航路全權を他日我掌握中に歸するあらば、又併せて東洋の大航海國たるを得べきなりと。

且つ商業對外策の大本より、すれば、我國は全世界及び東洋の問屋たるなり。問屋商賣なるものは、もと一地方の貨物を他地方に運交するを以て其職とするものにして、我都の東南洋に對する工業對外策は則ち原料を濠州米國支那印度に取り、製造の後又支那朝鮮西北利亞南洋の諸市場に賣出すものなれば、運送の業亦常に繁昌せざるべからず。

特に日本は將來東洋に起るべき六大航路の斜合處に坐するを以て其の基礎甚だ全世界及び東洋の問屋を開かんとするものなれば、宜く六大航路を利用して商業對外策の大本を確立するの策を計畫せざるを要す。（第六章參照）若し今單に問屋のみに從事もて運送の業を他の手に讓らんか、問屋の問屋たる利益の大半は之がために奪ひ去らるべきならん。從て我國商業對外策の大本は爲めに立つる能はざるに至るを免れず。換言すれば我商業對外策の大本を達するには將來必ず東洋に起るべき航路の航海權を我手中に掌握するを要す。此航海權を掌握するとせば實に亦將來我國の東洋及世界の覇權の實を取ると否との境目あるを以て、現今速かに國民協力して之を國家問題とし天地に誓て捨身從事せざるべからず。視ずや英國は東洋の航路に對しては年々三百六十万圓（四十三万四千八百磅）の補助金を支出し、又ペッケンリー氏の海關稅則案（一八九四年）より日本及び支那に向ける航路には政府之に三十六万圓餘（六万磅）を給して其船舶を保護し、米は英と商權を開きも以來船舶の噸數速力に應じて太西洋太平洋に於て英と航海權を爭ひ、昨年三月には航洋郵便保護條例を發し補助等級を四等に分ち左の如く定めたり。

一等　一時間二十「ノット」以上の速力八千噸以上

二等　速力十六「ノット」以上容積五千噸以上

三等　速力十四「ノット」以上容積二千五百噸以上の者に向て毎哩壹弗を與ふ。四等速力十二「ノット」以上容積千五百噸以上のものには毎哩六十仙の保護金を與ふ

佛國は亞細亞の航路に對しメサジリー會社に百五十三万圓餘（六百六十七万百廿五法）を贈與して以て航路を保護し、横濱に達せしものを更らに進めてペンコヤンに至るもあるの計畫を爲つゝあるなり。獨亦東亞細亞東部濠州の航路に對しも其會社

に每年百十万圓餘(四百四十万マルク)を保護し。露は本年三月義勇艦隊假規則を改正し。向十年間國庫より每年四十五万圓(露貨六十万ルーブル)の保護金を給し。長崎元山を經てウラヂオストックに達する航路には一里三「ルーブルス」の保護金を與へ。且我郵船會社に當らんずるの計畫なり。英の如きは我國の航海權を蹂躙する最も甚しく我邦輸出入の總額一億四千圓。其內英國船の運搬に係るもの八千万圓なるを以て我輸出入の七分の四を占奪す。且つ香港より濠州に至るの航路を延長せんとの企てあり。斯の如く幾多の諸國は頻りに手を出し競爭者として六大航路の上に現はれんとしつゝあり。日本人たるもの如何なる決心をなさゞるべからざるか。既に此航海權にして我手に入らずんは商工業對外策の大本立つ能はず。霸權の實握る能はざるに於ては我國民の決心は唯米英佛獨露の諸國を以て我航海上の敵手となして之を東洋の航路より驅逐するの覺悟をなすの外なかるべし。既に此決心此覺悟を定めたる以上は最早理屈議論を並ぶるの効力なからん。速かに實際の國策を立てゝ着々其步武を進むるの計畫なかるべからず。[illegible]

近來我國のなす所を見るに郵船會社に八十八万圓の保護金を與へ大坂商船會社には郵便の保護を與ふるに過ぎず。唯斯の如くんは何時かは英米佛獨魯の强大敵國に勝を占むるの日あるべき。今日の事唯我四千万の國民擧りて此航海權を取るの決心をなすの外また決して他あるなきなり。四千万の國民は即ち我日本國なり。日本國の此航路を取るとは即ち六大航路を以て我國の國有航路となすこと是なり。國有航路の事未だ世界になき所なるを以て是れ決して我邦人は行ひ得べからずと疑ふべし。然り此小國にして既に歐米大强國を敵手として競爭せんとする固より世界史上に見ざる所なり。世界になきことを行はんとす世界にあらさる方法手段による亦甚だ當然にあらずや。況んや物は凡て必要より起る彼の英米獨佛の諸國に於ては未だ航路の競爭上國有航路となす程の劇烈なるに及はず。從て其必要も起りしとなかりしも。我國にありては今や既に此必要に切迫したるなり。苟くも此切迫の時代商工業上の對外策を立てんとせは。而も創業の時代に於て僅かに一會社に八十八万圓や百万圓の保護金を與へたりとも將た何の用にか立つべき。日本國民たるもの豈に世界に未だ嘗てあらざる事と雖も斷々之を決行するの勇氣なくして可ならんや。彼の英國か一千七百七十年來保護金を會社に給して今日航海の王となりたるは畢竟其始めは

航海會社を保護するは他に例を見さる所にして世界無比の策略たりしや明かなり。若し徒らに歐米に存する方法手段にのみ是れよるとせは勢彼の上に出づること能はずして常に其後に從はざるべからざるの醜を見るのみならん。今日普通人の談するか如く國有の船舶を以て之を會社に附し平時は之を運送用とし戰爭には軍用とするか又は噸數速力に從て政府より保護金を與へ又は造船の原品には關稅を免すべしといふの類に至りては英米佛の既に實行する所にして單に此方法のみによるときは恰かも彼と平均を得るに過きさるのみ。寧ろ其下風に立たざるべからざるは勢の自然なりとす。況んや彼等は十分に財力を有するあるに於てをや。斯の如くならば焉ぞ必勝の神算あらん耶。

或は人ありて曰く郵船會社の如き唯一會社に保護金を與ふるは其弊鮮少にあらさるか故に濱州に對し米國に對し各船路に對する數會社を創して之に各保護金を與へなは航路を占取するを得へしと。此の如きは實に鳴國人物の精神を現はして憫笑に堪えさる者あるを見るのみ。何となれば既に此等數大强國を敵手として競爭せんと欲する以上は千分其の力を一統して之に當るの精神なく徒らに微弱の力を諸方に

分つに於ては何を以て其勝算を期するとを得ん。況んや斯の如きは經濟上到底望み得べからさるものあるに於てをや。凡そ會社多きに從て給金を得る職員其數多からさる能はず。且つ夫れ一會社にして一航路のみに專ら其力を致すとせんか會計上決して其會社の存立する能はさるに至るは必然なりとす。何となれば一會社數航路を受持ちてこそ始めて一方に强敵あるも他方に於て之を償ひ彼此相流通して其維持を全ふするとを得るものなれはなり。然るに一會社に一航路を與ふるに止まり其經濟立たず其自立難きに至りては政府の一會社に與ふへき保護金さへ今は其幾倍を給せさるへからさるに至り國家の不經濟此上あるへからす。特に日本の如き貧國なるにも係はらず其僅少の金員を小分して金銀多き大國に當らんとするは其不得策の甚たしき固より炳焉たりて明ならずや。

是に於てか國有航路の必要あるを感する也。國別に一廳を設けて海運の業を自らするなり。而して其資本の如きは公債を起して作るにあるなり。今や日本か速に占握せさる可らさる航路六あり。其中の一なる上海に至るの航路は已に占有せりと雖も其前路猶未た盡きず。故に一航路に對する資本を

一千万とし合して六千万圓の公債を募り而して郵船會社株券一千七十五万圓の如きも總て之を買上るを要す。別に海運に補助する資金及廳費を併せて年々六百万圓にして足れり。今各國の保護の程度を見るに英二百六十万圓佛百五十三万圓獨百十万圓露四十五万圓加奈陀三十六万圓又米は夙數速力に應じて保護すべしと雖も皆是れ東洋各航路に對する保護高にして單に太平洋に對する保護を平均すれは各國五十万圓内外に過きず故に我國今一般に對して百万圓つゝ即ち六百万圓とすれは各國の倍額なるを以て勝利を大競爭に制するや必せり。而して此廳を名けて運務廳と云ふ猶ほ一を進めは將來鐵道廳を合して一省となすべきなり。且つ航路占取の如きは一時に六箇を取るに及ばずして其中緩急を擇んで着々占取すべきを以て公債も一時に六千万圓を募集するに及ばさるなり。艚船の類は平時は運送船に使用し一朝事あるに當りては巡邏船となすべきものを造り海軍非設士官は必ず之れが運動手たらしめ殆んと三四年の間は縱令利益の率からさるも成り立ち行くべき方針を取るべし。これ極めて不經濟の事業なるに似たりと雖も我國が東洋及び世界に對して商工業の權所謂覇權の實を握ると否とは

の問題に屬する以上は年々六百万圓の資を投するは蓋し易々たるのみ而して一たび此六大航路を握り商工業上對外策の大本確立するときは六千万圓の資本と年々六百万圓支出の結果として現はるゝ所の利益は工業の發達は勿論日本の問屋たる資格を得て商業の盛大を極め其他海上保險造船若しくは他國の貨物郵便を運送する等極めて莫大なるべく又海軍の如きも直接に強くなるへし。日本將來の海軍擴張の費用は此中より出づべしとは余の平生持する所の意見なり。内國農業商業の租稅等により年々海軍擴張に充んとするは固より能はざるを知るなり。物凡そ必要より起る海軍と雖も實際必要の急に迫るにあらされば擴張し能はざるなり。彼の英國が一夜の議決に七十餘艘の軍艦を造りたる如きは商業隆盛にして航路曠濶若し之を侵害さるゝ如きことあるに於ては國家の利害上莫大の損益あるを以て此等の急に促れて製造もしたるなり。今日我國未た航路を開拓せず竟に海軍のみに是れ急ならんや。

且つ夫れ大國と競爭してなほ勝を制するに足るてふ日本人心を皷舞奮起せしむるも其効力の一たらざるべからず。古來國をなして其盛衰を致し特に一方の覇權を

掌握し得たる者多くは航海權を有するに依らさりしは未た曾て在らざる所なり。英國の如き現に其好適例たるを見る。

六大航路を一時に占取せんと欲するは實際上容易に爲し得へからさるの業たるを以て。今日孰れを先にし孰れを後にすへきか。試に六大航路の概況を擧けて之か緩急を論せん。(航路の前途に於ける市場の詳況は附錄大島氏台灣の形勢を論ずるを參照)

第一は敦賀より日本海を經て烏剌潮斯德に至る航路是なり。此航路に由りて前途に開拓すへき市場は曰西比利亞の內地。曰滿州。曰朝鮮。曰東歐羅巴。

第二は濠州の航路にして此航路に由りて前途に開拓すへき市場は曰濠州全土。曰南洋群島。曰香港。

以上の二航は商工的對外策に於て最も須要の航路なるを以て之を第一期に着手すへきものとす。而して敦賀より烏剌潮斯德に對するの航路は未た成立せすして。一の競爭者なきを以て此機に乘じ速に占取し他日の競爭者に對して先鞭者たるを要す。而して徐かに西比利亞鐵道の全通を待ち。其全通するの曉に於ては東洋及世界に對し。此航路を縱橫自在に利用するを得ん。其東歐羅巴に對する郵便路をも此路に取らさるへからさる所以は余東方策第一編に於て已に詳論せり。曰く。

今日支那香港及ひ新嘉坡より歐洲に向て發送する郵便は。一は其の路を印度に取り。一は米國若くは加奈陀に取ると雖とも加奈陀の路は日本より英京まて二十一二日を要し。上海香港新嘉坡港よりは二十八九日を要す。又印度より蘇士の地峽を經て伊國に出て。鐵車にて英京に到るの路は日本よりは四十日餘を要し。上海香港新嘉坡港よりも三十五六日若くは三十三四日を要するなり。然れとも若し西比利亞大鐵道布設の計畫にして成るあらば。魯國首都及ひ莫斯科府より七日乃至九日にして太平洋浦盬斯德港に達するを得へし。故に日本にては新潟港若くは山陰道に一港を開き。長崎港(長崎港に代ふるに馬關を以てするも甚しき時日の差違なかるへし)に連絡を通し郵船會社には尙ほ一層迅速なる滊船を有せしめて。長崎。上海。香港。新嘉坡若くは天津に廻船せしむるときは。我日本は東洋より歐洲に至るの郵便路を占有するとを得るや明なり。夫れ新潟若くは山陰道の港より。浦盬斯德港までは。迅速の滊船を以てすれは。一日半乃至二日にして達し得へく。新潟若くは山陰道の港より。長崎港までは。特別急行列車を馳せしめは。一日にして足れり。而して魯

京より歐洲各首府に至るに二日を以てすると假定するときは。十分の餘地を與へて算するも。尙ほ我日本より九日乃至十一二日にして郵便を歐洲各國に送達することを得る也。而して左表

横濱新嘉坡間里程及日數　一時間濶走十七里

港名	里程	日數
横濱長崎間	七百三十九里	一晝夜十九時四七
長崎上海間	四百五十九里	一晝夜　三時
上海香港間	八百九十七里	二晝夜　四時七六
香港新嘉坡間	千四百四十里	三晝夜十二時七〇
計	三千五百三十五里	八晝夜十五時九三

に據て觀れば。新嘉坡港より十七八日。香港より十三四日。上海よりは十一二日。天津よりも略ほ同時日に於て歐洲各國に郵信を通じ得るに至る。事此に至れば。現今在る所の加奈陀蘇士（スエズ）の二郵便路は。遂に今日の如くならずして。蘇士の路は唯印度西

方の郵便を取るに止まるに至らん。斯の如くならんには東洋即ち支那北部。朝鮮。天津。上海。香港。新嘉坡。南洋群島及ひ印度東部の郵便は。皆な路を日本に取るべく。而して郵便にして此路を取るに至れば。Time is money 時は金なりと云ふ現今十九世紀の末に在ては貨物旅客自ら此路に依るや明々瞭々たり。是に於てか日本は歐洲より隔離の患を斷ち。我日本は全世界の中點に立つことを得。東洋の航海其他諸般の全權を握るに至るは實に容易なりと云ふへし。我國は誠に斯くの如き好望を將來に有せり。我同胞兄弟は徒に西比利亞鐵道の結果を恐怖して之を利用するの用意覺悟なくして可ならむ耶。余嘗て希臘に遊ひ。當時の總理大臣トリクピー氏と相往來す。一日氏余に語て曰く。予は此貧國なる希臘をして富强たらしめんには。先つ大計畫をなさゝる可からす。即ち一方に於ては鐵道をパイリヤス港より國境ラリッサ迄布設し。尙ほ進んてラリッサよりサロニカ港に聯絡を開かんとす。サロニカ港よりは既に澳國ヴィエンナ府に至るの鐵道ありサロニカに達すれば則ち是れ歐洲の中原四通八達の區に接する者也。又一方に於ては路をパイリアス港より埃及アレキサンドリア港に開き。政府之を保護して。以て伊國ブリンヂッシ港を經て歐洲に至るの

印度郵便を扱るの用に供せんとす。現今既に其工業に着手せしめたりと。其雄圖遠謀豈壯なりと謂はざるべけんや。而して東洋全郵便を我國に取るは尚ほトリタビ―氏の謀策に勝ると又た萬々なりとす。我邦人盍ぞ奮然起て以て此に注目せざる。蓋し商業的對外策上より觀察するも又東洋に於ける工業的對外策上より觀察するも。先つ必す此航路に先鞭を着け置かさるべからず。且つ里數も僅少に競爭も未だ現はれさるを以て之か費資小額にて足りなむ。

次に着手すへきは即ち濠州の航路にして。此航路は現今已に香港、新嘉坡及南洋群島を經て濠州に到るものなれば。今日と雖も利益小少にあらず。然るに之か占取を急要とする所以は英國のピーオー會社は將に香港より之か航路を開かんとす。我豈彼に先鞭を一着せさるへけんや。且つ我工業對外策上より觀察するに。綿及ひ羊毛等を輸入する運搬上の途を是非とも今日より開かさるへからす。何となれは南洋群陽は將來に於ける我邦の一大市場たるに疑なけれはなり。

第三は支那上海以南に至るの航路なり。支那航路の前途に開拓すへき市場は曰支那。曰朝鮮。曰香港。曰緬甸。曰東京。(佛領)。曰印度。曰亞弗利加。曰歐羅巴。

第四は尼加剌瓦運河に對する航路にして。此航路の前途に開拓すへき市場は曰西歐羅巴。曰亞米利加の東南及ひ西岸。曰南亞米利加。

以上の二航路は之を第二期に於て前後に着手すへきものとす。而して尼加剌瓦運河に對する此航路の開通する曉には。亞米利加の形勢一變して其西岸に於ける商業開け物産興り。且つ歐羅巴の貨物及ひ亞米利加東南の貨物も亦必す此航路を經由して東洋に運輸せらるゝに至るや必せり。而して我邦の商品亦此途に由りて西歐羅巴亞米利加の東岸に輸出するを得。殊に亞米利加南方の綿を我邦に輸入して。四十手以上の絲を製しマンチェスター府の製絲と東洋の市場に競爭するを得へきなり。今日支那印度等の綿を以て紡績したる製品は孟買(ボンベー)と競爭するを得へきも。彼マンチェスター製絲とは到底競爭し能はさるなり。以上の事業體て以て企圖すへき此航路は各國幸に未た着手せす。之を我國商工業對外策上考察するに第二期の一着手に占取し置かさるへからす。

次は上海以南より印度歐洲に至るの航路にして。此航路は最も樞要の航路なるを以て。第一着手とすへしと雖も。既に上海に至るまての航權及ひ其支線なる支那北部の

航路をも開拓せるを以て。是より以南なる香港、東京、新嘉坡、暹羅、緬甸、印度、亞弗利加、歐羅巴に延擴するにあるのみ。之を工業對外策上より考ふるに印度支那等の綿を入れ又支那北部より羊毛駱駝の毛を入れ。而して我邦よりは現今巨額の石炭を支那香港に向て輸出するを以て將來我國の一大市場たるや疑なし。然りと雖も英佛獨等の諸國既に航海權を擅にするを以て。之を一朝に凌駕するは容易の業にあらず。故に先ず他の容易なるものを占取して充分の勢力を蓄へ。然る後此に着手するを得策となす。是に於てか第二期の次に置く。

第五は加那陀に對する航路にして。此航路の前途に開拓すべき市場は曰北米合衆國。亞米利加。曰西歐羅巴。

第六は桑港に對する航路にして。此航路の前途に開拓すべき市場は曰北米合衆國。曰西歐羅巴。曰加奈陀。

以上の航路は之を第三期に着手すべきものとす。而して此二航路は孰れを先にし孰れを後にすべきか殆んと其緩急を分ち難しと雖も。東洋より歐羅巴の西部に至る郵便物は。加那陀を通行するを以て最近路となすを以て。先つ加那陀を先きにせさるべからず。先年亞米利加太平洋郵便會社の大に失敗を招きし如き機會あらば。我は進んて此機會に乘じ。必すしも順序緩急を論せすして直ちに占取すべしと雖も。今日は已に其失敗を回復したるを以て機の乘すべきなく。且つ彼れには此等航路に連絡せる鐵道ありて貨客を運送するに便利なるのみならず。米人の我と支那とに對する感情上容易に競敵し能はさるものあり。是を以て先つ此航路を最後に置けり。然れとも決して怠にする謂にあらさる也。

我國の航路にせよ鐵道にせよ其の一全備すれば。兩者共に其利を全ふすると能はず。鐵道布設法案は議會を通過せしと雖も我日本の如き島國は。亞細亞大陸、北亞米利加或は濠州と連絡を着けされば其の利益を全ふすると能はず。即ち水路陸路なる齒唇相據つて而後始めて完全なる希望を達し得へきなり是に於てか余は諸大陸と連絡する航路を占取する必要を說く先年余が英國に在留せし際。一多ブライトン南沿岸鐵道會社の鐵道製造所長某と相知り。一日製造所を見しに所長は余に示すに二艘の新船の圖をして曰く鐵道會社にして滊船を有するが如きは甚た怪むへき

に似たりと。彼れ答て曰く英國の如き島國は縱令鐵道にて海岸に出づるも雖も其得る所の利益極めて微少。故に利益を充分に獲取せんには其鐵道を大陸の鐵道に連絡せしめざるべからず。其間を連絡するに付て鐵道會社は必ず滊船を要するなりと。斯くの如く萬事其計畫の全く周到にして成就せざれば決して其の利益を全する能はざるものなり。我國の如き假然內國の鐵道を蜘蛛の巢の如く布設すと雖も之と諸大陸鐵道との連絡をなす媒介者たる航路を開くにあらずんば。折角六千萬圓を費して布設したる鐵道も其の利を全ふする能はざるあり。之を國內の實例に照すに山陽鐵道會社の如き最も適明なるを見る。嘗て神戶商法會議所に於て演說せしとき。山陽鐵道會社の株主に忠告せし筆記を左に揭げん。

山陽鐵道會社の全利を占めんには。此の鐵道の馬關に出で門司の九州鐵道に連絡して始めて其全利を占むることを得べし。此の鐵道は現今神戶より尾道を經て三原まで布設せられたり。而して會社の利益に至つては甚だ僅少なりとす。是れ蓋し山陽鐵道の過にあらず其理事者の物を見るや小局に泥んで眼を大局に注がざるの致す所なり。

抑も山陽鐵道が尾道にまで布設せらるゝや。其當局者は豫じめ思考せざるべからざる事あり。則ち幾年の後に此の鐵道を馬關まで全通し門司に連結するを得るか。今之を五年後とすれば之に從て尾道より門司まで連絡すべき計畫を爲さゞるべからず。後の英國の鐵道會社の如く山陽鐵道會社が其の間を連絡すべき滊船を持たざるべからず。已むなくんば大坂の商船會社若しくは共榮社と特約を結びて其間を連絡するも可ならん。而して神戶に於て廣島なり岩國なり三田尻なり馬關なり門司までなりを通ずべき船客或は貨物の全通切手（スルーチケット）を出し。船客か神戶より尾道に着するや。船客を直ちに滊船に乘り込ましめ荷物は尙ほ會社之を預りて客を煩はさず。其の到着地に於て之を渡すとゝなすべし。又會社に於て滊船を持つとすれば四五艘を備へて尾の道より廣島、三田尻、馬關、門司に航し。又門司、馬關より三田尻尾道に連結して船客及び荷物を運搬し神戶に出さば恰も鐵道の門司及び馬關より神戶に連絡するものと同一なりと云ふべし。右の如くにして此鐵道が廣島に出づれば則ち門司廣島間を連結し。鐵道開くるに從つて其の地より連絡すべし。斯の如くにして後始めて山陽鐵道會社の全通と同等の利益を收得せらるゝ也。

我國現今の狀態既に遽へし如く。六大航路の衝に當りて其の航海權を握り。此航路を利用して將來世界の覇たらんとする有望の位置を占めなから。國民航海上の勇氣思想は日に減退せんとするの勢あるは亦嘆すべからずや。余の九州に至らんとするや。神戸より中國通ひの船に乘りしに。一旦淡路に止まり更に神戸に戻りしを以て其故を問ふに曰く。播州灘風難ありと。而してこれ日本帆前船のなほ且つ通航し居る時なりき。後土州に至らんとして神戸より乘船せしに降雨のために二日間滯留して漸く大阪より發するとを得たり。船長はいふ降雨の際土州沖浪高しと。又敦賀より日本海を航するに小船は春夏の間通ずるとを得るとも雖も少しく風雨の虞あれば到底出帆するとをなし。かゝる類些の風雨に怯ち恐るゝか如くんば万里渺茫たる太洋の間において諸大國と相爭ひ航海權を握らんとするとは思も寄らぬとにあらずや。余は思ふ今や速にかゝる長惠心を除て大に航海的意氣を奮興さしむるの時にして速かに策を立てざるべからず。而して是等の小風雨を畏るゝ所以のものは。單竟船舶の小なるを以てなり。故に之が策たる日本海太平洋夫れ〳〵船舶の噸數を下に限り。例つは日本海海は三百噸以上北海道行は二百噸以上に限るか如くにして。以て國民の航海

勇氣を養成するは將來のため國策上甚た必要の事なるが如し。然れども此の如きは即今に取りては多少の不便あるべし。何となれば内地の鉄道も未た十分に開通せず運搬の便甚だ欠くる所あるが故。物貨集散の場所徒らに多く散漫し貨物を一地に多く集むると能はず。因て小船により之を運搬すると寧ろ便利なるものあり。されど一旦鉄道の架設全きに至り通運の便内地に普きに至らは物貨一處に集散して場所處々に減するを以て小船によりて各所に立ち寄らんより大船にて成るべく小數の場所に立ち寄るの便あるを見る。是れ余の航海上の策として他日船舶の噸數を下に限るの利あるをいふ所以なり。

又次に余の所謂國有航路の説は即今行はるべからずとすれは。外國に對して新たに航路の開けたるときは之を開きたる人或は會社に年限を定めて特有せしむるの方法を行はざるべからず。今北陸道に行かんに該地よりウラヂオストックに向て航路を新たに開かんとするの思考は多くの人の有する所なり。然れども新たに之を開くも其當時は敢て十分の利益あるにあらず而かも種々の困難を破り能力資本を費やして之を爲し。將に利益の上からんとするとき忽ち競爭者出で來りて其利を奪ふとと今

日と異なるなくんば。誰れかまた力を新航路に致すものあらんや。されば六年、十年乃至十二年と年限を定めて其發見者に該航路を專有せしむることは。之を理論上よりするも又航海權を占めんとする國策としても必す須要の方法たるべきあり。然れども人或は疑ふあらん。さりなから現に專賣特許は今日法律の許す所にあらずやと。それ新たに物品を發明せんがために能力資力を費やしたるによるのみ。航路亦之に異なるめ理あるべからず。特に我國にありては事業起るときは忽ち之と競爭者出て來りて終に共に斃るゝに至るは世の通弊なり。顧みる所なかるべけんや。而して今日本海よりウラヂオストックに達する航路の如きは最も速かに此策を施して奬勵する所なかるべからず。若し亦國有航路の方法を行はんと欲せば。此航路を買上ぐるの道を立つるも亦可なり。

第二　港灣——國港州港縣港を區別すべき事——港灣資格調査委員組織案——國港撰定私見——特別輸出港改正意見

我邦の商業對外策の大本より算出せる第二の國策は即ち下の如し。假令我國をして

世界の問屋となすと雖も。其店もなく看板も掲げずして徒らに手を組み我は問屋なりといふとも焉んぞ能く貨物を集め利客を引くを得んや。

苟も我日本が東洋及び世界の問屋たらんとせば先つ必す此等の策を豫畫せざるべからず。抑本問屋の店頭とは何ぞ即ち我國の港之れなり。夫れ港は一國に取りて頗る重要の位地に立つものにして。船舶の此に出入するときは其港況により。其國人智の程度。富強の如何。國民有爲の氣概如何を。皆之に由て推知するに足るは余歐米處々を徘徊して之を實檢せり。而して港は鐵道と航路とに於ける大連鎖なるを以て之に依據して鐵道と航路との氣脈始て全きを得べき也。已に上の如しとすれは我日本たる問屋は倘此の箇處に店先き即ち埠頭を造り門を建つへきか。又如何なる種類の店を造りたらんには東洋丼に世界の貨物は我店頭に湊集し來るべきか是れ商業對外策上最要の問題なり。況んや港の良好なると否とは物貨集散上の影響より一國對外策の立否をさへ左右するの畛域となるものあるをや。我國今日築港の怠慢なるを見ば志ある者の讐視が亦嘆ぜざらんや。畢竟するに我國が東洋に對し世界に對する問屋なる所謂商業對外策上より見るも。又我國が南洋印度米州より原品を取り來りて之を製造

し以て支那朝鮮西比利亞の市場に出す所謂工業對外策上より見るも築港の事業は國家問題として必ず速かになさゞるべからざる所の事業たり。

余輩かに按するに第一南大門即ち支那、濠州、南洋諸島、香港、東京、緬甸、印度、東歐羅巴に對する南の關門は之を九州に設けさるへからず。第二には西大門即ち西比利亞、朝鮮、北支那、東歐羅巴に對する港をは北海々岸に造らさるへからず。第三東大門即ち米國、加奈陀、歐羅巴西部に對する玄關をは太平洋岸に建てさるへからず。第四に中央門即ち我日本內國のみならず東洋及び世界に對する商業の中心點たるへき地方に一大港を造るの必要あり。此四大港を確定して以て之を國港となし且つ我國にては商工業の對外策上より是非とも此國港の外なほ開かざるべからさる港あり。即ち九州、中國、四國、北陸、北海道、東北、東海何れの地方と雖も我國の地形上より一地方の二縣三縣の貨物を集むべき港を開くこと是なり。之れを稱して州港と云ふ例へは北陸にては舊金澤藩の能登加賀越中は其地勢後に山脈を帶ひて自ら一小天地をなす。此間に一港を開き鐵道を布設するに至らは此三國の外なほ飛驒の貨物をも此に集むることを得へし。又越後も自ら一小天地の形を具ふ信州岩代の貨物亦此に致すべし。又秋田縣に

一港を築かんか勿前、陸中、陸奥の貨物は此に送致するを得べし。又高知の須崎、北海道の小樽の如き皆是なり。第三には唯一縣に對する一港を築くべし。例へは山口縣の中ノ關の如し之を縣港と云ふ斯く港を分て國港、州港、縣港の三段となし且つ其築港費用の如きは國庫より或は國港は日本國四千万人の共有店の玄關なるが故に日本人全躰の力を以て之れを築かざるべからず。換言すれは國庫によりて之を支辨すべく而して其數四港とすれは十港三百圓內外(横濱は既に米國より返却の償金を以て築港に着手し居るを以て之を除く)となるべし。一地方の港は其地方數縣の連合經濟と國庫の補助を仰ぐべく一縣の港は地方稅によりて之を辨ずべし。

余は日本四周沿岸の港灣を視察して私かに其意見を定むることを得たり。然れども凡そ港の良否を確定せんには種々の點より考勘せざるべからず。或は水路の上より或は軍略の上より又は土木の上より又商工業對外策上、航海上若しくは經濟上等幾多の方向より觀察するを要す。然るに近來我國人のなす所を見るに多くは僅かに其一二の點をのみ觀察して全く他を顧みざるもの實に少からず。特に近年北海沿岸の諸國の如きは專ら北利亞に對する港を開きて國港となさんとするの競爭將さに盛ならん

んとす。此の如きは一方よりは我國人の商業上對外思想の發達したるものとして歓ぶべきが如しと雖も。他の一方より觀るときは亦大に匡正せざるべからざるの弊あり。我國の太關門國港なるものは決して左る多くを要するものにあらずして諸港中の一を選ばさるべからず。然るに斯くも諸港相競爭せる際。愈西比利亞鐵道の工事漸く進み竣工の期に達する比ひには競爭の熱度益加はり終に甚たしき弊害を見るに至るべし。第一には到底其望みなき港に向て資本と勞力とを徒費し。第二に其地方の經濟の許さゝるかため資本少くして築港を急ぎ却て天然の良港を破るに至ること、あるべし。現に門司の如きは小資本を以て工事を起し却て良港たるの質を破り熊本三角港の如きも三十万圓の資本を投ぜるに過ぎざりしかため漸く港の體形を造り得たるのみなりき。今以上の二弊を防かんと欲せは宜しく速かに港の品位資格を定めて。或は國港或は州港縣港皆各之を選定し而して着々其事に從ふべし。之は西比利亞鐵道に對する日本沿岸に於ては最も急速を要す而して其他一般に及ぼすとも我商工業對策上急にすべからざる所にして。國防上より見るも亦等閑に附すべからざる國策なるべし。

前述の意見を以て余此頃東邦協會に左の案を提出し將に之を實行せんとす

日本北海沿岸港灣資格調査委員組織に付ての議案

日本北海沿岸諸港の浦鹽斯德に對する準備上各州人士の狀勢を觀るに。丹後州民の宮津に於ける福井縣士民の敦賀に於ける石川縣士民の七尾に於ける富山縣士民の伏木に於ける新潟縣有志家の新潟及ひ松ケ崎に於ける秋田有志家の舟川に於ける等各自其州の港灣を開築せんと欲し。新潟に期成會あり。丹後に有志家の奔走するあり。伏木舟川の如きは已に測量に着手せり。現時の勢を以て將來の狀を察するに。西比利亞鐵道の工事其歩を進むるに從ふて各地築港競爭の熱愈昂騰せむとは必然なりとす。然者此結果たるや各州各地互に小資金を以て自州の港灣開築を企つるか故に完全の事業を成す能はす。動すれは却て天然の良港たる形質を損し。又開築に見込なき箇處に資本を投耗するの慨なしとせす。是豈憂ふべきことならすや。於是乎輩は港格撰定委員を設け。各地港灣を按し。第一國港たるへきものを撰定し。次に州港（二）（縣港）縣港を選み。各其等格を定むるの必要なるを認む。是れ獨り西比利亞貿易に對する港のみならす。內國諸州に對する全國の港灣をも斯の如くにして選定せんと欲

するなり。而して此事たるや、最も公平無私にして正大なる國利眼より觀察するを要す。故に予備不備なる此東邦協會に於て、之か案を提出せし所以なり。

或は曰はむ、東邦協會は薄資にして此等目的を達するの費を給する能はずと。然れとも予輩は敢て巨費を要せずして歩を進むる方法なしとせず。試に其一二を擧けむに。先つ委員を定め、委員定らは取調條項を決定し、之を印刷し各地方廳郡廳及縣會參事會又は商法會議等に適牒して其意見及ひ調査書其他の材料參考等を徴集し、尚ほ分明を缺くときは更に通牒して幾回か往復質議するを要す。斯る費用は僅か印刷代價と郵便稅とのみ。而して其徴集せる材料に依り精査すれば各地小港灣の調査は漸次に結了するを得べく而して其調査の最も容易に非るものは、唯全國大港灣即ち國港となるべきもの若干處なるべし。更に之に對して審密に調査し、此時に於て必す實檢調査を要するとき、會員中の有志家自費を以て奮發探檢すべきのみ。斯の如くならは、敢て多資を費さゞるも、其目的は大略達し得らるべき也。而して委員組織に就ての

凡そ港灣の可否等を檢定するは、單に或る一二の點のみを以て之を察す可らす。故に。予は左の五種中より、十人の委員及ひ委員長理事を擧けんと欲す。

海軍水路部より	一人
海軍參謀本部	一人
陸軍參謀本部	一人
陸軍工兵	一人
内務省土木局より	一人
鉄道廳技師	一人
農商務省	一人
貿易商工業に熟達せる人	一人
内國商工業に熟達せる人	一人
理財學に長せる人	一人

五　航海
管船局より　一人
郵船會社より　一人
委員長　一人

港格選定の條項
一國港を定むる事
州港縣に及ひ縣港をも撰定す
一般順序の（第一）期　西比利亞に對する港
（第二）期　濠洲米洲及ひ亞細亞大陸に對する港
二內國外國航路現在將來と國港との關係
三內國物貨の集散と國港との關係
四鐵道と國港との關係
五海陸軍の事上に於ける國港の關係
六我國現在の工業地と國港の關係

理事　一人

七築港費支出の方法
八築港の設計

九「ポート」と國港との關係
以上の港格選定委員の調査に依りて國港州港縣港の資格を選定し得へしと雖も。余は余か日本各港を實地に視察して其得たる材料を基とし。試に余一箇の意見を敘ふへし。然れとも港灣の事たる多く水路に關係し。余一私人の自から爲し能はさる事あるを以て。水路の事のみは一に水路局長海軍大佐肝付兼行君の開港場論。實測水路誌。及ひ水路雜誌を參酌し。之を余か實見に照らし取捨する所あり。

（特別輸出港）假屋。佐世保。（軍港）長崎。（開港場）三角（特別輸出港）鹿兒島。猪之串等にして。就中南大門即ち國港の候補とすへきものは門司。長崎。鹿兒島及ひ猪之串。假屋の五港なり。大凡各國何れを問はず港には各々別ありて。輸出を主とせるもの。輸入を主とするもの。輸出入を兼ぬるもの。又輸出輸入其一を取るものとあり。我橫濱長崎函館の如きは則ち輸出其

主に居るものにして。大坂神戸の如きは輸入其主に居るものなり。又彼のボルドー港及びマルセイユ港の如きは輸出入を兼ぬるものにして。ハイレー港は輸出のみをなすものなり。今我國南大門の國港は輸出入孰れを主要とすべきか。單に商業對外策上より觀るときは問屋たるにあるを以て輸出入何れを論ぜずと雖も。之を工業對外策上より視るときは寧ろ輸出に重を置かざるを得ず。何となれば我日本は十九世紀器械的製造所を九州に置き。其製造品を盛んに支那及び西比利亞南洋濠州等に輸出するの必要あればなり。

猪之串港は陸岸の環繞港内の廣狹水の淺深潮水の性質等。總て船舶を安全に碇泊せしむるの要素具備れりとは。肝付氏の說なれども。然れども九州の地形山脈上より考察するに。將來器械的工業の中心點たるべき筑後佐賀熊本博多地方との隔ありて物貨集散並に親るるときは頗る欠點なき能はず。況んや南大門は支那濠州南洋群島に對する國港なるに於てをや。尤もパンコー、ニカラグアの航路を此に引くの望みもなきにはあらずといへども。南大門にしては其資格の欠乏するを覺ふるなり。鹿兒島港は繫船岸壁過ぐるも雖も十分手を盡し淺所を選んで築港せば極めて良好の港

となすことを得べしとは該地有識者の謂ふところにして故大山縣令の如きは。日向波見灣より高須浦まで運河を開鑿し。佐多岬の迂路を取らずして風波を避るの策を立てたりと云ふ。是れ其間里程六七里に過きずして且つ平坦なれば。敢て難事にあらざるべしと雖も其業にして敢て支相償やいやに至りては疑なき能はず。此地支那大陸と相對しパロリパ、サンフランシスコに至るの航路。又ニカラグア運河よりウラジオストック、上海に至るの航路も皆此に引かんとは能はざるにあらざるべし。然れども九州物貨集散の點よりすれば他方に劣れるものあるは明なり。將來九州鐵道一は門司、博多、鳥栖、熊本、八代、人吉を經て鹿兒嶋に至り。一は門司に起り中津大分宮崎都城を過き鹿兒嶋に止り。且つ鳥栖より岐れて佐賀を經て長崎に出て又一線は熊本より一直線に太勢に至る。然らば日向熊本等の貨物は鹿兒嶋に下るべきも。日本工業の中心點たる筑後福岡佐賀地方の貨物は皆長崎若しくは假屋に向ふべき也。宮崎縣の如きは米開の阪土にして豐饒の地多く。世人之を稱して九州の北海道と云ふ。將來着々之を開拓し桑園田畑を開き生絲米穀を輸出するに至らば日向には一の良港なきを以て凡て鹿兒嶋に集まらざるべからざるか故。之を州港ともて最も適當なるのみならず。軍

港をして最も固く之を守らざるべからず。此點は政治對外策の國策編に至りて詳述すべし。次に門司の其位置はコカラグア漆太剌利亞バンコーバより、ウラヂヲストックに至らんとするときは其船舶の寄港して石炭を積むに適せる場處にして、之を南の大門とするよりは寧ろ歐米及び濠洲西比利亞に對する航海上の寄港と見るの適當なるを覺ふ。又門司を貨物集散の點より觀察すれば將來ニカラグアの運河開けて米洲南部の綿を我國に輸入し、彼の他日我內地に對し並に外國に對する工業地たるべき長門の小野田、筑前遠賀川の近傍に製造所を起して之を製造し、ウラヂヲストック朝鮮支那等に出すとを得べく、又筑前地方の石炭を外國に出し外國船に貿易渡すとを得べし。尤も此等將來工業の事につきては工業對外策の國策編に詳述すべきも、若し我國にして四十手以上の絲を製してマンチェスターと排抗せんと欲せば、原料綿之を米國に取るより外あるべからず。米國の綿は今日にありてこそ其價高直なりといへども今の如く引き合はぬとはなかるべく、此時に當りて之を携へ來りて門司より小野田遠賀川地方の製造場にて之を製造すべきも、我國南大門は最も目指す所は支那濠洲の大市場にして、我邦の器械的工業の中心點を遠く隔離せしめず且つ西南にあるを善しとす。

門司は下ノ關の海峽中に在て、其前面に濠洲の長く横たはるあるが爲めに、泊地は甚た廣からずして且つ流潮頗る急激なりといへども幸にして其海岸の至近は流潮稍を寬なるを以て、其岸際の水深を深むるに於ては、西方白木崎までを利用するも其延長二海里に亘り、或は白木崎以南といへども亦流潮に注意して戒むる所あらんには、約一海里の間を繫泊に利用も得べきか故に、此通して三海里の岸邊には大汽船にして三十隻の船舶を繫泊せしむること敢て難きにあらざるべしと。

若し九州の地になほ他の良港なくんば則ち已みなん。苟くも之れあらば門司は寧ろ九州港の地に居らざるべからず。何となれば其港の規模甚た小にして且つ地勢三面山に包まれ、三十艘の船は碇泊し得べきも之に積むべき貨物を置くに餘地なし。換言すれば倉庫を建つべき地少なしといふにあり。今日の如く單に石炭の商賣に止まらしむれば兎も角も、若他の商賣上貨物は丁重にせざるときは、外國人は決して其貨物を出入せしむるとなかるべし。此に於て我國人の此に大に考ふべきは我國人の貨物を疎

畧にして。ために來す所の破損を顧みざると是なり。現に余の漫遊中の經驗によるに。獨郵船會社の船のみは荷物を甲板上に積むか如きとなしと雖も。其以外の船は積み得る丈甲板上までも皆な之を積み上げ風雨に暴らす等のとは少しも考へざるなり。斯の如きは唯己れの利を知りて貨物所有者の破損若しくは濕氣等のために不利を來すを思はざるによる。察せざるべからざるを覺知せる今日なれは。外國に對して商業を營まんとするに於ては最も貨物安全の要心なかるべからず。是れ倉庫等の準備不十分にては決して能ふべき事にあらず。門司は東南及び西半の山脈を繞らすを以て光線を受くること頗る不十分にして到底此港は繁榮の見込おるなし。夫れ人類は十分日光を受けて活潑の氣象起り依て以て活潑の事業を起し能ふものにして。日影にては到底活潑の事業をなす能はざるものなり。余曾て同海峽に在る下關の民に開けて而して門司の近日漸く世に現はるゝに至りしは何の故なるかを考ふるに下關は東南方充分の光線を受け門司は光線の不十分なるを知りぬ。余の門司より下關に至れるや有志者來り曾ていふ門司日に盛にして下關月に衰ふと。余故に曰く下關は門司のために何の

商賣を奪はれしか。下關に居りて對岸の門司を一見するに九州鐵道會社は彼地に建られ練瓦石の家は並列したり。恰かも下關の繁榮を彼に奪はれたるか如く思はるゝとなきにあらずといへども。下關は之がために何等の商賣を奪れしともなく。特に穀物商賣の如きは倉庫なきがため門司に於ては到底現になす能はざる所にして。將來も亦然ることにあらずや。若し夫れ下關は之に反して過去の倉庫を有しなほ將來も之を建つるの望あり。唯今日迄下關に上りて九州に至るの旅客の今は門司に上るに至れるのみ。されどこれ亦他日山陽鐵道の下關に達するの日は必ず下關に來るべきは明なり。此際門司にありて外國貿易となしてなし能ふ所は唯石炭商賣あるのみ。石炭は之を海濱に置くも別に倉庫を設くるの要なきなり。今筑前遠賀川近傍より出す所の石炭凡そ十八億万斤なれは門司は之を外國に出し或は外國船に積むとあるのみ。然らは元來下關に石炭商賣あり今は下關を去りて新たに門司に移りたるか。必ず左にはあらざるべし。左らば下關の商賣は何等の損をもなしたるとなきにあらずや。故に余は若し馬關の海峽に港を開かば寧ろ下の關を開くに如かすといはんのみ。若し下の關を以て開港場とするときは門司も亦一部たるべし。即ち門司をも一市の管轄

内に置きて其競爭を止め相合して之を盛にして馬關の港と稱し。之を以て一方は本島一方は九州の間に立ち其連結の無形の鎖たらしむべし。兎に角門司は南の大門たるへき候補者の殘餘に最早假屋長崎の二港あるのみ肝付君假屋を論して曰く

假屋は伊万里と名古屋との間に在り。從來未た多く世人の知らさる所なるも陸岸の環繞水深。底質の適良は固より港内の廣袤。暗礁の無害其港形及各要素を具ふるとに於ては舞鶴の次き宮津の上に位すべきの港灣たるを以て。即ち一の開港場とせすといへとも得難きの良港と信したるを以て。爲すに適す。余は未た其地を實踐せす目下人を派して實測せしめつゝあるなり。乃ち今日までに得たる所の報道によれは。果して余が信する所に違はす。灣内は東西一海里南北二海里。水深七八尋にして底質は泥なり且つ岸邊まて深くして。能く船を近かつくるに足る。他日若し九州鐵道の佐賀。佐世保線を起工するに當り其中央より少しく佐賀に近き邊より分岐して之に分線を通せんには。十八哩許りの延長にして足るへし。而して浦潮期德港への航路は六百五十海里にして釜山への航路は百十五海里なり

假屋の地勢は即ち此の如し故に日本海の西南口に自由港を開て浦潮斯德と上海及香港の往復船を招致せんと欲せは假屋は實に最良の地位にあるものなり。即ち對岸の釜山を壓し其地に寄泊せんとするものを引き寄するに足るものは之を措て他にあらすと信するなり

又此地方の近隣は一般に炭礦に富みて殊に唐津炭礦の如きは僅に數里を距つに過きず且今般歸京せる測量員より聞く處に據れは近頃灣門の東角をなせる所の半島に無煙炭礦を發見せりと是亦開港場を開くに利あるの一要素なり豈多望の港灣ならずや

余も亦曩に自ら小船に棹し港の入口より港内を檢し陸上まて委しく之を調査したり此地の位置は如何にもウヲヲォストックより航路を此に通じ之より上海に向ふときは其角度の中には元山釜山仁川天津芝罘等の諸港皆之れに包まるを以て極めて好適の處にあり。且船舶を安全に碇泊せしむる要素に至つては全備せりと謂ふべし。石炭をも港内の松ヶ崎より出すべく唯一の欠點として余の見る所は市街を建つべき地少なきにあり。現に假屋と云ふ村落には百三十五の漁家すらなほ山上に建てらる

ゝ程なり。されどこれより東南に當りて新田あり。此處には三四万坪の地を得べし。次に貨物集散の點は假屋より唐津を經て佐賀に出づる道路は余の親しく踏める所なるか是れ極て難路にして鐵道布設に莫大の費を要す。九州鐵道の佐賀より佐世保に至るものを有田より分岐して。十八九哩延長するときは此に達せしむべけれども。果して貨物は十分此に集まり來るべきか。或は長崎を修築するときは寧ろ此れ彼に優るなきか。そは又長崎を論するときに詳にすべし。且假屋は之を開くとするも貨物を輸入する一の門と見る方其性質に適すべく。內地貨物の集散點は先つ長崎に一歩を輸せざる能はず。尤も有田の陶器其他佐賀地方の貨物は此に集まるべき見込あるも。こは至て僅少なり。

此に研究せざるべからざる問題は將來我國の港を開かんとするに當りては。日本形船の出入は便不便を顧みるを要せず。單に蒸溜船のみの港を開くべきか。或は兩つながら之を入泊せしむる港を開くべきかのこと是也。而して余は內國貨物の運搬特に石炭の送致には日本形船の必要なるを謂ふなり。然るに假屋の今日迄日本航海者に知られずして海軍省すら佐世保鎭守府を開くに至るまで之に氣附かすして。漸く昨

218994

年世に現はゝるに及びし所以のものを察するに蓋し二因あり。則ち其一は日本形船に對しては港の大に過ぐるによるものにして。其二は玄海洋の冬時三四ヶ月間は西風常に烈しく日本形船は元來西風を後に取る港を選ぶものなれば。彼の熟練なる航海者は平戸の田助港若くは大島に船かゝりして西風を一手に受け。玄海洋を乘り放して博多下關に航するの習慣なり。假屋は其港口恰かも西に向ひ殆んと二三里の間は眞向きに西風を受けざるか故に。蒸溜船ならば不都合なかるべきも日本形船のためには極めて不適當の港にして。冬時一たひ此處に入泊しなは容易に開帆することを能はさるべし。是れ其眞港の久しく日本船航海者の注意を引かざりし所以なるべし。敦賀の如きも日本形船は冬時は港口北に向るか爲め出船すると能はずといふ。此點亦大に港を撰定せんかためには考へざるべからざるなり。されど若し他日帆の風に對する角度の取り方等により西風を受くるも差支はなきの日に至らはいざ知らず。先づ今日の狀態にては日本形船の不便を顧みず單に蒸溜船のみに對する港を開かんとするは實際を顧みさる急進論たるを免れず。是に於てか長崎假屋孰れを取るべきか其比較的利害を述へん。

長崎の假屋に優れるは一目して瞭然たることとす。況んや長崎を捨てゝ假屋を取るは國家經濟上の不利甚だ大なるものあるをや。何となれば第一國港を築かんために前にいへるか如く一港に對して三百万圓の費用を要すへし。而して同じく三百万圓を投して假屋を修築するも以て長崎の十分一に當る開港場を作るに難からん。長崎は既に數百年間我邦唯一の開港場として内外に知られ。内人外人の資本を投し家屋倉庫を造り居留地を建て稅關ありドックもあり其費やせし所は蓋し少くとも二三千万圓に下らざるべし。新築の邸宅にありては庭石一個、柱楹一本と雖も容易に古き場所の如きに及ぶものにあらず。然るに今長崎を捨てゝ假屋に三百万圓を投し新に修築すと雖も商に長崎に及はさるのみならず今日に至るまで長崎に費せる金額凡そ二三千万圓は皆無形と變して消え去るべし或は固形を變せずして之を假屋に移し得るものありとするも。三千万圓の半額即ち一千五百万圓は糞土を棄つるに同じ。況んや其地特有固着して移し能はさるものに於てをや。徒に人力を費やし徒らに財を糜し而して得る所のものなし。國家經濟上豈此より不利の大なるものあらんや。且つ長崎港に於ける無形の價値は更に之れより大なるものあり。長崎には貿易上の

機關たるべき言語習慣業に既に成立しあるなり。是れ我國貿易上無形の資本にしてなほ詳細に之を言へば。外國商賣に慣熟したる人夫一人と雖も其價値は極めて少からず。例へば我國の米を輸出するに神戸と兵庫は僅々の距離に過ぎずといへども。外人は曾兵庫の荷積みにあらされは之を買ふことを欲せず。これ兵庫は古來穀物の商賣に慣れ荷造りも巧みにして期日を違へざるとを得るによる。長崎は古來の開港場なり然るに此慣習に長したるの地を捨てゝ兵庫より神戸にすら遷す能はさる者を以て之を新開の假屋に轉ぜしめんとするも固より其不利なるは言を俟たざるなり。且つ南大門は前に述へたりし如く。日本なる問屋の店さきなるか故に。商標看板を掲ぐるとも亦頗る必要ある事にして。所謂三井といひ大丸といふが如く商賣上の様は亦日本の店さきにも極めて大切なるものとす。而して長崎が開港場となりし以來外國航海者貿易者は日本を知らざるものも唯長崎はよく之れを知れる程なれは。此歴史上の日本唯一の開港場たるより生じたる長崎港の様は決して金銀によりて求め得べき者にあらず。假令假屋に費やすに二三千万圓を以てするも唯此様は到底得るとて能はず。長崎の如き格段の場合を經て始めて此に成り立つことを得るものとす。長崎の

終に捨つべからざるは愈明なり。余曾て伊國漫遊するに當り恰もゼノアの古港改築するを見る。此港たる往昔世界に對して一大株を有す。即ち閣龍は此處に生れたるなれは世界の航海者貿易者たるものは皆永く記臆に存するなり。故に伊國は新港を開かずして却て古港を改築せしなり。又航路は常に一定して太洋上とて決して思ふまゝに船舶の通じ得る者にあらず。航路は陸上よりも更に確定せるものなるに。今假屋を新たに開かんとせは世界航海圖に變更を及ほさゝるべからず。是れ我國の不利なるのみならず利害上外人の欲せさる所なるへし。斯く論じ來りて偖長崎の性質を言はん

（長崎港は我邦五港の一にして其港門は男神埼を西角とし女神埼を東角とし南西に開向す而して其外側は西に伊王島。沖島南に香燒嶋。蠑尾嶋北に松島。中島。神島。高鉾島等ありて港門を環圍す故に此港たる全く各方の風を遮護し得べき一大安畧にして大小各種の船舶を入るゝに便なり

港門即ち男神埼。女神埼の間は濶さ三鏈にして其以内漸く廣く（兩岸に數灣あるなり以て此間幅員一なり）北東微北の方二里に延長し長崎市街の處に至れは其濶さ七鏈半となる此より又北方一里港首に至るの間縮窄し且つ非常の淺水となる又港内の水深は港口に於て十六尋ありと雖も漸次に殘し市街附近の處に至れば僅に三尋となる（寰瀛水路誌）

少しく狹小を免れすと雖も若し之を修築するときは此憂を除くと難からず。然らは愈長崎港を以て支那濠洲に對する我邦の南大門とし。貨物を此等の地より入れ又内地より出すへき所謂物貨集散の點は如何にといふに。之を假屋に比して優るあるも決して劣るべからず外國に對する物貨集湊の點を考ふるに支那に達する距離の近きは勿論。歐洲及び濠洲より香港上海を經て來る所の航路。西比利亞より朝鮮沿岸北支那の航路も皆此に取るべし。又工業の原品たる綿の如きは。之を印度支那より入れて内地の工業中心點たる筑後地方。福岡熊本佐賀等の諸方に配布するを得へし。石炭も高嶋の炭坑近きにあるのみならずなほ他より運輸し來るの便あり。且つ港に必須の製鉄所造船所あり税關あり居留地あり新設水道あり倉庫あり彼の門司の如くに狹隘なるなく。若し亦我工業の中心點筑後佐賀熊本ならんにはニカラグア航路を此に取りて米州の綿を輸入し。北支那濠洲等より羊毛を入れ印度支那より綿を入れ其

製造物品を亞細亞大陸及ひ南洋に出すには好位地に居る一たび之を入るれは更に九州の各地に分配するにも亦甚た便宜なるべし。然るに長崎港の外國貿易年々衰へ出入の船舶も月に減す豈須からく救濟の策なかるべけんや。余此に三策あり其費三百万圓にて十分なり今日此三策を施して長崎今日の缺を補ふを得ば。長崎は確かに我國の南大門たるの資格を有するものなりとす。

第一策は佐賀の鐵道を延長して長崎に達すると是なり。第二策は筑紫海諫早より（此間一里半）大村灣に及時津を經て長崎に運河を開鑿すると是なり（此間二里半）第三策は長崎の港灣を浚て棧橋等を造り之を修築すると是なり。長崎港の日に衰頽の況あるは港の惡しきによるにあらずして物貨の集散の途欠くるによる。今實際其貿易を神戸に奪はれし所以を考ふるに其原因二あり。一は長崎貿易商の腐敗せるとにして。外國人の長崎商人と取引せんとするにも一々實物を驗する以上にあらずんば見本によりて取極むることを欲せず是を以て大取引を爲すことを得ず。然るに神戸は之に反して多くは見本に依りて以て爲すゆゑ外商との大取引は總て長崎に於てせずして神戸に於てすることなり。甚しきは肥後米の商賣を遠く神戸にてなす程にて余の肥後に至れるとき

も六万石を神戸に送るといふを米商人に聞く。二は、物貨集散の途缺けたるとは最も重なる原因なるべし。其一例を擧けんに神戸の商人米を船に積て其餘地に菜種六万斤を積きんとす。然るに神戸にありては其相場百斤につき三圓五錢なり更に電信によりて之を長崎に問合せたるに當地にては二圓九十錢との返信に接しぬ。依りて更に六万斤を十二日目に長崎に於て荷積みし得る樣にとの旨發したるに十二日にては受合はず十四日目にては如何やとの答なりしかは。神戸商人は終に之を斷はりて神戸にて三圓五錢の菜種を買ひぬ。蓋し西洋人は我國人の考及はざる時を測ることを商業の一要素とし今若し長崎商人の言の如く十四日目に荷積するとせん乎十二日目には神戸の荷積みを終え長崎に到るへけれは二日間長崎に滯在せざる可らず。然るに長崎の海水は流通極めて惡しく船舶に蠹の附き易き恐あり。加ふるに滯在間の燈明臺に拂ふべき金及び入港稅其他瀘船の役員に拂ふべき金員幷びに二日間滯在せは船中に積載せる貨物の元價に對する資本金の澁滯上より起る損害尠しとなさす。故に此に至れる者なるべし。畢竟長崎に運河鐵道の便なきか爲め。筑後熊本等の地方より來る所の菜種も十二日を要するときは長崎に到着すべしと雖も。確實なる

は十四日を要せざるべからず。何となれば筑紫海は水淺きか故に大船の之に入るとき能はず。少しく風あるときは嶋原沖は小船爲めに通ずると能はざるに至る。故に風雨の慮ありて十四日を要すと返電せるなるべし。若し此に鉄道の通ぜるあらん乎運賃は船より少しく高直なるべきも。例へは五錢の運賃十錢となるとも二圓九十錢の貨物は二圓九十五錢となりて。なほ神戸の三圓五錢なるに比して十錢の低廉たるへし。彼の外商人等は勿論神戸よりは寧ろ長崎取引を望むならん。況んや鉄道に依ときは十二日以前に於て能く之を集むるとを得るをや。特に若し運河の通せるあらんには運賃は寧ろ船より廉直にして。且つ風波の恐もなく其達するこども一層速なるべし。故に鉄道を延長する事運河を開鑿する事の二策は必す取らざるべからざる所にして。特に該運河の如きは將來我國か東洋に對する工業地たるべき筑紫海に沿ふ筑後佐賀熊本の貨物を早崎野岳崎を迂回せず。風雨に關せす少日數にして安然に長崎に致すとを得べし。況此製造地の原品を工業地に入るゝとも容易なり。現に今三池の石炭を支那に出すに幾百の小船を島原口の津に出して之れを大船に遷すも。若し運河によるときは最近の里程により風雨の恐なく之を長崎に出すとを得るなり。而して

其工費の如きも今の概量によるに大凡百萬圓内外に過きざるべしといふ。余親しく其地方を實視せしに平坦にして工業も難事にあらさるへく且つ該運河開鑿のために諫早地方には三千町の水田をつくるを得るに至るべし。なほ此運河のために軍署上に得る所の利益は佐世保鎭守府と熊本師團との連絡を通じて兵粮兵器の運搬上の便宜甚だ大なり。然るに此等の利益あるにも係はらず。土木家の見る所異なる所以は第一假令此運河を開鑿するも之と同時に大村灣の西口を造らざれは運河の効用なかるべしといふにあり。されどこは長崎を目途とせば別に不都合なかるべし。第二大村灣は筑紫海より海面の高きこと一尺余なりと。去れと之を河の如く切り放すときは流朝急烈宜しからざるべきを以て數ヶ所に水門を作らさるへからず。斯の如くすれば海面の高低は介意するに足らざるべく。且つ此運河開鑿工費を百万圓とし。殘餘の二百万圓を以て港内改浚及ひ棧橋架設の費に充てなば。大に其港位を全ふすへきなり。若し將來此等の諸工事を完結して。内は日本工業中心點たる九州地方の貨物の運搬より。外は亞細亞大陸ニカラグア濠州の航路を引き取り。以て我國南大門たるに恰適するもの獨り此長崎の外他あるべからず。況んや長崎は此等の外尚東洋諸國の郵

便路を此に取るべきの場所たるか故に。我世界及ひ東洋の問屋の南大店頭として決して璀しからぬ其港なるに於てをや。而して門司、鹿兒島は州港に適すべく。若松、三角等は縣港たるに合すべし。

乙　中央門

第二に進で中央門撰定の事に及ばんに。山陰道の諸港は未た余の親見せざる所なるを以て詳にすると能はざれは唯其大畧のみを言ふに止むべし。又四國の內海に濱せる部分も亦同じ。中國にて北海に望めるもの出雲の境、丹後の宮津、若狹の小濱、長門の油屋、瀨戶崎等の諸港にして。四國にては宇和嶋、須崎、內海にては馬關、中ノ關、笠戶浦、廣島、神戶、大坂等の諸港なりとす。

先つ四國より論すれば宇和島はニカラグァの航路及サンフランシスコ加奈陀航路のウラヂオストックに至るとき此地に寄航するともあるべしと雖も。全躰上四國には外國に對する國港の必要を認めず州港位にて事足るべし。太平洋岸にても須崎及び之に近接する野見浦等おり。余の特に高知より船路須崎に至り其實檢する所にまるに須崎港は狹長の一灣たり而して高さ千尺前後の高山之を圍みたるが故に最好の避泊

處なり其水門は門家埼を以て西角とし向山崎を以て東角とし幅五鏈灣の深入は一里半にして灣口の水深九尋より五尋に至る然れとも向山埼を繞經するや可航水道忽然として狹く一鏈四分一となり再ひ廣濶となりて泊地に至る其東濱は陸岸にして船を泊するを得べし又西濱は低沙にして淺水なり（寰灣水路誌）

野見浦に至りても數十艘の船舶を入るゝに宜ろし。故に此兩港は國防上の點より詳しく政治對外策の國策篇に述ぶべし。商畧上よりいへば此に州港を開くときは讃岐丸龜より高知に出て須崎に至る鉄道及ひ宇和嶋の國道も連續し。神戶大阪との運搬は十八時間若しくは二十時間にしてなし得べく。將來高知より九州日向地方に航路を立てざるべからざるに至りては必ず之を以て州港となさゝるべからず。浦戶の如きは今日なほ年に三千圓の縣費を以て港灣の浚をなす程にして去る明治二十二年四月には港口に一大變動を生して一淺洲現出し以て港口を閉塞するに至れり。是れ到底望を屬すべき所にあらず。且つ潮水風雨を察せざれば船を入るゝと能はざれは定期船さへ出すこと能はず。今日も高知中議論二派に分れ。一は浦戶を保たんとし。他は須崎を保たんとするものなりと雖も。余は必ず其勝の須崎に歸すべきを知るなり。

內地物貨集散の點よりいふも亦須崎に歸すべきを知るなり。次に一言すべきは凡そ開港の事たる一私人の業にあらず。固と天下の事業たり然るに近來開港の噂盛なるや貴顯投機者流の類は陰かに其地を買占むるものあり。現に須崎の如きは港に近き地を某伯の買上ぐるに至れりといふ。敦賀の事世に喧しきに及びては日本商人の機敏なる常宮の地を一坪三十錢或は三十五錢にて買上げたりといふ。此等は非常に事業の進歩を妨げ既に開港の日に至らば單に一私人の利益を占むべき犧牲となり大に他國情を害し事業の成功を害するの媒介となるべし。

更に中國にうつらんに下ノ關より敦賀に至るまでは別に國港を開くに及ばざるべく境港を以て州港となし以て足れりとす。宮津は西比利亞に對する港の上より後に別論する所あらん。內海に面しては笠戸の浦の如き余の親しく見る所なるが州港には適當の港なるべし。されど馬關を以て大なる州港となさば別に此に開くの要なし。山口縣の縣港は中の關其港たるに合すべし水の澁深、風の防止、海底の性質、物貨集散の度、飲水等其他內地の道路さへ造りたらんには十分なるに至るべし。況んや今や堀伴成氏一個人の手を以て之が築港を企つるあるは實に一縣の幸のみならず實に商

工業對外策上賀せざるを得ざるなり。廣島は築港落成現に縣港たり神戸は我國五港の一にして特に我商業の中心點たる大坂の門口にありて前說の六大航路の集湊する所なり而して內國に對して九州四國畿內北海等より諸物貨の集合し來る所にもして今日已に一年四千七百万圓餘の貿易あり特に將來西比利亞支那南米洲濠洲に對する貿易上よりも商業上の中心點開門たり已に造船所あり機橋ありて今日殊更に其港を改築するに及はずと雖も該港人民の希望の如く速かに兵庫と一通開放して港灣の區域を擴むるを好計となすなり而して神戸と大坂とは元來同灣內にあるを以て之を一集して中央門となすべし。又神戸港は外國航路としては。ペンコーベサンフランシスコ、ニカラグア、濠洲及び香港上海の多數を取るべくウラヂオストクよりの航路に於ける貨物は敦賀を經て玆に出つべく朝鮮支那等に航するものも一度は此に寄港して其貨物を積まざるべからず。大阪の築港は外國內國に對する商港としては又最も忽諸に附すべからざるものにしてこは別に難事にもあらざるべし、否之を難事とするも是非修築せざるべからず。凡そ我國人の考ふる所にては港といへば皆天然の港を指して而して人工の港を設せず然れども將來我邦が東洋に對し世界に

對して一大問題たらんと欲し殊に大阪は我國內商業上の中心點たるを思はゝ假令難事にせよ大阪一港位は人工を以て一氣呵成に修築するの勇氣なかるべからず彼の佛國のカーンー露のオデッサの如きは皆實に人工の港なり人工港豈必ずしも天然港に劣らんや此件はなほ別に日本商業中心點として大阪を評論する所あるべし

丙西大門

更に日本海沿岸諸港を審査して西大門のことに論及せんに宮津、舞鶴(軍港)敦賀、七尾、伏木(特別輸出港)新潟(開港)松ヶ崎、船川、小樽(特別輸出港等の中に就て何れを州港とし何れを國港とすべきか舞鶴のことは軍港なれは之を商港として論すべきに非ず又能登の七尾は畢竟屬望すべからざるものとす肝付氏曾て評論を下して曰く

七尾は陸岸環繞水深底質皆佳良なるも市街の海岸遠淺にして小形の船舶といへども岸を距ること四鏈即ち四百間以內に泊することを得ず又灣外及灣內を通して航路及碇泊に直接の害を與ふるの暗礁甚多く其數凡そ十三に迫ふ殊に灣口の中央にある「森田ぐり」の如きは水面下三尺に突起せる岩石にして甚だ危險なり

又實濱水路誌に曰

南灣外門中央の南部に一段の淺堆あり岩質なるを以て洋人之を岩堆(ロッキーバンク)と名づく其水深三尋より六尋に至る又口の殆んど中央に當りて干潮水深唯二尺の險礁あり洋人「ミル、ザヨス、ロツク」と名づく此口航過の際最も恐れ避くべきの危險とす而して中央南岸の間は海底淺きのみならず暗岩處々に散布すれは中央北岸の間を以て航路となすべし或は云ふ此口の東五里に長さ一鏈水深一尋の二礁ありと或は云ふ觀音崎の南東約一里七鏈に目繰礁ありと或は云ふ野崎の北東約一里六鏈に水深唯二尺の大繰礁ありと灣內水深北灣に比すれは頗る淺くして小口內門最深の處は二十二尋たり而して其海底の狀勢北岸は深く南岸は漸く淺し海底を概して泥沙質とす而して岩石の隱險少しと雖も淺堆の蟠伏すること數處就中其の一なる雄島瀨は雄島より西北西に伏伸すること五鏈半水深僅に十六尺の淺堆なれば七尾に入港するに於て最も恐るべきものとす

余の伏木港より小火輪船に乘りて七尾港を實檢するや南灣港口の暗礁の如きは明々之を水底に見るを得たり若し夫れ二三百噸の船ほともあれ一二千噸以上の大船に至りては到底此港の南灣に入るべくてたに能はさるなり而して之を物貨集散の

黙より視るも決して有望の港にあらず。唯物貨集散よりすれば却て伏木港を以て優れりとす。此等諸港中に國港たるべきものを索めなば。敦賀。を措て他に得べからざるなり。余扁舟に棹さし親しく檢するに。頗る良好の港灣にして北海近傍に未た其比類を見ず。然れとも現今の敦賀は其港口「北西に向へるを以て四時共に偏南東の風には穩便なりと雖も。秋冬の間偏北西の風に會するときは即ち波濤襲來して甚た穩和ならず。(寰瀛水路誌)其西北岸常宮は東南に開け。陽光の映射尤も宜し。其好美の蜜柑の此地に生するは特に光線の如何を證するに足るを以て。商業の取引を活潑ならしむるに好邑市なり。(門司港批評參照)肝付氏曰く

敦賀は灣内の幅一海里半乃至三海里奥行六海里。灣奥の西隅には常宮澳と名つくる廣濶安全なる一澳あるを以て此所を港泊地となさんには幾んど風浪の憂なければなり。乃ち此澳の水深は九尋十尋乃至十一尋にして岸際に於ても五尋乃至七尋ありて其底質は悉く泥なり。故に風浪の安全其他の要素に於ては盡く備はりをるなり。又敦賀より浦鹽港までの距離を測るに四百八十海里にして二晝夜の航程に過ず。而して亦敦賀には方今既に鐵道の便あり之を常宮まて延長するも僅かに

三哩許に過ぎざるなり。

又常宮澳は幅一海里二鏈奥行一海里許にして其全水面は今日現在の儘にして直ちに港泊地となすに足る。若し是にて尚ほ不足を感せは輕子崎より東南に向ひ五六町も突堤を出さば其の安全は宮津にも勝り隨て港泊地の面積を增加し得べし。

又灣門西角の東南蔭に浦底とて奥行二十町幅三百間乃至三百五十間なる天然の安泊あり。即ち其の沿岸の環繞水深、底質の佳良造船場及船渠(ドック)を設けるには無類の好地なり。又此灣には灣門の西角たる立石岬に燈臺あり故に其灣外に外海燈(オーセンライト)の用をなすと共に灣内に對しても其外部の幾分丈けには港燈(ハーボーライト)の用をなせり。即ち航路標識の設置に於ては既に具はりたるの地と謂ふべし。若し是より常宮澳に開港するの日に至り輕子崎若しくば該埼より突堤を出たして其端に一の港燈を補設せんには航路標識に於ては最早之にて間然する所なきなり。乃ち立石岬に燈臺のある一事は茲に今此較せんとする他七港の未た有しおらざる一要素なり。

築港に用ゆる石材の如きは皆近郷より出すべく且つ此地疫癘の流行するなく。飲用水足り現に常宮神社境側を流過する川水の如きは。瑩晶潔冽の泉なり。只市街設立の

地少しく狹隘なりと雖も。今日の敦賀市に連絡せしめは。倉庫等を設くるに充分の餘地あるべし。加之敦賀市に於ける今日幾多の倉庫亦大に用ゆべきなり。凡そ開港上最も注目すべきは「ドック」設立の事にして國港は特に之を必要なりとす。而して盛大繁隆の港となれは。船舶の出入頻繁なるを以て。隨て其船舶の修繕を要す。故に外國の資金多く流れ込むを以て大に利益あるべし。浦底の如きは「ドック」を設るに無比の良好地にして。此點に至ては伏木。新潟。船川。皆肩を比すべきに非ず。況んや此港たる烏剌潮斯德と相距る僅か四百八十里に過ぎさるに於てをや。實に是れ我西大門として頗る恰適の港灣なり。今國庫より三百万圓を支出して之か築港をなし。又大坂に通する運河を開鑿するは。我國策の急務にして。國利を全ふするの道なり。又物貨聚散の點より觀るも。陸路にては敦賀市までの鉄道を三哩常宮に延長すれは。將來東洋及ひ内地商業上の中心點たる市都と相通し。畿内は勿論進んて山陽四國の物貨を集め得べく。一方には東海道鐵道と連絡して將來東海道に於ける州港。即ち半田港より上陸する貨物及ひ東京以南紀伊に至るまての貨物を此鉄道に依りて集め得へく。又中央線にして信州松本より起り飛騨の高山美濃の八幡を經て岐阜に至るか。若くは松本より名古屋（信州福島美濃の苗木を經るもの或は信州の飯田三河の足助を經るもの二線あり）に至るか。孰れ其一線相通するとせは中央内地の貨物をも集め得へく。又山陰道の貨物は船に依り。越前加賀の貨物は船及ひ滊車に依りて。皆之を聚むべきなり。況んや將來上海よりの船舶も神戸に來らずして。却て敦賀に來り貨物を載下すべきに於てをや。余は信ず敦賀大坂間の運河にして成就しなは（敦賀築港と運河開鑿と離るべからざるの關係あり）大平洋の航路は神戸に取りて貨物を此運河に依りて敦賀に送運するを得。敦賀よりも亦之に依りて貨物を運致するを得へき也と。

余故大久保内務卿の敦賀に對する意見なりといふを聞くに曰く。（此語は曾て敦賀縣令の職にありし大久保公の直話なりと云ふ）

敦賀は北海第一の良港なれは之を開きて。山陰及び福井石川富山の諸國に對する港となし。終には外國に對する一大港とならんとする目的なれは。常宮を開き是より鐵道を延長し。敦鐵道を金崎より然るに北陸御巡行に際し。今の大隈井上の二伯爵其設計を變更し。敦鐵道を金崎より柳ヶ瀬を經て長濱に到るとことなしぬといふ。近來世上に常宮を把て喋々するもの漸く多しと雖も。十有八九年前に於て大久保内務卿已に之か設計をなせしにあらず

や。觀るへし吾人の眼識靈活にして今人の酔瞳愚眸の比にあらさるを。

余亦近來實地踏觀するに。內國に對する目的は既に十分達せられたるものゝ如し。例せは島根縣より東京大坂に貨物を送り。又身自から行くにも廣島に宿ずして境より船にて敦賀に至る線路に於るときは。二日にして東京に達することを得へし。是よりして大久保卿の外國に對する港云々の素以北なる因幡。但馬。丹後。丹波の如きは推して知るへきのみ。又金澤より東京に至らんとするも。先つ敦賀に至りて鐵道に乘するときは。二日にして東京に達すへし。內地に對するの目的此の如く既に十分達せり。而して之を達するとを得へし。

志村之彦を西北利亞鐵道に連結して。始めて之を丹餘の宮津は敦賀と並ふへき良港ありといへども。物貨集散の事は之に一歩を讓らさるへからず。又伏木新潟（若くは松ヶ崎船川小樽等は之を州港となすへきものなるへし。何故に斯く數多の州港を日本海に要するかといふに。北陸道の地形たる加賀能登越中三方山を繞らして一小天地をなし。越後及ひ羽前羽後亦各一小天地をなすを以て。此一小天地に於て各一州港を必要とするを。海に臨する亦一州港あるへし。伏木港は舊時は五六百戸の一市なりしも。後ち米穀輸出港となりて俄かに盛大に赴き。今は三千有餘の戸數あり。然れとも實濕水路誌には下の如く論せり。灣內諸錨地は多少北方の風に暴露し……而して偏北風強烈なるときは解纜するに難しと。且つ測量未た十分ならさるか故明言する能はずと雖も。藍瓶と稱する深水のところを以て船舶の碇泊所とし。棧橋を架し且つ河口に築港するときは。神通川全縣。福井縣大半の貨物及び鐵道にして信州松本より飛驒高山を經て富山に至るへき貨。飛驒全國の礦物及び直江津線に於ける長野新潟兩縣一部の物貨は皆此に集まるへく。幾に石動まで河水を利用し船を通するとを得る以上は。金澤の貨物は遠く北鄙に出すして伏木に出つへく。其距離は二と三との比例なり。之を州港とするは適當なるへし。將た此地の入生は此港をして浦潮斯德に對する港となさんと計畫中なり。

新潟は五港の一なるか故に良好なるか如く見ゆると雖も此港は信濃川の河口にありて其河口以內は水深四尋ありと雖も。喫水七八尺以上の船舶は河口附近にある攔門堆の爲めに妨礙せられて其內に入る能はず。又海方より疾風吹き來るときは河口を橫過して浪濤を生ず。此時に當りては端艇と雖も安全に該欄口堆を橫行するとを

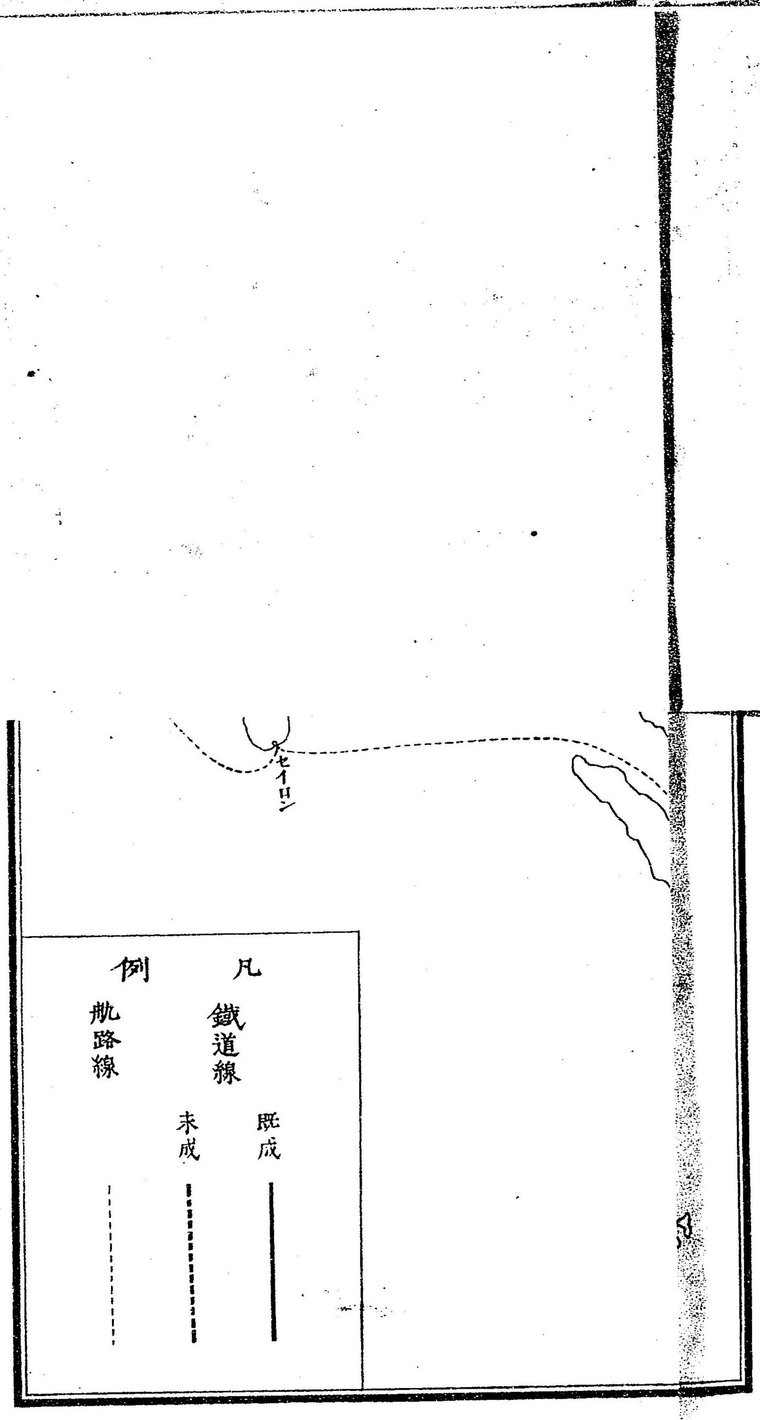
得ず、河口附近の泊船處は全く暴露し且つ底質險惡なり(寰瀛水路誌)

秋冬の期中は强力なる漁船にあらざれは該港附近の處に錨泊すべからず。何となれば此地に於ては始め南西より吹起し北西に轉ずる所の諸颱交々速に相次て起り。如何なる錨具と雖も頼むべからざるか如き强浪を來すか故なり(寰瀛水路誌)

然れとも物貨集散の點より觀察を下すときは將來鐵道の成就するものと見て信越鐵道に依りて信州上州地方の貨物幷に上越鐵道に依て上州地方の貨物岩越鐵道によりて會津福島地方の貨物此に集まるべく況んや八十二万方里の越後全國の貨物は此三鐵道及ひ信濃川阿賀川の舟楫に依り皆此に集るをや。新潟には現今築港期成會ありと雖。信濃川の淺には莫大の金員を要すべく。其淺の終はりし後にあらざれば港の價値も容易に判し難し。又考ふるに六十万圓(起業公債の内より)費すべきを增額して百万圓を投じたればとて。恐らくは一艘州港を得るの見込なかるべし。松ヶ崎の方却て優るあるを覺ゆ。次に秋田の船川は亦州港として東北大半に對して適切なり。船川は余の實際上視察によるに人工の港ぞなす底の意氣込にて三四百万圓を費さいれば。安然の港となると雖かるべく談港第一の欠點とする所は船川は眞北より西

北の風を避くるのみにして。元來其港灣開放せるが故に西南より南及東南の風には最も危險なる。肝付氏之開港場論と第二市街を建つべき地の少なきにあり。飲料幷に築港用石材の如きは寒風山にあれば別に不自由を感せざるべし。又其築港上には殆んと二百間餘海中に出でたる岩石を土臺として西方に突堤を築かざる可らず。又此港の水深等は即今測量中にて未た分明ならされとも州港出入船舶の碇泊には不都合なかるべし。風は七八月の交南西より吹き來りて妨害を與ふ。又春夏の間には朝南東の風あり日暮に及びて反對の方向に變するを常とす。日本海のことなれは冬期は風波共に高し。其委細は測量完備せざる間は詳述するに由なしと雖も。州港としては確かに不都合なからん。物貨聚散の點は羽後陸奥陸中羽前の貨物此に集むるとを得べし。特に羽後は河水を利用して貨物を海岸に送致するに便宜にして能代川、御物川、古雪川、等の流れ皆之に充つべく。且つ最上川によりて羽前に對する貨物をも酒田まで出すとを得べし。青森縣の鐵道は弘前を經て秋田に入り。東北鐵道は花巻より若しくは黒澤尻より横手に延ばし。又山形より新庄を經過するの鐵道亦横手に出で來るに至れは。陸奥陸中羽前の貨物も此に致すべし。斯くて次に起

るべき問題は。酒田本莊土崎能代に集まる所の貨物を如何にして更に船川に集むべきかの方法是なり。冬時は小船は到底通するに由なきか故に。若し此等貨物を集むるの方法にして完全せざるときは。港のみ築き上ぐるも効能あるべからず。なほ長崎に於けるが如く一般之かために港の用を失ふに至らん乎を防ぐの策は能代川を四里の間八郎潟まで運河を開鑿して川尻に出でんに。其四里間の三分一は沼となれるか故に。意外に容易の業なるべく。又一方よりは土崎より御物川を八郎潟まで三里半の運河を繰け。又た船越より脇本まで一里の運河を開鑿したらんには。冬時と雖も物貨運送に不便を感ぜず。今日の處にては船川までの陸路惡しき爲め其運賃非常に嵩まり米一俵を土崎より船川に運ぶに。船川より北海道小樽まで同一の運賃を要するといふ。假令馬車鐵道を久保より架設するとも此諸運河なくんは船川の築港は無用に屬すべきのみ。酒田に集まれる貨物は船川に至るべきか新潟に至るべきかは。亦一考察せざるべからざるものありと雖も。距離里程此と彼とは二と三との割合にあれば。勿論船川に來るべきは疑なきが如し。故に曰く船川は奥羽大半以上の州港としては最も適當ならんと。小樽は北海道に於ける日本沿岸港としては最良なるものにして。今日



海外航路線及ビ鐵道港灣概圖

凡例

鐵道線　既成　未成

航路線

海外航路線及鐵道港灣概圖

支那
朝鮮
日本海
太平洋
印度
南海
澳太利亞
西比利亞鐵道
德斯塙浦
天津
上海
香港
台湾
呂宋
フヒリピン群島
ボルネオ
羅婆（オチルボ）
蘇門荅臘（スマトラ）
新嘉坡
セイロン
ボンベー
馬尅
斯比里亞
新幾内亞（アニギウニ）
小笠原島
硫黄島
父島
母島
千島
樺太
北海道
日本本州
九州
四国
琉球
台湾
香港
上海
天津
大連
青島
仁川
釜山
鎮南浦
平壌
元山
清津
羅津
雄基
新義州
奉天
吉林
長春
哈爾賓
満洲里
ウラジオストク
ハバロフスク
ニコラエフスク
アレキサンドロフスク
ペトロパウロフスク
ウラジオストク
函館
大沼
青森
秋田
酒田
新潟
仙台
敦賀
京都
大阪
神戸
名古屋
横浜
東京
清水
静岡
岐阜
長野
富山
金沢
福井
岡山
広島
松山
高知
徳島
門司
下関
長崎
佐世保
熊本
鹿児島
宮崎
那覇
基隆
高雄
厦門
汕頭
福州
寧波
上海
青島
大連
天津
営口
牛荘
旅順
大連
威海衛
芝罘
青島
膠州湾
上海
呉淞
南京
鎮江
蕪湖
九江
漢口
宜昌
重慶
沙市
岳州
長沙
衡州
桂林
梧州
広東
香港
マカオ
海防
サイゴン
バンコック
ペナン
シンガポール
ジャカルタ
スラバヤ
バタビア
ポートダーウィン
ブリスベン
シドニー
メルボルン
アデレード
パース
フリーマントル
ケープタウン
ダーバン
ロレンソマルケス
ポートエリザベス
ケープタウン
ポートルイス
ボンベー
カラチ
ゴア
ボンベー
コロンボ
アデン
スエズ
ポートサイド
ジブラルタル
マルセイユ
ロンドン
リバプール
ニューヨーク
ボストン
ニューオルレアンス
ハバナ
パナマ
サンフランシスコ
ポートランド
シアトル
バンクーバー
ビクトリア
ホノルル
ミッドウェー島
ウェーク島
グアム
ヤルート
ヌメア
ホバート
ウェリントン
オークランド
ホノルル
サンフランシスコ
ポートランド
シアトル
バンクーバー
ビクトリア
ホノルル
ミッドウェー島
ウェーク島
グアム
ヤルート
ヌメア
ホバート
ウェリントン
オークランド

凡例
鉄道線　既成　未成
航路線

にてもなほ郵船會社の船路上最も利益多きものなりといふ。又我國十九世紀器械的工業地にして且つ農產地を兼ぬる北海道。西方一躰の貨物を亞細亞に出すには此港を措て他にあらさるなり。

丁東大門

次には太平洋岸に對する港と松前海峽の港なり。箱館は既に外交貿易場となれるものにて內港は灣の南東海灣內にあり大艦三十艘を容るゝに足る。余之を察視するに其市街繁昌なる及び倉庫設立の宜しきを得たる。又商船商業の二學校ある等總て開港場の實備はらさるなし。然れども其北海道內部に對する物貨の集散點に於て大に欠處あり。函館市人たるもの最も省みさる可らさる所なり。室蘭は稍劣れり他に良港の在るあらば兎も角も其之れなきに於ては之を太平洋に對する北海道州港となさゝるべからず肝付君曰く

今米國各地より浦潮斯德又は上海等へ往復し。津輕海峽を通過する船艦へ將來大に供給の見込ある蝦內及其他の石炭を第一とし。又西比利亞內地居住者の食料として大に供給の見込ある所の札幌千里の沃野に於て將來多量に產出せしめさる

へからさる小麥、又將來益〻其製造の發達して產出の盛大を期すへき札幌四周各郡村の生糸、又た東地諸州即ち根室、釧路、十勝、日高の各州の海岸より取り上る水產物にして、專ら支那へ輸出する所の昆布又彼の炭鑛鐵道會社に於て布設し、近々開業の運ひに達せる室蘭札幌間の鐵道函館の鐵道を通するに難くして室蘭よりは上述したる物產の產地に遠きこと等に意を配りて、之を輸出するに便利なる門戶即ち開港を北州に求めんには、室蘭の之に至適至當の地たることは智者を俟たすして明かなり、故に余は北州に於て將來の開港場たるへき地を相するときは直ちに室蘭なりと答ふるに躊躇せさるへし、然れとも室蘭は是軍港既定地のとなれば、遺憾なから茲に之を詳論することを能はず、惟ふに彼所謂九仞一簣を欠くの憾あるへしといへとも、其港形水深の如何は圖に就て了察あらんことを望む、蓋し其適宜の人工を加ふるに於ては繫泊載荷兩つなから其便を得て最良の一大港泊となるへきの地たることは十分に之を窺ひ知らん。

然るに室蘭は今軍港となれり、されと余の國策上の考にては炭坑鐵道の成就せる以上は、之を變じて商港となし、軍港は更に之を青森灣の大湊或は小湊に遷すも差支あ

るを見ず、何となれば此津輕海峽に對する軍港は唯此海峽を守りて北海道と本島とを切斷せられさらんことを務め、進んでは何れの國と雖も對戰國の船舶の此海峽を過くるを抑ゆるに適當の地ならんには不都合なし、必ずしも室蘭に限るにあらず、却て此點に於ては青森灣を以て好しとす、況んや室蘭港は其港口峽狹細くして且つ平坦なれは砲丸港外より飛越て來中するの虞あるをや、然るに北海道には太平洋岸室蘭の外に良港なきか故、北海道開拓策としても此港を開くの必要なるは言を俟たず、若し夫れ北海道が今日に至りて十分開けざる所以のものを探査せば、夙に此良港を欠けると主要の原因ならずんはあらず、尤も費用少くして貨物を內地に入るへき鐵道を架するとも亦極めて必要なるへしと雖も、北海道は船舶の頗る便利の地にしあれば、船によるの鐵道に優れるのみにあらず、なほ其物產の如きも鐵道の量少くして價値多きものを運搬するの性質に反して、量多くして價値少きものを出すと多し、兎に角北海道太平洋に對する州港は室蘭の外に求む可らず、而して軍港は室蘭以外に置て不便を感せずとすれは、室蘭の軍港を他に轉じて室蘭を以て其州港となすとは即今の急務なるへし、十勝、釧路及び北見沿岸に良港あらば之を開く事は極めて必須の

事業なりといへども未た詳にするに由なし厚岸港宜しからず今年水路局長肝付氏の巡行中なりといへば其港を見出さるゝことともあらん青森灣に入りては先きに馬關に對する意見を述べたりしと同しく利害的の大連鎖なる北海道と本島とを連絡せんかため北海道の箱館と相對して此に一の州港を要すべし今日の青森は西北南三方の風を防ぐと能はずして爲めに便船の通航自由ならず故に莫大の資金を投して築港するか若しくは小湊大湊の一に遷さゞるべからず小湊は余の實檢に由るに既設の鐵道に依りて羽後陸奥陸中陸前の貨物を此處に集めらるへしと雖も規模小に過くるの恨なきにあらず大湊は其港なりといへども此に問題たるべきものは大湊を軍港となすべきか果た商港となすべきか是なり而して余は斷乎として室蘭の軍港を大湊に移さんと主張するものなり次に小河原の沼を切開きて海と通じ港を築かんとする計畫ありと雖も余の實視せる所にては此に港を開くときは太平洋に對する東北の州港たるべきものにして州港の要素備はると雖も此沼は一年の間に大凡三ケ月間三尺以上の厚氷を見るあり若し他日海水と相通するに至らば此憂なかるべしといふものありといへども信するに足らず又仙臺の松島灣築港のごとは

余の一昨年同地に至りしときは別に氣附かざりしに近來漸く同地方の人計畫の聲喧しきに至れり。されど該築港には要する所の費用莫大なるのみならず假令成功するも州港たるべくして國港たるの資格なし故に果して此莫大の金員を擲て築港するの價値あるや否や考察せざるべからざる問題あり次に横濱は太平洋岸の大港にて内に對しては帝都を後ろに控へ關八州の貨物を一處に聚集するを得べく外に對しては「ハワイ」「サンフランシスコ」「ニカラグア」の航路を此に抑ゆべく且又東洋の郵便にして米國及西歐に到る者は長崎に上け鐵道にて横濱に出して加奈陀の航路に依り之を米歐に送り又米國の郵便も亦同鐵道に依りて新潟に送り西比利亞に送り又西比利亞より米國に至るの郵便にして西比利亞に到るものは上越鐵道に依るべく而して横濱其關門たり實に我東大門たるべき者なり又横濱と大阪の間には一の州港を必要とすれども半田と清水と何れか之に適するやと問ふものあらば余は先づ半田を推すものなり以上日本沿岸に於ける余か意見を辨明し了りぬ

次に一言此に附加すべき事とそあれ余の日本海沿岸の地を巡遊するや人皆言ふ日

本海に濱して良港を造らさるは造物者の失策なりと。實に然らん然れとも我國人の所謂良港なしとは唯天然の良港なきを指せるのみ然れとも今日文明の民は皆天然以上に人工を加ふるを知れり。天然の港なしとてそれ良港なしといふへからず。人工によりて宜しく畫策し良港を得るの方法を講せさるへからず。日本海沿岸及ひ東北沿岸果して將來人工によりて良港を出すとなしとは未だ斷言すへからさるなり。我邦現今に特別輸出港なるものあり。則ち下關の如き、博多の如き、門司の如き、唐津、伊津三角、嚴原、鹿見、佐須奈、伏木、小樽の如き是也。元來特別輸出港たる頗る便宜なるに似たりと雖も之を實地に檢するに頗る不便宜たるを免れす。如何となれは特別輸出港は其名稱の如く或る特別なる物品を限りて輸出するを得るも。其制限以外の貨物を同載するを得す。例せは伏木より烏剌潮斯德に輸出するときは。此貨物のみの爲め已むを得す迂路して新潟に至り更に檢閲を經さるを得す。是れ豈不便宜の至りならすや。又特別輸出港は單に輸出を許すのみなるを以て。歸路他の貨物を載積して入港すること。及ひ他より貨物を輸入すると能はす。例せは日津より石炭を載積して輸出せんに。歸路は空船なるを以て假に之に綿を載積して來らんか此綿は之を口津港より入るゝを得す。轉た長崎に到り長崎より輸入せさるを得す。故に製造原品甚た高直にして收利最も多からす是れ工業對外策上より考察するも現今の特別輸出港は甚た無用なりとす。已に以上の如く特別輸出港の制は內國貨物集散の上に於て何等の便宜好都合をも與へさる也。故に余は特別輸出港を廢して特別輸出入港となし各州港以上を之に充つ。貨物品類に制限を置かず共に輸出入をなさしむるの大便宜なるに如かさるを知る。或は言はん斯の如くならは純然たる開港場に同じと。曰く大に然らず夫れ開港場は居留地を設け。外國人を居留せしめ。內外諸船伴しく出入するを許すと雖も。余の所謂特別輸出入港は唯內國人の船舶に限り內國人の貨物のみを載積して出入を許すにあるなり。斯の如くすれは沿岸貿易保護の一種類となり內國人は大に好便宜を得るも外國人大に困却し必す此等特別輸出入港をして通常の開港場たらしむへしと。請求するあるへし。然れとも是れ決して無報酬に許容すへきにあらず。凡そ各國開港

の實例に徴するに、開港には二種の場合あり一は我れ彼れに不慮の損害を與へ、其償酬の意味を以て彼より開港を請求する場合と、我れ彼に一の損害を與へさるも、彼れ頭を低れて請求するにより報酬を得て開港する是なり。而して現今我國は彼に一の損害をも與へ居らさるを以て、償害的の意味を以て無報酬に開港するの理由あるなし故に若し果して此等の請求あらば、我は之に答へて曰はん。然らは報酬を與へよ、税權を與へよと。是亦一計策にあらずや。此策の詳細は之を次章に述へん。

第三　運河——當今世界の運河問題

重ねて商業對外策上より詮考するに、前途我國々策として規畫せさるへからさるは太平洋と日本海との間に物貨運搬の水路を開通せさるへからざること是也。余曾て歐洲にありしとき既に此見を抱き閑に就きて徐々焉に調査し、事の十分有望なるを認知せり。其策如何、則ち敦賀より大坂に至り運河を開鑿する之を最好良策となす。今之を述ふれは、敦賀より疋田川を利用して海津まで開通し、之を近江の湖水に連ねぬ。京都疏水工事の規模を大ならしめ、而して伏見に續け以て大坂に達すへき也。蓋し京都疏水工事たる毎年敦賀に集屯する八百万石の貨物を標準として規畫せしなるを以て、西比利亞鉄道全通尼加剌瓦運河竣功後に於ける我國か世界商工業の中心點を占握せんとする計策上より視るときは、其規模甚た狹小なりと謂はさるへからず。然れとも余は敢て蒸滊船にても通すへき運河を開鑿すへしといふにあらず。而して余の踏撿する所に由れは此工事たる格別の難事にあらず。敦賀海面と湖水面との差違の如きは水門を設けなは宜しからん。其工費の如きは細かに之を算せされとも總て四五百万圓にて可なるへしと考ふ。是れ敦賀築港と離るへからさるは、恰も長崎築港に隣早時津の運河を要し、船川築港に八代潟開鑿を要するか如し。曾其一を缺かは他を全ふする能はさる也。彼疋田川を利用して運河開鑿の事は、必すしも余の創見にあらす。昔者平清盛既に此に企圖ありしを知る。何となれは將さに運河を開鑿せんとする路線に當り、小松地藏尊なるものあり。開道是れ小松内府か此事業を諫止し後世復た此等の計畫をなさゝるやう此地藏を建てしと。又維新後金澤藩と小濱藩と相合し此業に從事せんとして測量せるともありとかや。且此工事にして成就せは滋賀縣の洪水を防ぐの策ともなるへし。唯恐るへきは其流砂の敦賀に來りて之に害を與ふと

なりと雖も土木上之を防遏の良策あるべし。又湖水を浚ひ田間に小運河を通して今日常に貨物を運ぶ。若し大運河を開鑿せば水面減して小運河用をなさゝらんか然れども水門を設け置くときは此等患決してあるへからず。兎に角此運河開鑿の事は大阪の將來商業中心點たるべき上よりも。我國商工業對外策上よりも。且つ敬賀を以て國港となす上よりも。皆極めて必要の事業たり。

更に一言せば日本人今日の狀況にありては。其人民島國内に住せるかために未だ運河の利益を解するもの少なしと雖も。今や運河問題は實に世界商工業上の一大問題となり居れり。製造工業上より見れば。製造の原品又は其製造したる物品を送致するに。鐵道によるときは急速にするに差支なきも。運賃の高きに至るは免るべからざる所なるが故。水路によるの廉なるには如かずとは今日歐米實業家の一般に取れる所なるか如し。其著しき例證を擧くれば彼のリバプールとマンチエスターの間は世界中最も完良無比の鐵道を架設しあるに拘らず。なほ現に運河を開堀して該鐵道と相對せんとするの事あり。又獨逸にてはキールより北海に運河を連續する事業は余の歐洲漫遊の際親しく調査せる所なり。余の該地に至れるときは恰かも盛に工事を營めるときにして。元來該工事はシレスパク、ボルスタイン運河か一千七百七十七年より同八十四年の間にエーデル河を利用してボルチック海と北海とを連結するの目的を以て堀られたるものにして。其長サ二千マイルなりしもなほ未だ小船を通するに過ぎざりしに。今は甲鐵艦をも通過することを得せしむるの計畫なり。此工事たる固より軍畧上に關係を有する者なるか故に外人に示すを許さず。然るに余は密かに之を實視し寫眞をも取り來ることを得たり。若し此工事にして成功せん乎。ボルチック海と北海とを連續することを得て一ケ年一万八千艘其總容積五百五十万噸より勘からさるもの通過すべければ軍畧上特に海軍上に大影響を及ぼす所の影響至大なるものあるべきは疑を容れず。又希臘に至ればコリンスの運河ありとは世界大工事の一と數へらるゝものにして。余は亦親しく之を見るとを得たり。其程三里半にして廣サ百フヱートに及ぶ。東方の入口には燈明臺を建て堤防を築けり。若し此運河成就の時に至らばコリンス灣とサロニカ灣と直接に連結せられ。今日オシヤよりバイリアス港まで五十八時間を費して漸く達すべきものを殆んと廿九時間にして到着するに至るべく。コンスタンチノープルに至るには二日の經

濟をなすとを得べし。該工事は余の行けるときは將さに終結を告げんとするの時なりき。若し其落成の日は亦地中海の商業上に大影響を蒙るべし。是實に一千八百八十一年に佛國某會社の起工にかゝる所なりといふ。尼加剌瓦運河工事の事は皆人の知る所にして落成後は世界の大勢を一變すべし。斯く今日は時日を經濟し運賃を低廉にするの企圖日に擴張し。甚たしきに至りては佛國パリーより北海に至るまで運河を開かんとするの計畫あるに及べり。又ボルドーより地中海のリオン灣に至るの運河開鑿も亦計畫する所ありといふ。又魯にはボルガーとドン河との間に運河を開鑿してカスピヤン海と黒海とを連絡せんと計畫中なり。今日は最早鐵道の便に滿足すると能はずして。運河てふと漸く商業上の一問題として現はれ來れり。我國の商工業對外策上亦大に考慮すべきものに屬す。余は實に生前大坂敦賀間運河を全ふするを見る能はずんば。死後必ず成就せらるゝの期あるを俟つなり。

第四　鐵道電信――東洋郵便路に於ける鐵道は廣軌ならさるべからす――亞米利加、西比利亞に架設する東西の二大電線

又商業對外策工業對外策政治對外策の三策を通じて必要なるは。昨年大阪京都の演說以來余の切に唱說する所以にして。日本を以て世界の問屋とし。築港成就し本店も定まり支店の配置も定るとも。內地通運の便即ち物貨集散の便十分ならざるときは。一方より之を入れ他方より之れを出すの道整頓せずして不都合少なからず。於是速かに之が畫策を立て此不都合なからんを要す。其策如何となす。即ち內國鐵道を十分に擴張し其便を通せざるべからず。今年漸く鐵道案は上下兩院を通過して議決さるゝに至りしは國家の爲め賀せざるを得ず。是を以て最早鐵道のことは啻々を須ずと雖も。今年漫遊中に得たる所の意見を述べんに。第一に南大門東大門及ひ西大門との間は。必ず今日の如き狹軌鐵道にては。物の用に立たさる也。之を經濟上より見。商業對外策上より見。政治對外策の上より見るも。不得策なると甚た明なり。何となれば現に今日より既に之かために物貨停車場に集まりて滿足に運致すると能はずして。徒らに停滯せしむる所少からず。又急行列車を奔らしむるとも。狹軌鐵道にては畢竟能くすべからず。故に今日のレールにより廣軌鐵道を布き。隧道を少しく高く切り開かば左程の難事にもあらざるべし。而して是れ唯各門間の大道路のみならず。なほ全國を

通じて此方法を取らざるべからず。今日の日本は世界的日本にして政治上經濟上單獨に成立せず。故に經濟的一躰をなす鐵道經濟の如きも單獨に成立すべからざるを察知し。他國の鐵道と同一軌にせざるべからず。現に希國のトリクピー氏の鐵道政策を見るに。歐州大陸の鐵道に連絡して印度の郵便を引くべき線のみ廣軌鐵道とし。他は狹軌となせり。先に余が東方策第一編を世に公にするや。郵便路に對する意見を述べたりき。即ち東洋の郵便路を我國に取るの策は。我國商業工業政治の三對外策上必すなさゝるべからざる所なりとす。又九州と中國との間は宜しく鐵橋によりて之を連絡すべく。其長さ大凡二千五百二十尺にして費用五百万圓を要すべしといふ。斯くして東洋及び歐羅巴の郵便路を我南大門長崎に集め急行列車によりて西大門敦賀に出し。以て西比利亞鐵道に結びて東部歐洲に配送し。又米國及び歐洲西部に對する郵便路は之を長崎に取りて横濱に出し。最も航路の短距離なるカナダのバンコーバに出し。米洲及び大西洋航路に結びて西部歐洲に分配すべし。若し一たび郵路を我國に取るに至れば。人も貨物も自ら我國を過ぎるに至るは。勢の自然にして此に至り始めて我國は東洋及び世界に對する問屋となり。内外此に全きを得るに至るべし。若し日

本鐵道布設を分つて一期二期となすときは。其第一に手を下すべきものは山陽鐵道にして三原より馬關に達するものとす。次に九州鐵道を佐賀より長崎に延長すると。第一期中第一着になすべき要件なり。次に國防上及び商工對外策より。北海の州港秋田及び新潟に出すと即ち今の急務也。特に上越鐵道の如きは日本海の州港と太平岸の東大門との距離一直線の鐵道なれば之を布設し。米國より西比利亞間の郵信を此處に取ること。又岡山若しくば倉敷より堺に至る山陰山陽横斷線亦國策上に必要ある線路なり。次に北海道の鐵道を國防上開拓上必須する急なりといへども。こは政治對外策に至りて詳述すべし。なほ九州の東部西部及び四國の東部西部に於ける鐵道も亦同じ。

鐵道のことは已に述べたり。之に次て一言すべきは電信のことにして。電信の事たる亦大に商工業及び政治の三對外策上に於て至關至係ありとす。而して今日最も必要を感するもの二線あり。一は北海道よりアラスカまで架設して之を亞米利加大陸の諸線と連絡せしめ。一は西比利亞電信是也。凡そ航路にせよ運河にせよ。新たに發見又は開鑿架設するときは必ず其位置に變動を來たし。勢ひを移すものなるとは各國の活

歷史に照らして瞭かなり。電信の如きも亦之と同理由にして。形勢を攀ずるを以て聚め之を察し偏倚することなくんば商工業上の中心點と雖も自然我國に集聚すべきの み是豈に注意せざるべけんや。以上二個線の如きは亦此に據りて以て算出せるものなり。現今我日本より桑港に通信せんとするに。其通信先つ歐洲に往き龍動又は佛のプレスト下より亞米利加に至り。亞米利加大陸より始めて桑港に達するを得。故に窗に其時日を徒費するのみならず。通信料亦甚た多額に上る。且又第二十世紀に及ばゝ米國繁華の形勢は漸々西岸に移り。殊に尼加剌瓦運河にして成就しなば俄然太平洋岸に移り來るは識者の共に認知する所ろ。若し果して此時に至らば東洋に於ける電信の往復は日に益々頻繁なるべきは饒に對するより明かなり。況んや尼加剌瓦運河に於ける商業上須要の事項あるに於てをや。然れば今我國電信を米國に連結架設するも。將來の經費相償ふ能はざる如きは決して之れなき也。又一の電信は山陰道より隱岐を經て浦潮斯德に至るか。或は宗谷より西比利亞に達するか。又は樺丹より西比利亞に至るか。此三者の中其一を擇ひて架設し。而して後れと連結するにあり。斯くて一方には桑港に至るの電線を架し他の一方には西比利亞に達するの電線を架するに於ては。我國は正に中央に座を占め形勢茲に控制すべき也。（桑港布哇間既設の電線を我邦に延長するも亦一策然れども斯くては此線を我邦に於て專有すること能はず）

轉して內國電信の事に就き一言せんに。國防上よりの觀察は政治對外策に於て論述すべきを以て此に略す。唯商工業に連帶する者は日本本嶋と九州との間に於ける電線架設なり。今日は馬關よりするもの一ありて近來複線漸く成就したりと雖も是れ極めて不便なき能はず。何となれば若し果して馬關の上にて雷鳴あらんには本嶋と九州との連絡は斷絕せられん。現に福岡米商會所の頭取余に語つて曰く。米商は電信を利用すること最も多きものなるを以て。一たび馬關に於て雷鳴あるか又た此利器を絕たれたらんには如何ともすること能はずと。況んや我國一たび外國と事あるに及びては。此兩地全く相隔てられ通信の術此に盡くるは明なり。然れば九州より四國に四國より本嶋に二個所以上の連絡を通ずるは。商工業上國防上幷に必要とする所なり。

第五　商業中心點——問屋の位置——支店の配置——日本商人の販路に對する思想

又商業對外策上に於ける國策の一として說かざるべからざるは我國の東洋に對し

世界に對して問屋となるも何處に其本店を置くべきかの問題是なり。於是余は內國に對しても東洋に對し世界に對しても商業の中心點たるべきものは大阪ならざるべからずと思ふなり。大阪は我國の中央に其位置を占むるのみならず外はパンコー、サシフランシスコ、ニカラグアの航路を此に引くべく。ウラヂオストックの航路に於ける貨物及び上海香港濠洲の航路等も皆此に取ること容易なりとす。されは余は昨年十二月十二日大阪に至りて始めて日本の商業對外策を述べて曰く

滿堂の諸君嗚呼余か立つ所の此壇上諸君の坐する所の此地即大阪都府は日本商業の中心點たること天下の許す所然らば此商業の中心點に於て商業を營む諸君とそ眞に我日本の商人にして所謂日本の商權を握るものといはざるべからず今日を以て將來を推測するに此大阪は終に進んで全世界商業の中心點となるべく大阪の商人は世界の商權を握る人となるや疑ひなし(中略)これによりて之を見れは大阪市は恰かも我日本の活動力(ナショナルエナーヂー)の中心となりて世界活動力の中心となり國利的利害得失(インターナショナルインテレスト)の中心となり又世界的利害得失(インターナショナルインテレスト)の中心ともなる換言すれば世界文明の中心點たるに至るなり果して然らば大阪市他日の事知るべきのみ大阪市民

責任の大なる亦知るべし而して此大責任を負ふ所の人は即ち此會上にある所の諸君子に非ざれば即ち孫君しくは其後たらざるべからず然るに今此好地を占め此時を知らなから此滿堂諸君にして徒らに袖手傍觀天下の大勢に嚮くが如きのことあるべけんや實に唯諸君一心の覺悟如何によりて今後の大阪をして世界文明の中心點たらしむると否とは其意の儘に存す諸君にして此好地を得此好機を得るを盖し千万年にしてなほ遇ふ可らざるの時節といふべし苟も之を知らずんば已むべきのみ既に之を知りし以上はなほ捨てい願みずんば勇なきものにあらずや(中略)滿堂諸君嗚呼彼の商工業の中心點を此地に入れたる曉は東洋及全世界の政治上の中心點を我國に入れて東洋の覇權を掌握し全世界の均勢(バランスオブパー)を左右するの時也諸君勉焉

然らは本店を以て大阪に置くと定め、偖支店如何にすべき。換言すれば我商工業品の販路即ち本店に對して東洋及び世界に對する支店を如何して造らざるべからさるか。大凡商業を營まんとするものは先つ市場(コンマーシャルフロント)販路を確かめ。且つ之を擴張するの策を十分に取らざるべからず。然るに余か內國漫遊中の實驗に徴するに。我實業家の市場

に對する思慮なきは實に驚くべきものあり。我商人の多く失敗を招くものは主としてこれによらざるはなし。我内地の商人にても人皆近江商人を目して商業に巧みなりといふにあらずや。而して彼等は各地に支店を出して其販路を求むるに敏なるものあれはなり。是れによりて之を見るも販路の必要なるとは十分察するに餘りあるべし。余は亞細亞大陸及び南洋巡遊の後にあらざれば支店の配置倉庫設立等は未だ確實に之を述ぶるに由なし。且つ支店の配置のみならず製造原品の買入方をも同時に取り調ふべきを以て此等は皆他日に讓るとなし。此には我商人の販路の思慮なきを述べて聊か之か警醒の策を立つべし。

今我實業家の販路の思想なきを證せんかため其一例を掲けんに。余は昨年及び本年再度京都に至りて實業上に於ける調査をなしたりしか。其實業家の歐米に對する商工業上に毫も確乎たる販路の見込なきには唯驚嘆の外なかりき。余或る一製造所に至りて此物品は外國商賣品なるか。そも又上流社會に用ゐらるゝ者なるか。將た中等か若しくは下等かと問ふに彼れ答ふると能はず。依て更に問ていふ然らは該品は大凡一家に幾何を需用する者にやと。彼れ又答ふると能はざりき。然れども是れ製造家

なるか故に彼の答をなす能はざるは當然なり。去て該品製造を依頼せる商人の住居を尋ぬ。其商人に問ふに彼も亦終に答ふるに及はざりき。是れ實に單一なる事實に過きざるか如しと雖も。亦以て我商人の歐米に對する商品販路の思慮なきを自白するものなり。何となれば凡そ上等社會は一國中最も其數少なきものにして。若し製輸出品の上等社會の需用に應するものならんには。販路の極めて狹隘なるものと見做さゝるべからず。之に反して中等社會より下等社會に及びては。其數最も多く。從て其需用も亦多からんには。販路の最も大なるを證するものといふべし然るに此市場の廣狹を計るべき好尺度を顧みずして。單に該物品は一たび西洋に出して其賣口よかりし故。再び之を出すなりといふか如き漠然たる考にのみよりて。其物品の販路をも定めず限りなく輸出しおるか故に。若し上等社會の需用ありしならんには。勿論其販路愈に塞かるゝも。俟つの勢なく。從て資本なくして之に堪ふると能はず。終には已むを得ず之を捨て賣りして歸るの有樣に陷る。我國の商會中外國に對して能く失敗を招かざるものなかりしは。今之によるものなりとす。彼の紐育に於ける起立工商會社の如きに至り

ては。クロスマスの前などには人山をなせる程にして能く賣るゝか如くなるも。其賣れし利よりは販路塞がりで捨賣せし損害漸く多きに及ぶ。然るに外人の日本物品を輸入して商賣とあすものを見るに皆非常の利益を占む。是れ彼等は皆販路の廣狹を見るとと明らかにして。之に應じて其商賈の目算を立つるによる。日本の輸出者の如きは。唯是れ暗討にして幸に賣口あれは利を得。既に一たび利を得れは販路の閉塞をも顧みずして。續々製造輸出し而して終に失敗を取るに至る。余巴里府に在りて日本輸入商に質問せしことありしに彼答て曰我等日本品輸入者は日本の物品を其價に拘て客の需めに應するにはあらずして。形を變じて之を出すを常とす。即ち彼等の日本大工を雇ふて製造する所の物品は。皆在來の價にては其嗜好に適せざるを以て之を變するときて。例へは日本人は饅頭笠の輸出あるを見ば。ロンドン、パリの市中饅頭笠を頂ける外人ありと思ふ。彼の國に達するに及びては饅頭笠は轉じて倒さまとなり。三本の足を生じてテーブル側にあり。手紙入れ名紙入となり居るなり。花瓶の如きも之を花瓶として用ゐるにはあらず。ランプの臺として之を使用す。斯く形を變じ國人の嗜好に應せしめ市場の廣狹を計り。之を出すに於ては決して利益を得る能はざるの理由あるとなし。余の熊本に至れるや。熊本の麥藁帽は其麥藁細くして且つ美麗なるものなるか。此帽の外國輸出は近來俄然閉塞するに至れりと云。依て製造人は余に其原因を問ひぬ。余答て曰く其帽は何處に輸出せしか米か英か將た佛か。而して之を用ゐしものは何處にありしかと。彼れ一も之を知らず唯言ふ其輸出止まれりと。又岡山の精米場に至りしに其業を休み居たるを見たり。これ元來岡山の米を搗きて神戸より外國に輸出したるなり。余問ふ此米の神戸を發するや其販路は獨のハンブルグにありしか。若しくは英のロンドンにありしか。若しくは英のロンドンにありしか。將た其原因は如何にあるかと。彼亦毫も之を解するとなかりき。單に言ふ銀貨相場のくるひ其原因なるべしと。日本實業家の腦中市場の思想なき甚以て止の例證にまるも推知するに難からざるべし。故に我國の商人は暗中に砲を放ちて中れは利も中らざれは損するといふ。是れ則ち歐米に對する商業の方法を得ざるに外ならずや。

販路を考へずして徒らに採堀し終に我石炭の價格を引き下げたるは事實なり。支那人の材木を天津支那北部に出して失敗せしは、我商人各自の競爭より來したる結果なりと雖も實に販路を思考せざることを亦其主因たらずんばあらず。我實業家の外國輸出品に對する販路の思慮なき實に一の欠點と謂はざるを得ず

第六　市場開拓策——非放任論

——全世界をして我國は全世界無比の美術國たるを確認せしむる事——

——商品陳列所と工業參考館設立——

——商業交際官を置くこと及び領事館の配置——

——禮服改良論——

今全體を通じて我商工業を熟ら觀察するに、外國に對する工業と內地に對する工業との間に判然區別あるなく、外國に對しても日本人の用ゐる所のもの、彼の嗜好に投ぜるものを其儘之を輸出するにあり、特に器械的製造品は外國に對する工業としてよりは、外國の輸入を防ぐが爲に成立せる如き狀態にあり。乍然英國の實業家日本今日の商業を評して曰く、日本の商業は今日に至るまでは受身の地位に立たりしものと。今や攻撃に轉ぜんとする秋に當り、余は其批評の適切なるを覺ゆ。故に早く此

時に當り外國に對して所謂商工業對外策の思想を十分發達せしめ、以て働掛の時代に到らしめざるべからず。

人或は以爲へらく、我國は宜しく工業若しくは商業の如き所謂民業なるものは之を人民の自由に放任して可なりと。然れどもこれ世の形勢を詳にせざるものゝ言のみ。余曾てケンブリッヂ大學に在りて我國商工業の對外策を確立せんと欲し、頻りに群書を渉獵し居りしに偶ま理財學敎授問て曰く、足下は何の爲めに渉獵するや、學理を究めん爲めか將た日本の爲め國策を建てん爲めかと。余答て曰く、日本商工業對外策を確立せん爲めなりと。敎授曰く然らは足下はエリザベス時代の事情を把て勘究せよと。此言極めて意味あり。大凡國家なるものには政治上若しくは商業上及は工業上に於ても必ず守成創業の二期なかるべからず。而して英佛諸國の如きは今や萬事守成の時代にあり。此等の諸國にありては、固より當さに此等の事業を以て民間に放任して可なり。然れども獨り此等の諸國か創業の期卽ち十六七八世紀の當時にありては、非常の商工業上の保護を加へたるは、コロンウエルの航海條例、エリザベス及び下りてピットの外交政略英國の西班牙和蘭に對する政略を施せるときの如きは、大に

商工業を保護して其基礎既に十分なるに及び茲に守成の時期となり自由放任の今日に達せるなり。然るに我國の學者唯今日歐米の經濟書を讀み又は英國等の現狀を見て商工業宜しく自由なるべしといふ抑も亦過てりといはざるべからず。顧る日本今日の狀態は恰かも英國十六七八世紀の所謂創業の期に當れるとを知らざるべからず。顧みれば我國は實に僅々三十年の以前までは未だ外國の存するをも知らず。若くは鎖國攘夷を唱へたるとありしにあらすや然るに今日より早く既に守成の政略を取らんとするは蓋し其何の意たるを知るべからず。余輩思へらく今日の勢須らく彼のコロンウエルの如くエリサベスの商業政略の如く十分に之を保護し之が基礎を固めて他日英佛よりなほ一層此等の事業を自由ならしむべき時の來るを俟たざるべからず。

左に掲くるは昨年十二月大坂京都に於てせる演說筆記にして之を修正せしもの也

全世界をして我國は世界に比類なき美術國たるとを認定せしむるの策

頃日米國チカゴ大博覽會に出品するにつき京阪の實業家は種々の評議をなしたるものゝ如し然るに今回の博覽會に於て或は七寶燒或は西陣織等の如きものを出品

するは固より可なりと雖も今此好機に乘じて我國は世界に比類なき美術國たるの位置を十分に確むると能はずんは誠に殘念の次第なり。而して我實業家の考の此に及ばざる所以のものは畢竟一は世界大博覽會の性質を知悉せざるに起因するもののごとふべし。今我日本國のために計るに我日本美術家の最も巧妙最上の人を擇擧して之を委員となし費用を吝まずして十万圓若くは十五万圓の燒物一及び漆器類の六七万圓の物一西陣織の物又五六万圓のもの其に一皆其美人目を眩するに足るべきものを造りて之を彼の博覽會に出さば之かために費やしたる幾十万圓の結果として始めて世界に於て日本は美術國なりとの地を確定せしむるとを得べし。蓋し世界大博覽會にありては諸國よりの出品物其數實に夥しく恰も夜市をひやかすが如くにして通過するもなほ三四日にして見終るとを得ず。況んや多少注意を加へて物品を見んとするときは十日若しく廿日にして能くし得べきとにあらず。之に加ふるに世の博覽會を見んとするものを百万人とすれば其中七十万人は博覽會を見物かざれば世の交際社會に出づるとを能はざるより夜市同前に見去るに過ぎざるもの多し。故に百圓三百圓若くは千圓位の物品に至りては

決して此等の人の眼に留るべきもあらず然るに今若し前に言へるが如き十五万乃至六七万圓の物品を出すとすれば未だ博覧會の開場以前より新聞は此事を書立つべく人々皆之を言ひ囃すに至るべし既に斯の如くに至れば博覧會の開かるゝや否や皆人特に之に注目し相評して益人口に上るべしされば夜市同前に通過する人と雖も博覧會に入りし以上は此物品を見されば交際社會に出でゝ博覧會を見しなど口廣く言はんと思もよらず此に於て乎チカゴ博覧會は終に日本の三箇の美術品のために開かれたるの觀を呈し見しものも見ざるものも言ひ傳へ聞き傳へて日本は萬國無比の美術國なり他國人の企て及ぶべからざる美術品を製すものとを知らしむるに至るべく日本の美術國たるの品位此に至りて確定すべし蓋し且つ夫れ美術品は大凡原價にて之を賣却すべきものにあらず多くは二三倍の價を以て賣渡すべきものなるに況んや既に世界無比の美術國たるを知らしめし日本國の美術品たる以上は四倍若しくは五倍を收むるとも不可なることなかるべし佛國の燒物の如き伊太利の美術品の如きに於てすら人皆三四倍の價を拂ふ況んや我國の物品に對して金銀に吝ならざるは疑ふべからざるが如し聞く

國會は既に之に向て七十万圓を出すとを議決したりと思ふにこれ皆各府縣に割り付くるものなるべし余は三箇の大美術品を出品なすかためには農商務省專ら之れに任じで中央政府先づ爲めに大に力を盡さゞるべからずとなすなり然れども或は言はんとす曰くかゝる高價の物品は假令之れを出すとも到底之れを買ひ求むるものあるべからずと或は然らん然れども此出品の目的たる主とする所は茲にあらずして我國の地位を確定し我美術品の品位を極めて將來の市場を開拓するにあるなりされば若し之を購ふものなきときは携へ歸りて之を博物館に備へ明治時代の歷史物として長く之を存して可なり況んや全世界萬國の中に立で我唯一の價値を知らしむるに於ては七十万は愚か百万圓も亦何ぞ吝しむに足らん見よ彼の我が內國博覧會に於てさへ人々決して何れの縣より何物品を出したるかを記臆するものなかるべく然もなほ聞く所によれば八千圓の七寶額屏風は能く人の注目を促かし得たりしにあらずや又彼の新聞の廣告を見ずや僅に四號活字位にては中々人の眼も附かぬことなれども若し大文字にて人を驚かすが如く掲げ出さんには見るもの皆意を注ぐと一方ならざるべし況して世界の市場

に立て一大廣告をなさんとするには非常の手段に依らざるべからざるは已むを得ざるあり。唯惜むらくは日本人今日の氣力にては決してかゝることをなし得ざるべき乎。此故に余は兩三日前獨り自ら考ふるに今日若し我國人に大阪城を築くに足るべき金員を與へて之を築けといはゞ果して能く築き得べきか若し熊本城を築けといはゞ果して能く築き得べきか思ふに皆覺束なかるべし。國會假令議博覽會のために七十万圓を出すことを許すも未だ考の此に及びしことなきは。これ蓋し日本人の思想の一般の局部に流れ易く偏狹に傾向する一の明證にあらざる乎。苟くも日本國家の如何に顧みる所あるものは須らく此弊を破りて大なる世界に對する商工業上の事に從はざるべからず。チカゴ博覽會の事時最早遲しといはゞ余輩之を以て一千九百年巴里の大博覽會開會の日に於て此事の行はれんことを企望して已まざるなり。然而して我日本國をして世界無比の美術國たることを天下に知らしむるは我か國固有の製造品の市場開拓の第一策なり。

商品陳列所と工業參考館設立

既に大阪に於ても述べたるか如く。商業品陳列場の必要なる言を俟たす而して余

は京都にも亦須らく之を設けざるべからずと思惟するなり。特に工業參考館に至りては必ず之を此に建つるの必要あるを見るなり。商品陳列所は東洋に對して器械的製造國として立つ以上は必ず之を要すべく。工業參考館は歐米諸國に對して工業國として立つ以上に最も要用なり。大阪商品陳列所は建築頗る壯大にして歐米諸國の商品陳列所と比するも敢て難かしからぬ觀あれども市場開拓の目的に對しては其實缺けたりといはざる可らず。即ち輸出參考室に入りて之を見るに唯何物品の幾何の價を以て何處に輸出するとの事を知らしむるに過ぎずして。內國商人は之を見て或は外國輸出物品を製造するかため多少の利益を得たるべしと雖も市場開拓のためには實に寸毫の利益なしといふて可なり。故に余は之を許して日本實業家の腦中には未た外國商業の明瞭(クリーヤア)の考(コンセプシン)なき證なりといはんとす。之を證實せんか爲には先づ東洋の大市場たる上海の部廣東の部香港の部西比利亞地方の部朝鮮の部等を分ち先づ上海の部には英國マンチェスター及び印度ボンベーより入る所の紡績糸は幾手の價幾何にして之に運賃を加ふるときは凡て幾何あり。又此上海及び其近傍の工場に於て製造する紡績糸幾手幾何にして獨佛諸國よ

も入り來るものは如何。此等金巾紡績其他毛織の類は年々此地に輸入するもの幾何にして何れの場所に向くか等。一々之を取調べて相比較して上海部に陳列し。香港廣東以下皆此の如くし凡そ他國より此等の諸地に輸入する所の物産を比較的に集めて之を陳列するときは始めて之によりて我國の紡績若しくは金巾製造人又は毛織羅紗製造人等は此に其確乎たる見込を立つることを得べし。凡物品の價格は新聞統計領事の報告書等に由るも決して知り難し去れは原品を對照して後始めて知るべきなり。今我國に一工業を起さんとするに。唯に外國の輸入品を防ぐのみならず荀くも大に其規模を擴張して進て大敵英國を東洋の市場に斃さんとするの決心ある以上は。先づかゝる陳列所の具備するありて然る後人此に至りて能く[illegible]若くは佛獨諸國より來る所の物價を相照し之を我國に於て支那印度に濠洲米洲原品を取り同性質の物品を製造して一割彼れに比する[illegible]安價の物を得るとし之に運賃を加ふるに一割二分の安價に仕上ぐることを得べしとの見込始めて此に立つことを得。直ちに之を上海に出し印度英國等と競爭して勝を占むるの覺悟を得べし。且つ此種の物品既に年々上海に入ること幾何なるか故。

我國より幾何の製造品を出して之を捌くの見込ありとのことも茲に定まりて製造場の建設物品製造の高も亦茲に大凡目的を定むることを得るに至るべし。斯くの如き販賣を以て歐米及び東洋南洋に於ける貨物の見本を陳列して市場を開拓擴張すべし。[illegible]

次に余は京都工業參考館を設くべしとの理由を陳述すべし。余の嘗て佛國里昂府に至りて市役所樓上の工業參考館を見大に其整へるに感服したり。其方法は埃及希臘羅馬より今日に至るまで歷史的に織物を陳列し其色合衣服の形等若しくは織物より得べからざるものは燒物によりて其模範を取りて悉く之を集めたり。而して後國工人の言ふ所によるに大凡流行は六十年目にして稍形を變じて舊に復するものにて大凡此次の流行は如何になるべきかの見込まで立つ程なり。又勝に或は十五年目にして小さく一と廻りすることあり。彼の國工業家は皆之を以て土臺となして明年の流行は如何との考の附くものなりとぞ。今我が國に於ても工業參考館を設けんと欲せは我國古來の織物。其他衣服の形等を集めて日本部となし。其に里昂の如くに西洋部に古來の物品を歷史的に陳列し。若し埃及希臘等の古物に

して求め得べからざるものは摸寫して之を具へ附け大凡循環の工合を計りて日本のものと比較し明年の歐洲に流行すべきものは如何との大躰を知りなば其便利なる明白なり且つ商業上に設くべき交際官か之を本國に通知せんとする能も形色合等の如きは手紙等にて能く明にし難き場合なきにあらざるも若し京都參考館西洋何世紀日本何年號の形のもの流行すといはゞ工業家の力を得ると盡し大なるべし假令かゝる交際官なるものなしとする場合に於ても猶循環により大躰次年の流行を豫知するの便利あるべし燒物の如き漆器の如き之れに準じて陳列すべし加之我國より織物等の見本を他國の博物館等に借すも亦大に便利なるべし凡そ各國博物館には皆各委員ありて預け物の如きは確かに之を保護して過ちなかるべし而して器械的の製造の參考としては即今最進歩の器械を買ふのみならず新發明ある毎に之を買入れ其器械を運轉して汎く衆人に示し且つ其器械に付き[illegible]工業思想を養成するを要す。[illegible]

[illegible]の趣旨商業交際官を置く事[illegible]

抑も我國固有の製造品を購求する所の所謂歐洲に於ける市場は今既に開け得たるにあらず而して之を開かんかため余の所謂商業上の交際官を各國に於ける我公使館内に置かざるべからずといふ所以のものは蓋し我國今日迄の狀態によりて之を見るに商人は皆な其品物を殆んと目的なしに之に輸出するか如きの樣ありされはとそ日本直輸出の商人中失敗を招かざるもの殆んと稀なりこれ皆な我商人にして其物品の彼の國に至りて何のために使用せらるゝか其製造高は幾何なるべき乎を知るもの少きか故一たび此物品は賣れ行きありといへば限量を計らず之を造り出し終には捌け口塞がりて資本をおあせし物品を徒らに持ち歸り或は羅賣捨賣にするに至るなり然れどもなほ我製造品の市場狹小なるが故其弊頗る小なりと雖も今後一層市場を廣めんとするに至りては益彼れの內情を熟知し商品は彼れに於ては何に用ゐられ何程のものは何々の事情によりて十分に賣り捌くの見込みありとの事を確認して後物品の製造輸出に着手するにあらずんば其損害を來すと益大なるべし此に於て乎此等の事情を知り能く市場開拓の任に堪ふべき觀察人即ち交際官を要するに至るなり又或は此等の事は領事にて十分なりといはん乎これぞ却て余か此交際官の必要を論ずる所以なりとす何と

なれは領事は能く外交上其國の實業家と交通往來するものにして。上等社會及び各國の人に對し廣く交を通ずるに至らざるなり。然るに公使館員に至りては皇居は勿論王公貴人にまでも常に其招待を受け出入すると頻繁なり。而して我國固有製造品即ち美術品の如きは其需用多くはかゝる所にあり。下の之を求むるに至るは畢竟上先つ好んで此に及ふものなり。且特に日本美術品を望むものは其富豪若くは上等中等以上の人にあるか故に此社會に深く交りて能く我か物品の向き所をも察もなり。一層進て交際官のなさざる可らざるところあれ。抑もロンドンの交際社會の成り立は其社會には極めて世話上手。即ち家屋の裝飾より賓客の招待等に至まで一切の事情に練熟せる相談役四五名ありて。人若し何々の夜會を催さんとするときは先つ次抵此四五名の役人に相談するなり。此相談役は多くは華族なり。故に交際官は宜しく此等の人々と相交り日本物品の向き所を相談せは極めて利益を得ること疑なし。又西洋の流行は其本源多く巴里の交際社會の幾人かの手に於て造り出さるゝなるか。ロンドン交際社會にも亦此流行を造り出す所の貴顯の婦人あり。交際官若し之と交りを結ふを得は。日本織物の向け所を知り得へく。且

其年の流行の形色合等を充分に研究し得て。未だ其流行とならざる以前に之を豫知し。日本の如何なる品物の之に向くかを考ふるとを得へし。又交際官は勿論實業家の國會議員等を相親しまざる可らず。凡倫敦等にありては王公貴人若しくは富豪の人々は都府の住宅の外地方に別莊を有もて三月より七月まで國會の開かるゝ間は別莊より倫敦に出で來るものにて。倫敦の交際は實に唯此間にありて一日に多きは五六軒より招待を受け。十軒に五分若しくは十分長くとも一時間位止まり最も交際社會に持囃さるゝ人に至りては十日に七八軒より招待狀を得て飛び廻はるが如き有樣なり。されは都會に於ける一家の裝飾の如きも。一時の用に充つへき廉價の簡略なるものを要することにて。却て別莊の裝飾は餘金あれは則ち勵て之に費やし。靜閑愉快の日を送るへき場所とし。之に適當なる建築法を集むるが如きを專ら別莊の方に多く。我國の如く裝飾をを用あるなり。故に美術を都府の住宅に金錢を費やすとなし。されは我製造品の市場の如きも都府ならて却て地方に開かるゝ方頗る利益あるへし。現に余か英國上等社會の別莊に招かれ之を見るに種々日本の物品を用て坐敷を飾り甚たもきは日本室等の名を附して日本

美術として見るに足らざる程のものすらも。大金を出して之を集めて歩く日本物品を以て一室を造りて喜べるものもあるなり。かゝる所に我邦の美術を携へ行きたらんには一大市場の開かるべきは疑ふべからず。然るに若し公使館の員は彼の交際社會に入るを得るあらば一年中の大半諸方の別荘に招待せられて客となり。而も遊ぶことを得る程なり。故に我國の交際官なるもの若し能く斯の如くなるを得ば能く彼等の喜ぶ所を察し其用ひ方を覺り市場の大さをも畧ぼ之を知ることを得以て日本輸出品の目的を立てしむるを得べきなり。今一例を擧げて之を示さん。余の英國にあるや交際社會に有名なる婦人に日本博多の帶地工夫を選ひて洋服を造らもしくは國より其色合もよく櫻花を金にて繍たしたるものにして。織物をしては頗る立派なるものなりしも。後有名なる仕立屋に命じて造らしめたるに之を着して交際の社會に出づべからざるものとはなれり。斯の如く其不釣合なる所以のものは。歐のうち方の規模小なるに起因す。蓋し西洋の婦人は日本婦人に比して其身躰太なるのみならず。家屋の天井も高くして且つ人々の對坐するや。我國人の如くなるか如くなる寧ろ三間四間を隔つ

るも遠くより之を見て引き立つものを要するなり。特に色合の如きも電氣燈或は瓦斯燈のやゝもすればかゝるなり。故に大抵百人の大なる客室の間に出でゝ能く之に適するの輸出上に注意を要するなるべし。此等の諸事情の如きも之を彼の商業交際官の觀察に委するを得ば甚便益も大ならん。現に英國の如きは此交際官を佛國巴國の二處に置きて歐洲全土を二分して之を管轄せしめ。而も商略上の秘密其他一切の事を探知す。商業王たる英國にして此事あるは。又これ英國たる所以なるか。然れども今我國にて此交際官を置かんとするは。其人を得ること至難に難し。商工業等の實業上に明かにして且美術上の觀念あり合せて文學上の嗜好あるべく。最も交際の智識に富まざるべからず。若しかゝる人を得る能はずんば此官を置くは勿論全く無益の業となるべし。況んや此官は最も多額の年俸を與ふるものにして。然らずんば彼の交際社會に入りて十分に手腕を伸ばすに由なかるべければなり。斯の如き高給の吏人にして不幸其人を得ずんば。業系ゑを羅かざるの優れる郷邦かざるに至るべきなり。畧ぼ及び亞細亞に通じて有用矣々

べからざるは商業視察（コンメーシャルトラベラ）の旅行人を派遣すること是なり。こは農商務省の費用を投じて従事すべき所にして市場開拓上唯一の手段たるは疑を容れず。近年歐米諸國特に獨逸の如きはバルカン半島及び東洋諸國に之を派遣して、以來獨逸商業の進歩著しきを致せるは誰人も許す所にして、英人の如きはために之を慨嘆せるは事實にして疑ふべからず加之領事館を增置し浦潮斯德、天津、漢口、孟買、メルボルン等には總領事を派遣し將來更に領事を增置せざるべからざる箇所は米國のヲルレン、アデレイド、ブリスベーン（濠州）臺灣、福州、廈門、錢江、牛莊、西貢、盤谷、邏羅（黒海のオデッサ等にして其人を選擇し以て市場を開拓せしむべし。余漢口領事館閉鎖を論ずるに當りて曰く今日英佛其他の國が支那商賣的現今の中心點なる内地即ち上海等に於て盛に業を營みあるは偶然の故にあらず。蓋し英佛の如きは鮮血を流し巨資を費し而る後始めて其市場を開拓し得たる者也故に其基たる牢として磐石の如く礎たる能はざるは明かなる狀勢なり。故に一歩を本人が輕資袖手もて此間に入り英佛を凌駕し以て市場の主權者たらんことを望む如きは空望にして免の角上に有り得べからざる道理とす。由て按ずれば今にして

て日本が上海に於て頭首を十分に擡げる能はざるは明かなる狀勢なり。故に一歩を轉し日本人は英佛の未だ跋扈跳梁せざる支那内地將來の中心點なる漢口に向て先鞭を着け以て堅く商業的の基礎を此地に建築し以て後日を追ふて來る英佛人の頭首を抑制し而して主人公たるの計をなすに若くはなき也。

斯の如きの基礎を建築せんとするは領事館なりとす。然るに我國の外交上に議をなす人の誤解せる領事館とは單に居留地人民に關する事務を取扱ふ役所なりとのみ思念せり然れとも既開の市場に關する事務を取扱ふものなりとの見解は恰も全豹の一斑を指さして是れ豹なりと云ふの類の如し是れ豈全體ならんや領事館の進んで當さに爲すべきは既開の市場に關せる事務を取扱ふに止まらずして更に市場を開拓するに務め勉めざる可らず。白耳義獨乙の兩國が諸邦に領事を置く亦此政策に出つ然るに我外務省は昨年既設の漢口領事館を閉廢せり。是れ我國を商工國として觀るときは最も盲目的政策にして只管目前咫尺の打算に着目せるに過ぎざるは以上の說敎に對照せば必ず瞭然たらん若し夫れ深遠快大の方針を取んと欲せば宜に閉廢すべからざるのみならず

既設のものを一層發伸し領事其人の如きも精選擢任して漸々に日本か東洋の商工國として卓立すへき基礎を建築せさる可らさるは未た識者を待て後に知るへき事柄にあらす(中畧)況や英國印度を敵として他日支那內地に一大商戰を試んせと欲し而して其戰場の地理形勢人情風俗を詳悉せすして寸前暗黒而も戰に勝たんと欲するは無理なる望みなるに於てをや且つ此間の商戰にして一敗地に塗らは我日本は復た東洋に商工業の實權を握る能はさるなり再言すれは東洋に嚴立して覇權の實を掌握するを得さるものなり愼戒せよ[illegible]

[illegible]日本の禮服を改良する事[illegible]

大凡一國として各國の間に獨立する以上は各其國の特性を現はす所の禮服なかるへからす獨には獨の禮服あり英には英の禮服あり佛には佛の禮服あり我にも亦我の禮服なかるへからす然るに我國の一たひ歐米諸國と交通を開きてより西洋の禮服を直ちに取て之を用ひ婦人にも之を用ひしめたり男子の禮服は兎も角もこれすら別に我の禮服を造るへき害なるに況んや女服に至りては宜しく速かに我國固有の禮服に變せさるへからす何となれはこれ一は經濟上の點よりしも一

は國威發揚の點より然らざるべからざるものあればなりこれ蓋し彼の國交際社會の何たるを明にするもの々熟知する所なるべし。[illegible]

我公使館々員は交際社會に出でんかためには服を製すると一年に三たびせは事足るべし一着は其價四十若くは五十パウンド内外ならん。彼の國の人すら一年三着を作るに過ぎざるべし。且彼國の婦人は衣服をも左程の装飾を用ひざれは衣服につきては日本人も非常の不都合はなからん。左り乍ら此衣服に添ふたる他の飾か物即ち頭髪若しくは頸等に用ゐるもの最も大切にして之を分て二種とす。一は非常に金目のかゝれるものと二は歴史を有せるものと是なり。なほ詳しく之を言へばダイヤモンドを加へたる一箇の價一万圓二万圓若くは三四万圓の装飾品の類にして他に其品物の價はなきものなれども或は其家の祖先の用ひたるもの或は祖先の國王より給はりしもの或はナポレオンの用ひたるもの或はエキザンドルの出發の際オリツセルの夜會に家人の附け出でたりしもの又は埃及國王の附けたるもの女王の持てるもの羅馬時代のもの希臘時代のもの等の如き實際の價は四五圓に過ぎざるものにても歴史上の理由附のため何千圓又は何万圓の價を

有つなり。苟くも交際社會に出でんとするには必す此等の物品を所有せざるべからず。それとて日本人なりとて一箇二箇ならんには求め得可らざるにもあらざるべし。然れども中々一箇二箇にては足るべうも覺えず。然れども彼國人は固より此事の新に始まれるにもあらざれは。先祖以來讓受けの者も多く。若き婦人の結婚の際友人の進物として之を送るの習慣もあり。又は遺言にて之を送る人もあるべく種々の事情よりして。十箇二十箇は人皆有すると。なれば。政治上の集會宗教上集會又は文學家慈善家夫れ〳〵の集會性質に應じて能く之を運用し。今日つけたるものは明日亦用ゐず皆各其運用するは彼の交際社會に於ての一種の技術なり。故に歐洲交際社會にありて必要なるは衣服にあらずして裝飾品にあり。然るに日本公使館の婦人等にして僅かに一ダース位の物を以て何時も何處にも之を用ゐるか如くんは誠に下等の極にして且つ己の他に劣れるを自知するときは自ら卑怯の氣を生じ力を十分に伸ばすに由なく。何時彼等と對等の交際をなし得べきにや常に顧の上からぬとのみ多し。されはとて今更斯る品物を十個廿個買求むべきにもあらず。否な若し直言を憚らざれは一個すら之を求むるの力なかるべし。夫れ斯の如し

日本公使館の婦人交際社會に出づるとを嫌ふも亦無理ならぬ次第ならずや。されば若し今日之を改めて彼の緋の袴西陣の織物にて彼のものの宮中の禮服樣のものを造らは僅かに七八百圓にて之れを仕上ぐることを得べく。如何に美術の巧を盡すも千圓を費さば立派に造り上げらるべし。此二千五百年間慣用の衣服は敢て其外に別段の裝飾を要するにもあらず。且一領の衣服は時に從て毋子互に之を着するも不都合を感するとなく。何時何處にも此一衣服にて出席したりとて之を日本の慣例とすれば敢て彼等に恥づるの氣障もなく。日本は日本の禮服として之を通さば彼國に於て我のナショナリテーを示し國威を墮さゞるを得るのみならず。經濟上の利益は莫大なるべく。且つ市場開拓の一策ともなりぬべし。

余は唯に衣服のみならず。日本公使館の裝飾も亦日本裝飾品を用ゐるを可とするものなり。されば五六年前余の英國にありしとき我代理公使に建言したる所なり。大凡彼の王公貴人の集まるべき家屋には油繪等を用ゐるにもタピストリーの如き其他名家の手になれる所のものを用ゐざるべからざるか如き次第にて。西洋の美術品を以て公使館を飾るか如きは日本財政の能く及ぶ所にあらず。彼の小松宮殿下の

英國に來られしとき河瀨公使は饗宴を開かんが爲に階段を裝飾すべき花卉を一夜借りし爲に百廿パウンド即ち七百廿圓を要したることありき。然れ共若し之に代ふるに紫縮緬の幕などにて包みたらんには唯一夜のみならず今後幾年の用に供すべく且つ數等立派なるべし。加之かゝる王公貴人の集まる所には通路を飾るに我國の武具の類を用ゐ若くは織物等を歷史的に飾り我美術家の手になれる書畫等を用ゐなば。彼等をして我無比の美術を知らしむるに最も容易の道ならん特に彼の國の諸公使の如きは家財富裕にして能く自己の力によりて公使館の裝飾をなすを得べく。英の故巴里駐在大使リトン伯は自家の歷史的寶物を以て一室を飾りたる程也。日本公使の如きは到底斯ることのなし得べきにもあらざれど若し日本裝飾品を用ゐは僅に四五万圓にて滿足に成就すべし。先年嘗て英國繪畫共進會長サートマソ氏の筆は八千パウンド即ち我四万二千圓を以てサッチキスオーの府會まで買上げたることありき。なほ此一枚の書を買ふと思はゞ公使館の裝飾は仕遂げらるべきなり。これ唯經濟上に關し國體に關するのみならず又市場開拓の一策となるべし。其費用の如きは外務内務宮内農商務四省の一部より之を辨すべきなり。

第六　工業中心點——對歐米工業中心點——工業區及び工業主府規畫の必要——對東南洋工業中心點は九州に在る理由——農業策——我國は原品產出地にあらずして單に製造國たること並に我國紡績所沿革史——電氣使用製造——對東洋工業の種類並に著手順序——石炭將來の景況

我國對歐米工業の中心點は京都にありといふも誰か復た異議あらん。西國著々出秀て來濟々。古來我國文學上美術上の關係よりいふも。我國固有工藝品の泉源は此處にありしことは勿論にして。將來亦然らざるを得ざるなり。昨年十二月京都に於て余始めて工業對外策上の演說をなして曰く

滿堂の諸君若し夫古昔歐洲文明の中心たりし希臘のアゼンスに至るときは此都市の荒廢の亦否と論な皆な歷史を有するなりとの格言あるが如く余輩の京都に來りしときは亦恰も之と同一の感覺を起すなり。京都は實に日本文明の中心にして。此地に存する建築其他一切の事物眼に觸るゝ所のものは皆な余輩をして深く

我國の文明は皆な此源泉より湧出せしことを感せしむ（中略）特に我國固有の工業品の泉源は誰人も皆其京都にありしことを否拒するものなかるべく將來に於ても亦常に其泉源たるべきなり。

此他有田、名古屋、九谷、等各地方に其支部を見出すべし。今日我國實業界の缺處は工業區及び工業主府の判然規畫なきことにして此等の區及び主府未た規畫せられさるは則ち工業の發達を欠ける所以にして將來我國か工業の對外策を立てんと欲せは必す此區畫を定めさる可らず。現今我國商賣取引に三種あり。第一は現品取引にして第二は見本取引第三は商標取引なり。即ち長崎に於ける取引は現品にして神戸に於ける取引は見本、又横濱に於ける取引は商標なり。而して現品取引は一進歩して見本取引となり見本取引再進歩して商標取引となる。若し將來盛大に工業品を取引せんと欲せは必ず此商標取引に據るにあらされは不利不便甚しとなさす。而して此商標取引を活潑にせんとするには必す先つ工業區及び工業主府の確立せる後にあらされは能はさるなり。彼の英國のベンヨンハムセヒルドは鐵具及器等の製産地なり。而して白耳義亦能く鐵物を製出す。然れとも皆英國の商標を付して取引をなすな

り。是れベルミンガムセフヒルドは即ち鐵物及具に於ける工業主府にして白耳義等は此工業區と謂はさるを得ず。又例せは長野縣は生絲の製出地なるを以て其近地に産出せる生絲は皆諏訪なる工業主府に來り諏訪の商標を付して以て取引場裏に現るるにより。皆斯の如く特別なる工業品毎に工業區と工業主府と確立し。而して其關聯を絶滅せさるを要するなり。而して其工業區に最恰當なる工業を維持せざる可からず。

余は京都に至り實に此點より我國の工業を觀察せんと試みたりき。然るに悲しむへし我國固有の美術品の性質は今や漸く破滅せんとするの徴候あるなり。例へは京都の繊物會社の如き機を具ふると實に九十の多きに及ぶ。余曰く里昂の繊物は今日實に世界第一の地位を占むるものなり。然れとも余の實視する所によるも漸く十家にして七ツ八ツ若くは十の機を有するに過ぎず。然れとも日本人は皆里昂とせば其機場も極めて大にして機を具ふる五百六百に及ふならんと思惟す。されとも美術品あるものは固より違きを器械に置かずして。監督を精密にするを要すへく。百工百の機を備付けて美術品を造らんとするが如きは抑も誤れる考なりと謂はさるへからず。

ず。必竟是れ我美術品の資格を破滅するに外ならざるものなり。特に我美術品の西洋市場に獨歩すべき原則を破壊するものは西洋の機を用ゐ西洋の織方、西洋の仕上げ方、西洋の染方西洋の染粉等を用ゆるに原因せずんばあらず。而て自國のものを用ゐるは單に生糸のみに過ぎず。斯て果して歐米に出して里昂と競爭するの氣勢ありや。西洋の染粉は里昂我に優るか。其染方は里昂我に優る。織方、仕上げ方、總て彼は數百年來の熟練積成る。我の彼に及ばざる固より其處なり。生糸の如きは里昂の製造所にては日本生糸を輸入して之を使用するなり。然らば我は到底彼の上に立つの望なく。加之其輸入を防ぐの目的すら之を達する由なかるべし。何となれば縱令多少其價を廉ならしむるを得るも。僅かに一圓若しくは五十錢の差ならんには。舶來の方を選ぶは人情上已むべからざるものあればなり。されぱとて左程非常の低廉に寄行もまじ然るに西洋染粉に代ふるに我邦固有の染粉固有の染方織方を以てせば如何ぞや。余の博多久留米に至るや亦嘗て之を述べにき。久留米に至りては藍は古來のものを用ゐ遂や否やを聞ひしに。赤松社は然ありと答へぬ。余は永久に然あらんことを希ふ旨を述べたり。而て博多に至り其演說中に日本の工業對外策上特に歐米に對する工業品は。器械

的ならずして手指の運用を以て造らざるべからずと述べたるに。聽衆は皆大に之を賞讃したりき。乃ち其故を實業家に問ふに答へて曰く縣廳は近來博多織改良に熱し。器械場を建て職工學校卒業生をして西洋染色法によりて之を製造せしめんとし之を商法會議所に諮問したりしに商法會議所は大に之に反對したりしに。今日恰かも余が意見の之に合したりしかためなりといふ。依て更に其詳細を問ひしに抑も此博多織なるものは。其地の水の性質良好にして且藍の水に能く調和し。決して褪色せざる所の一種特色の者を生ずるなりと。余は依ていふ若し職工學校の生徒をして西洋染粉によりて西洋染色法によらしむるときは。これ博多織と呼ぶ可らずして宛然一種の西洋摸擬の織物となるのみ。斯の如くならば博多の地を必せず。京都にても亦之を織出し得るに至り。京都の方寧ろ織方の巧みなるに至らば。博多織たる特色何くにか存すべけん。從て博多織なるものは勢を京都の占むる所となりて博多に於ては却て衰ふるに至るも知るべからず。而して其外國に對する關係も亦之に同じ。改良とは惡しきを矯めて良好ならしむるにあり。能はざるに改良せんとす其害いふべからざるものあるに至る。此に一例證の示すべきあり京都河島某なる人。嘗て市場を開かんが

ために西陣織を携へて里昂に至り見本の交換をなして歸國したり。其結果として彼の國にては彼等は其我に及ばざる染物を化學的に分析して其織物の色合等を大に改良し。一進歩をなしたる程なりといふ。而して日本へ見本を携へ歸りし人は何の利する所もなく歸りたり。凡て工業品は其地ならでは出來ざる特別の産物あるときは宜しく之を秘して其方法を明にせざると必要なり。歐洲諸國に於ても其製造場中外人が出入を許さゞる室房を備ふるなり。斯の如くにせずんば自己の市場は徒らに他國のために奪はるゝに至らん。唯見本を交換する如きことなく之を彼國の博物館に出してでも他人の手を觸るゝことをゝ得べからざらしむべし。斯く各國皆別に有する所の特色あるいで。此特色を有すればこそ他に對して其獨歩の勢を逞ふするとを得るにあらずや。世界の市場に我が特性を保持するの必要なるは。蓋し弁を俟たざるものあり。

前段に述べたる如く我國美術品は飽まで其特色を固持し。世界の大市場に横行濶歩するを勉めさるべからず。と云ふ。人或は難せん。今日生絲の如きは手揖の運用拙劣あるを以て其製絲亦不精にして之を歐洲へ輸出するも精密の織物を製する能はず。

若し夫れ今日に於ける蠶絲の輸出をして益々盛多ならしめんと欲せば。必ず精巧なる西洋器械に依頼せざるべからず。と。夫れ然らん。然れとも是れ現今の事のみ。余か謂ふ所の方針は將來に重を置くのみ。試に思へ。我國往年は海外に向て只蠶種のみ輸出せるに過ぎざりしも。追漸進んで生絲を輸出するとゝなり。近來又一進して織物となして輸出するに至れり。現に手巾の織物業大に進み石川縣に於ては全縣産出の生糸を用ひ盡して九州の生糸を輸入し。福井石川群馬の諸縣に於ては殆ど二重織大に進歩し其輸出額の如き明治二十年までは一万五千圓になりしを昨年は百四十四万五千圓餘の巨額に上る。此勢よりすれば第二十世紀にも至らは必す生絲とゝして出すとなく。織物即ち二の工藝品として輸出するこゝとなるべし。果して此の如くならは我固有の製法即ち特色の藝術を抛て而して可ならんや。今日輕々に彼れに摸するは即ち世界獨歩の我健脚を自ら切斷するに同しき也。

次に我國が東洋に對する工業對外策。即ち十九世紀の器械的製造之中心點確定に付て述べん。既に其大本に論明したりしが如く。我國の器械製造品は之を以て西比利亜朝鮮支那に出さゞるは進て米洲の西岸に及ぼすべき者なるが。此大本より算出するときは。

今日我國の實業上特に工業對外策上の狀態は毫も此大本に合せざるものたるを知るに難からざる也。我國今日の工業は主として外國の輸入を防ぐを目的とし。工業對外策上の進取的思想は未だ我國人の腦裡に起らさるものに似たり。されば更に一歩を進めて東南に對する工業中心點確定の國策に移らんに。抑も十九世紀の器械的製造は石炭に依賴せすして出來得るものにあらず。器械の進歩と共に石炭を意其必要を增加する次第にして。實に十九世紀は石炭の時代なりと迄稱せらるゝに及べり。器械的製造の石炭と相離るべからざるや斯の如きものあり。然るに我國將來の製造を見るに。器械的製造の中心點は何れに定むべきやは。工業對外策上至要の問題たらざるべからず。而して之を定めんには計を石炭の產地に立てざる可らざるは明なり。故に九州若しくは北海道の地たるべきは亦知らるべし。然るに我國現今の紡績器械により之を見るに。東京地方の如き最も石炭に緣遠き地に於て之を建立せるは石炭の價の一倍以上の者を用ゐさるを得さるなり自ら工費を高くし。大に不利なるは言を俟たず。於是余の九州を以て器械的工業の中心となさんとするの意見を陳ぜん。

先つ石炭のより言はんに。三池紡績所にて用ゐる石炭は其價洋一万斤八圓三十錢にして廣島紡績所に用ゐる石炭は其價已に十圓五十錢にして。大坂に到れば又更に十三圓七十錢となり。愛知にて又更らに十八圓三十八錢となる東京鐘ヶ淵にては十六圓八十八錢となり。下野にては二十二圓となる四五年以前までは三池石炭の相場は三池と東京とにて凡て七倍位の相違ありき。石炭は實に其產地にては廉價なるべきものにして。唯運送上に至りて其價の騰るものなり。故に若し石炭產出地に製造所を設くることあらは。運賃及ひ荷揚賃等に又幾何を低減し。大坂に登りて二倍東京に至りて三倍の差異あるべし。而して現に今日の紡績所は一ヶ月五十万乃至百万斤の石炭を消費す。猶は少しく之を詳細にすれば。洋一万斤に付十二圓九十五錢の石炭を消費する大坂紡績會社を假りに三池に移して製造するとせは。半季間に七千八百二十二圓六十七錢の差を見る。卽ち該紡績會社の株主利益割賦金に對して大凡十一分の一に當る。又洋一万斤十六圓八十八錢の石炭を用ゐる鐘ヶ淵紡績會社を三池に移すとき見るときは。同半季間に七千九百五圓の差を見るなり。

鐘ヶ淵の如きは勿論洋一万斤十六圓八十八錢の石炭を用ゐれども。とは北海道幌內の最下等のものにして馬力上非常に相違あるべし。若し三池の紡績器械場にて用ゐ

る石炭を鐘ヶ淵に用ゐんとすれは一倍以上二倍の價に至るべし。唯石炭產地を離れて器械場を立てたるかため不利益を見る斯の如く工費の增加を致す此の如く。是れ我工業對外策上最も考へざるべからず。特に英國を敵手として東洋市場に勝敗を決せんとするには。十分に此に顧みる所なかるべからず。然れども是れ紡績所を以て例證したるのみ。若し夫れ製鐵所の如きに至りては一層の甚しきものあらん。即ち鐵一噸を溶解せんには石炭三噸を要すべく。東京に於て一噸の鐵を溶解すると。九州の石炭產地に於てするとにては。殆んと二十五六圓の差を見る。これ豈に能く忍び得る所とせんや。故に余の福岡に於て九州策を述ぶるに當り豫言して曰く今より五年十年の後には。製鐵所は必す此九州に建てられざるべからずと。余の英國にあるや彼の國製造の中心點を定むる基礎の何たるを調査せんと欲し。バッミンガム、セッフヰールド、リーヅ等の諸地に至りて之を實視せるに。其中心點を占むる所以のものは敢て海岸運送の便を以てにあらず。大都府と其の距離近きかためにもあらず。各地皆英國の中央にあり。大都府は製造所創設後に立てられしものなれは全く石炭の產地を以て其土台としたるものなりしことを了したり。現に石炭は各製造所の庭前より採掘せら

れ。又獨國クループ製造所の如きも同じ。されば今日の製鐵所の如きは鐵塊の出所よりも石炭の產地に建設せるにて十九世紀器械的發明は唯實に少しく石炭を使用して多く馬力を出すべき方法を見出すにありとは。一般製造家の考に入れる所なり。我國今日の諸會社の如く。一割若しくは一割半の利潤配當をなすか如き現狀にては。未た此に思考すべき暇なし。苟くも日本は東洋の工業國として立たんと欲せば。多くとも七朱或は六朱の利を配當するの時に至らざるべからず。若し此際に至らは今日すら五十万斤の石炭を消費する會社にてさへ七千圓餘の差ある程なれば。況して更に大製造所を起して百万二百万斤の石炭を費やすに至らは。之に伴ふて金巾、製鉄、羅紗、絨其他ドック造船等の事業を盛にすれは。必す石炭の慮り常に主とならざるべからざるに至らん。此に至りて器械的製造の中心は必す九州に移さるべく。殊に我國の東洋に對する商工畧上より然らざるべからざるものあるを見る。故に余の九州に下りたりし際其第一の目的は九州石炭の產地中何の地を以て此中心點を置くに適するかの在るかを知らんと欲してなり。而て三池地方其他筑後地方等其中心となりて製造所を盛大に擴くることを得べし。第一は熊本なり第二は佐賀なり第三は福岡の遠賀川

の下流近傍なり。而して熊本佐賀筑後地方の製造所は。支那に對する製造所となるべく。遠賀川近傍は支那北部及び朝鮮西北利亞に對する工業地となるべし。然れども若し我國にしてマンチェスターの紡績と競爭せんとするには印度支那綿を取らずして米國より之を輸入せざるべからず。エカラジア運河開通の後は米國南部の綿を入れて四十乎以上の糸を製造せずんば。英と東洋に爭ふと能はざるべし。此時に當りて其航路を取らんとするには遠賀川近傍最も其都合宜かるべし

遠賀川地方に於ける明治廿四年の總額高は十五億四千六百二十九万餘斤に及び。又二十二年九州全縣に於ける石炭産出高の統計を擧れは

福岡縣	三億二千三百六十八貫
長崎縣	六千七百四十九万九千二百〇七貫
佐賀縣	一億六千五百二十二万千四百八十三貫
熊本縣	一千五百七十三万五千〇二十二貫
宮崎縣	三万七千百二十貫
合計	五億七千百六十三万六千百六十八貫

之れを全國總産出高六億八十二万三千三十二貫に比すれは實に其の八割七分となるなり

現今右の量に過ぎずと雖も。將來は幾層を增すへし。又遠賀川石炭は其質多種にして。製鐵に宜しきものと工場消費に宜しきものとあり。又三池炭の如きは。油質多くして機關用に極めてよろし。

猶ほ九州地方の便利を擧くれは季候温暖にして四時勞働に益多く且つ製造所近傍には必ず川流の須要なるものに筑後川遠賀川は恰も玆に流過す是れ工業中心點に於ける天然の勝地と謂ふ可し

本に九州に製造地を置くの便は。唯に石炭の産地のみによるにあらず。なほ他に運送の至便なるあり。今日は實に其急速に行はれ。且つ低廉にして最も商業上に利益あるべく。僅少の時間にて之を運送し。資金の流通を十分に働かせざるべからず。加之距離の短縮は運賃の廉を示し時間を費やすと亦少なきを表するあり。面して我國が英國と東洋の市場に商戰して勝算あるは實に此點にあり。此點よりして九州を見渡すときは工業着外策上日本國内之れより好地位を占むるものあるを見ず。第一は市場第

二は製造原品の買收等に於ても前に述ぶるが如く市場は支那朝鮮西比利亞を相手にし進んで米國西岸に及ぼして以て實を制するを目的とすべく又英は其原品を印度米國濠州に取りマンチェスターの製造場に於て之を製造し再び東洋に持出すなり或は又此原品を以て英國にて製造し支那の上海或は西比利亞に送るときは我國より二晝夜にして能く此等の諸地方に送致し得るに比して其便否論するを須ゐず初め我國にありては國内の綿を以て製造原用に充つる考ありしも此綿糸は十六番以下大糸を造るとを得るのみなりしかは其後支那綿に變じたるも價貴く近來印度綿を入るるに及びて頗る便利を得るに至りしものゝ如し故に今日は先つ七八分は支那印度の綿を取れるものを見んも平先つ上海を以て起點と定むるときは上海より九州に至るの距離と九州より京坂に至るの距離とは殆んと相半ばせり現んや九州に製造所を置き其他の石炭を輸出したる船をして歸途香港上海より綿を積み歸るとを得せしむれは現今の如く石炭を積みし船の歸途空しく歸船するか如き無益の事なきに至り依て運賃も亦大に廉低なるべく若も京坂地方よりするときは斯の如きこと能はざるなり

若し夫れ石炭船の歸路綿を積で歸るか如きは三池紡績會社のなす所現に是なり將來糸を造り或は金巾を製して東洋の支那西比利亞朝鮮に出すとすれば上海より九州に至る距離と九州より大坂に至るの距離とは二と一との割合なるを以て從て製造原品及び製造品出入の運賃等にも此割合の差異あるべし一例を擧れは大坂に用ゆる綿と三池に用ゆる綿とに於て一貫目に付三錢乃至五錢の差あり之を積むときは實に巨額の差となるべし其他支那の北部より駱駝羊毛を入るゝにも又濠州より羊毛を入るゝにも米國の南部より綿花を入るるも九州を以て最近の地とあさゝるべからず次に職工の賃金に至りては製造等の盛なるに從て騰貴するものなれは固より一定すべからざるも今日よりいふときは一日平均男工二十四錢六厘五毛女工十三錢八厘五毛三池にては男工十五錢八厘三毛女工六錢三厘三毛にして差一人につき八錢一厘なれは大製造所を建て五百人若しくは千二千人を使役する上よりは非常の相違を生すべし此點より見るも九州の便利なるは明なり其職工の熟未熟に至りては大に大坂に劣るべきも九州職工は今猶ほ初期にして大坂職工は已に長年月間修錬したる結果なれは若も夫れ相

月を經なば九州入なりとて大坂に劣ると謂ふ可らず。見よ久留米博多は古來より繊物を以て名あるにあらずや。且つ佐賀の如きは堺段通に於ける本家本元なり。されば九州入れ精工なしといふ可からざる也。

次に又此に工業上の大問題は職工賃銀の高下の工業上に於ける競爭の一大原因となることより胚胎せる問題にして。我國の農業國たるの策は將來如何ぞやといふ是なり。世の我國を工業國となさんとするの人々は。皆我農國たるの性質を變じて工業國となさんとするも一般なり。されど余亦之に反して我農業國たるの性質を破ることをなさずして。其上になほ工業國たるの性質を加へんと欲するなり。今此點より觀察するに米の最も豐饒なるは亦九州の地なり。然るに大阪に來るときは其相場二割三割を貴ふす。乃ち高價の米を食はしむるはこれ賃銀の高きを意味するものにして。畢竟工業地の近傍に多くの米を產出するは即ち賃銀の廉きを暗示する也。此に我國の農業國たる性質を維持するは國家に取て利益あるか若しくは不利益なるかの問題につきて觀察するに。余は果して之を保持するの到底理由あるべき所以を知りぬ。又工業の開くるときは米の輸出は殆んど止まるに至るべし。蓋我國にして

工業國となりたらんには之を輸出するに反して寧ろ輸入するの勢を呈するに至らん。されば之に應せんがため北海道を開きて食物を作らんには其便利一層なるべし。今果して米を要すると此に至るべきや否やを證せんがために例擧すれば。筑前の若松港には。福岡藩の當時は十万石乃至十三万石の米を入れ置きて之れを大坂に出して賣却したりしに。今日は一粒の餘分を見さるのみならず。昨今年は北國米中國米三万石を入るゝに至れりといふ。而して其所以を尋ぬれば唯遠賀川の上流に開好たる石炭坑に使役する職工二万人夫を加へたるによるといふ。僅に此の工業のためにすら十万石の米を食ひ。なほ二万石の不足を告げて土崎よりなほ五万石を入るゝ不足を告げて。能代川上流の米は不足を告く驚くべきにあらずや。又秋田の能代に至れるに。能代川上流の米は不足を告げて土崎よりなほ五万石を入るゝ及び。從來秋田縣よりの輸出米二十万石なりしに近來は其五万石を減するに至れりとかや。而して其理由亦能代川上流に鑛山の開けたるに歸す。されば我國の工業國となりたるに於ては。最も必要のことは。農業を勵まして米穀を作り其輸入を來さゝるを期し。特に工業地の近傍に米を出すの考を施すことせざるべからず。此米に關する問題は決して日本のみの問題にあらずして。世界工業の一問題となれるな